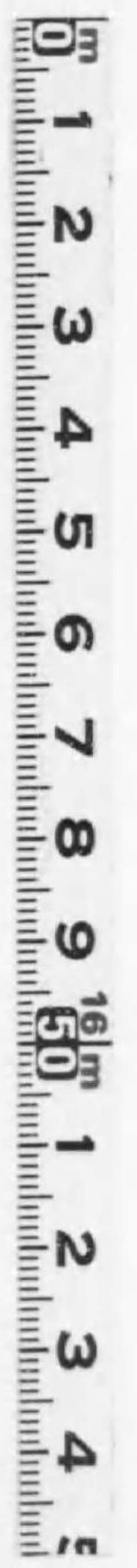


特116  
914



始

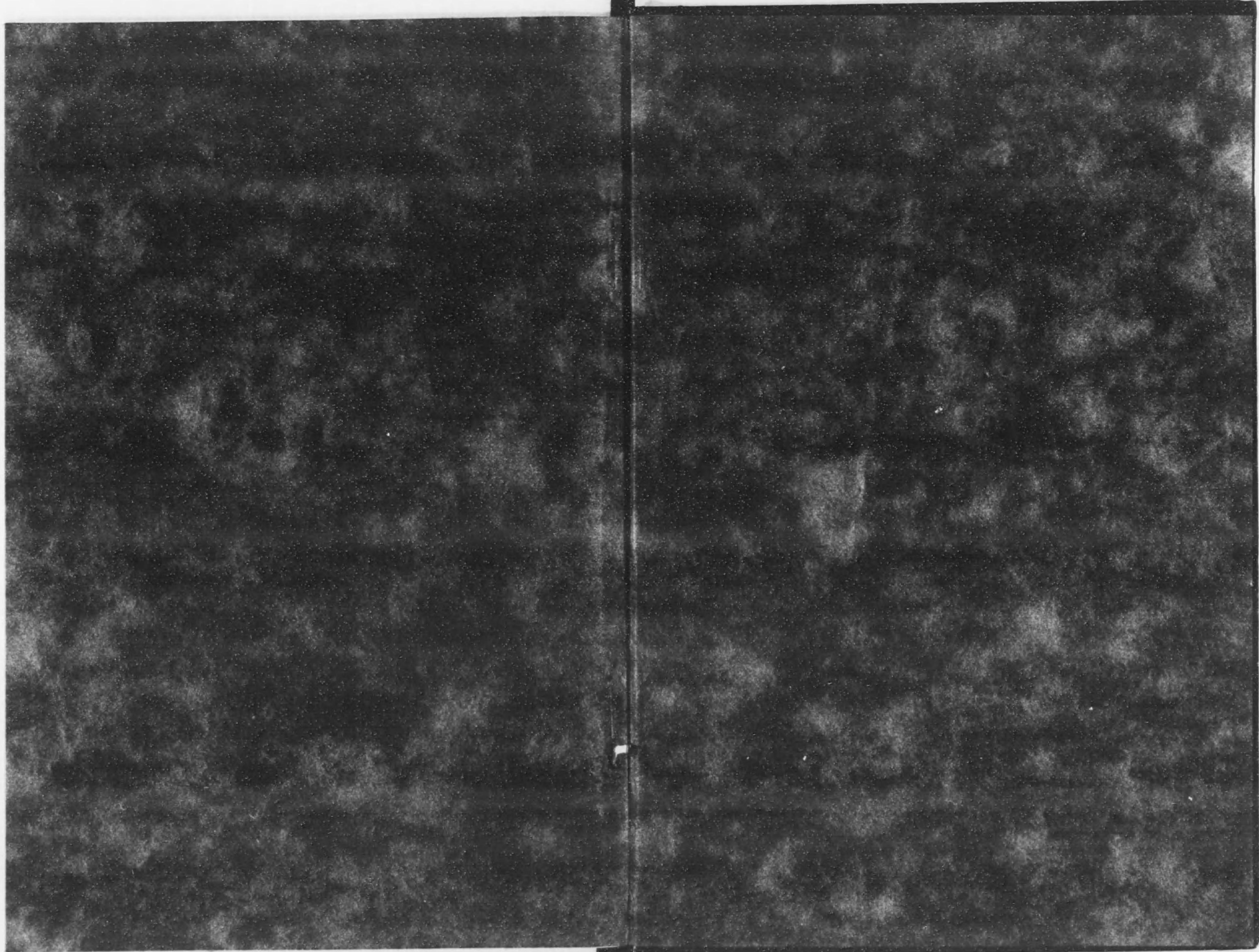




9116

914







## ▲▲ 卷頭小言 ▼▼

滿五箇年の長きに亘り結んで解けざりし大戦乱も時の力には遂に征服せられぬ万邦戦兵の慶洽く歎は寰宇に騰れり吾が帝國も戦勝國の一員として平和祝福の聲は域外に溢れつゝ、ありされと勝つて兜の緒を緊めよ今後來るべき平和の戦ひ即ち經濟戦は鐵火旗鼓の戦よりも激烈を加へむ戦争より平和に入れる此一大轉機に際し戦前より戦時に亘り異常に發達せる吾が市及び海南地方商工業の今後は如何に得た實業家の發揮する手腕は如何に君よ將來を察せむと欲すれば其の過去と現在を知るの要ある可し是れ吾人は平和の一記念として紀州人及び其事業の編纂を試み廣く世に紹介せむとする所以也片々たる小冊子輯めて多からず語つて詳かならずといへとも過つて平和戦に資する一助ともならは望外の幸甚のみ

大正八年七月下浣

編者しるす





特 116  
914

凡 例

- (一)本書第一輯は和歌山市及び附近の人物性行事業の一斑を叙述し是れを江湖に紹介せるものにして其の網羅せる範圍極めて狭少に止まれざるを遺憾とす、
- (二)本書は數人の手に依りて執筆せる爲め従つて文体一ならず彼に詳にして此に簡なるあり脉略なく秩序なく觀察淺薄批評平凡なるは汗顔に堪へず唯才十輯の完結を告げ更に一書に纂するの日を俟つて大に増補訂正せむ事を期す、
- (三)附録「在米紀州人月旦」は縣人の海外の發展の一斑を窺ふよすがともならずは望外の幸甚のみ、
- (四)最後に本書の發行に際し御援助を賜ひし各位に謝す、

陸軍の大功勞者たる  
遠藤和歌山市長



和歌山市遠藤慎司氏

巖々乎として雲表にそりたつ虎城々下に市宰として老論に抱らず嬰鏖元氣壯者を凌ぎ其の練達なる手腕克く九方の市民を悦服せしめつゝある遠藤慎司氏の前半生は實に吾が陸軍の爲めに其の万福の心血を凝ぎたるもの陸軍史上忘る可らざる傑人也いま記者は先づ遠藤市長の略歴を掲げん乎、赫々たる武勳の跡歴々として讀者の眼前に展開するものあらむ。

▲明治十二年七月七日任陸軍會計軍吏補  
▲同十三年三月六日叙正八位▲同十四

略 歴

隨行被付候事▲同十八年一月歸朝▲同年二月三日補會計局課僚▲同年二月十日奧地利國兼洪萬利國皇帝陛下より贈日暹地利國兼洪萬利國皇帝陛下より贈ヒステフカントツクソセツアルレールし及佩用する事を允許候事▲同年八月六日陸軍大學校御用掛兼務被仰付候事

年五月十八日勃國留學被仰付候事▲同十六年八月二十五日會計二等軍吏▲同十六年九月二十九日從六位▲同十七年七月二十日大山陸軍郷歐洲御中

▲同年十月十五日開選國皇帝陛下より贈與する王冠第四等勳章を受領し及佩用する 允許候事▲同十九年八月廿一日兼陸軍軍吏學令教官▲同二十年四月二十八日免本職補軍一等軍吏▲同二十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同二十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同二十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同三十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同四十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同五十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同六十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同七十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同八十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十一年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十二年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十三年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十四年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十五年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十六年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十七年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十八年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同九十九年二月八日免本職補軍一等軍吏▲同百年二月八日免本職補軍一等軍吏







## 紡織界の權威

### 和歌山紡織株式會社

歐洲戰亂の結果我國事業界は異常の發展を來し凡そ事業名前の附するものにして相當の利益を得ざるものなきの狀態なるが就中紡織業の如きは事業界中唯一の發展向上を爲しその配當率の如き或は擴張振の如き眞に世人をして驚嘆せしむるの基たらざるはなし、殊に我が和歌山紡織株式會社は南海道紡績事業中の筆頭に屬し近時の擴張は實に感するの外なく唯同業者間の羨望の的たるのみ

## 同社沿革大要と其組織

明治二十五年の秋和歌山市の有志は京都、大阪兩市の同志を誘ひ織布工場を和歌山市に建設せむとし發起ハシ募り協議を進めたる結果翌二十六年二月十五日資本金二十五万圓の株式組織とし和歌山織布株式會社と稱して設立し赤城友次郎氏社長となり本社を現址の和歌山市傳法橋南の丁三番地に置き紡機五千六百九十六錠

織機二百臺を裝置し明治二十八年四月二日營業を開始せり、而して明治三十八年

十月に至り陸軍省の御用製織の命を受けたり是より先社長は退き北向上兵衛氏取締役社長となり福美健治氏常務取締役に就任せり不幸福美氏歿せしより南楠太郎氏に襲ぎ常務取締役にとなり鏡忠事業の擴張及び刷新に劃し明治二十七年一月機械増設と共に従々軌々來りし織物製造



和歌山紡織株式會社社長 南楠太郎君

三十五万圓に増資せり越へて三十年八月海軍御用品製織の命を受け其以三十四年

天竺金巾類 方針を變更し和歌山市特産物たる綿ネーロ生地を製織し初の漸大信



増進し手分工場を設け燃系機を備へ之れが製造を開始せり。翌四十四年六月當百三十萬圓に増資し和歌山紡績株式會社を買取して「和歌山紡績株式會社」を改稱せり同時に北島取締役社長退き南楠太郎氏は社長に就任せり。各工場 擴張し大正元年八月捲糸機を裝置して莫大小原糸の製造。爲し翌二年二月素燃本株の特許を得る等々事業の實績。擧げると至れり大正三年一月更に資本金を倍加して二百六十萬圓として紀の川工場を建築し此程漸く竣工を見るに至れり。其の開業を期する事二十有五年奮闘激戦今日の結果を來したり。

### 現任重役と主なる社員

同社の發展は素より時勢の進運に在りて難し其の局に當るべき人物の能く時機に投ずるの才能あるにあらざれば到底能はざるは言を俟たざる處なり。此點において重役および社員は多士濟々就中重役の如く關西經濟界に重きを爲せる一流の紳商 網羅せり即ち取締役社長南楠太郎、取締役北島七兵衛同森久兵衛同大廻楠

之本同竹中源助同村政之丞、監査役浮田桂造同宮本吉右衛門同高橋彦兵衛同遠藤美之の諸氏なり。以つて如何に重役としての適材なるかを知るに足るべし幹部社員としては支配人に本多楠之助氏あり。工務長に土生信一氏あり此他本社工場長横川幸太郎手平工場長原田彦一中之島工場長丸瀬正明紀の川工場長吉見増次郎氏共に新進有爲の社員にして將來の活動舞臺としての和紡會社は適所ならずんばあらず。

### 立志傳中の楠南太郎氏

社長南楠太郎氏は海草郡吉原の産にして

### 和歌山水力電氣株式會社

和歌山縣内に於ける事業界の權威として聲威隆々たる和歌山水力電氣株式會社は明治二十八年五月の創立に係り當時資本金僅かに二十五萬圓に過ぎざりしも事業漸次發展し來り増資に亞ぐに増資を以つてし今や六百四十萬圓の巨資を擁し既に

紀の井寺名草山麓に於て育ち幼にして商業に志し竹中源助氏の商店に入りたるは氏の商業道に連れる振出しなり。爾來一貫専心店務に精勵し主人源助氏を赤心を以つて援けるに及び其信任頗る厚しに至りしが所別家となるに及びて獨立し種々の事業に手を染め成功もし時には失敗もせるが元來氣宇調達度量大なる氏は唯之れ商業道徳を固守して事業經營せる結果は遂に今日の地位を造るに至れり氏の現在に於ける社界的の地位及び對社會の總ては今更言を要する途も無く萬人周知の事實なれば茲に之れを省略すべし立志傳中の士たるは現代青年の探つて以つて學ぶべき處なり。

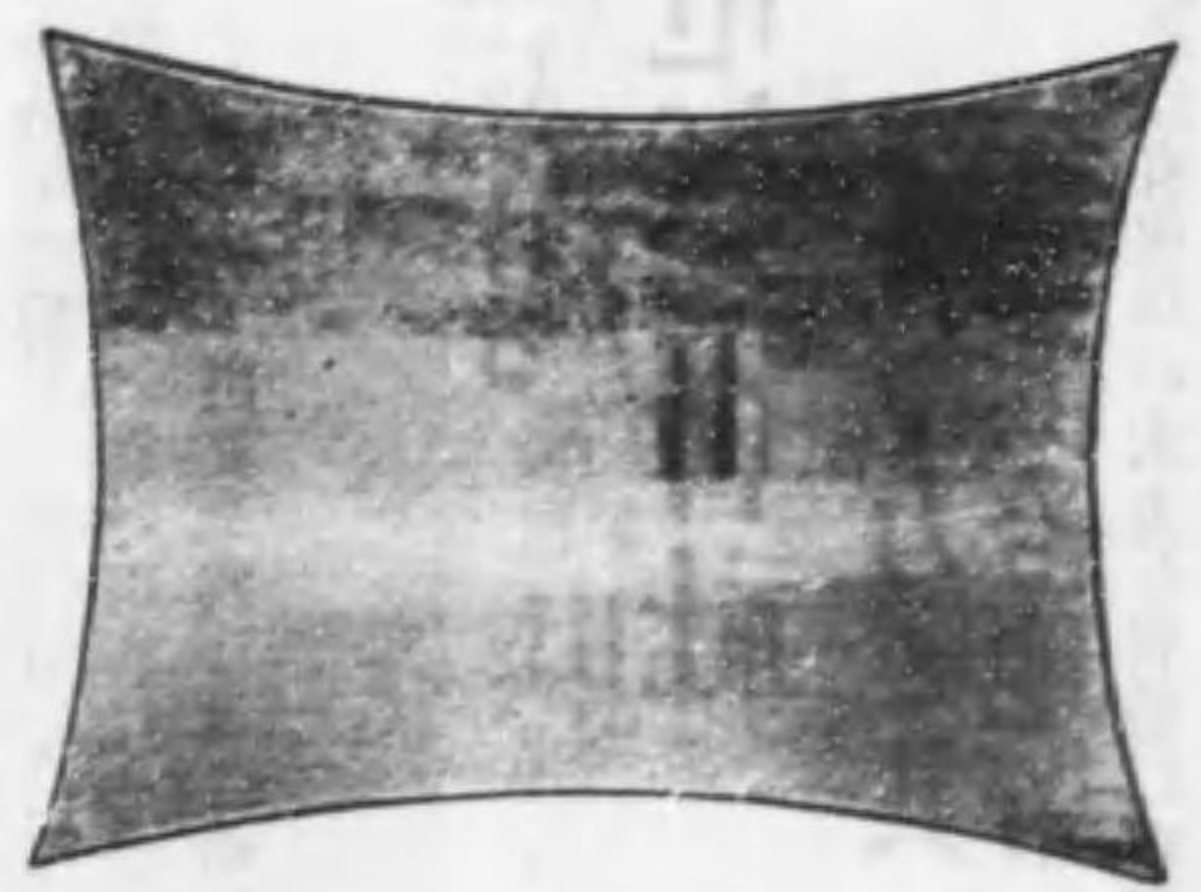
るものなり。同社に就ては世人既に周知の事に屬せるを以つて事業概要の一端を紹介せし其の概氣あり堂々たる事業を見るに足るべし。

### 起業の概要 電力供給地

日高川に於ける發電所は既設二箇所、出願四箇所にして其の概要を示せば左の如し。

- ▲第一 發電所：日高郡川上村、字上越方に在り。明治四十年八月に竣工し發電機四臺、内一臺は豫備を備へ、付發電力百一十キロワット。
- ▲第二 發電所：日高郡新着村、字高津尾方に在り。大正二年四月の竣工に係り發電機三臺、内一臺は豫備を備へ、付發電力百一十キロワット。
- ▲第三 發電所：日高郡新着村、字高津尾方に在り。大正二年四月の竣工に係り發電機三臺、内一臺は豫備を備へ、付發電力百一十キロワット。
- ▲第四 發電所：日高郡新着村、字高津尾方に在り。大正二年四月の竣工に係り發電機三臺、内一臺は豫備を備へ、付發電力百一十キロワット。

と雖とも尙ほ且つ不足の状態なり。蓋し四箇所の發電所設立の出願亦以つて故にしとせざるなり。而して之等水力發電のみにては一朝洪水の不幸を見或は故障の生じる場合に於ては需要者に迷惑を及ぼすを憂は豫備機關として和歌山市外手平



和歌山水力發電所

に二千、キロワット」の火力発電所の設備を爲し不時の故障萬一の場合に備ふ

### 電力の供給と電車事業

▲電燈 和歌山市内、海草郡の一部即ち六十五箇町村に於て大約六萬七千燈の需要に應じつゝあるも日々の中込み頗る多くために數百名の専任技術者も日夜が投せらるゝの盛況なり尙ほ六萬燈の増加を來す見込みなり。

▲動力 和歌山市内、海草郡の一部三十五箇町村に於ける各種工業家に對し大約五千八百馬力の供給を爲すと雖ども之亦制限を附せざれば今後の需要に應じ難く状況にして將來八千六百馬力以上の増加を來す見込みなり。

▲電車 和歌山市界より海草郡日方町に至る約六哩の線と和歌浦町より同町字出島に至る所新和歌浦線 有し年中種々の催物、爲して地方人を誘ふ。又は和歌浦、紀の井寺、新和歌浦の如く天下の名勝、廣く遊覽客を招きしつゝあり。

▲出願中に係る發電工事 電燈電力、充分に需要、充たし併せて將來の需要家に應ずべき目的を以つて左記の如く計畫を樹立し目下其筋の許可を申請中なれば近く許可さるべしと信ず。



▲第二發電所——日高郡船着村大字六十本に設けて七百五十「キロワット」を發電せむこと  
 ▲第四發電所——同郡船着村大字船津に設けて七百五十「キロワット」を發電せむこと  
 ▲第五發電所——同郡川上村大字福湯川に設けて一千「キロワット」を發電せんとす  
 ▲第六發電所——同郡生村大字松瀬に設けて六百「キロワット」を發電せむこと以上合計發電力二千五百「キロワット」にし

### 名聲隆々躍進の途に在る

## 南海水力電気株式會社

南海地方に於ける事業界は近時著し、發展を來し既設各會社の外株式組織の事業額に其數を増すに至れり、之等事業に必要缺くべからざる電氣動力は懸つて南海水力株式會社に俟たざるべからず、同社の如何に南海地方に於て重要視せられつゝあるが推して知るに足るべし、海草郡日方町東端に宏壯なる、社屋を新築し客年春季本社を移轉せり

て右を日高川筋の發電力にては和歌山市内外縣内電燈動力の需要を満足能はざるを以て更に奈良縣吉野郡十津川筋に於て十津川第一水力發電所を計畫し其筋の認可を得て近く工事に着手すべし其の豫定動力四千五百「キロワット」其の他奈良縣三神納川に於て一千二百「キロワット」向は縣内北山川、熊野川筋に於ても設置すべく之亦目下出願を爲し設計中に屬す

### 發電力と其の供給地帯

同社は有田川の水力を利用し有田郡石垣村に發電所を設けて四百五十「キロワット」發電機を据付け別に二百「キロワット」を豫備とす、其の原動機は垂直式水車にして有功落差を最も經濟的に利用せる所新界稀に見るの良設計たり發電設備費拾五萬六千圓一キロワット當り建設費僅々二百五十圓にして同社は事業經濟上常に

餘裕綽々たる海に理由ありといふべし其の供給區域は海草郡那賀郡有田郡の三郡二十六箇町村に亘り電燈一萬七千餘馬力六百十六馬力外に自家用電力二百九十馬力供給せり

### 過去の歴史と其資本金

明治四十年現重なる處の取締社長土山郡兵衛兵務取締御前七右郎右衛門・取締若尾保回御前八郎監查役森田善次同本村政植支配人本村増三諸氏の發起の資本金六十萬圓 以つて創立し四十一年より開業したるが一時經濟界の悲境に遭過し資本金二十萬圓に減するに到りしが明治四十五年再び三十萬圓に増資し一昨年六月一躍百萬圓に増資し一大活躍を示しつゝあり、而して四十三年十二月頃電燈數僅かに四千六百餘電力四百六十馬力に過ぎざりしが現在一萬七千餘馬力となり電力に於ては織布起毛除虫菊製材精米の各工場増加に伴ひ六百六十馬力に増加し尙ほ不足なるを以つて和歌山水力電氣株式會社より二百「キロワット」の電力を購入しつゝあり

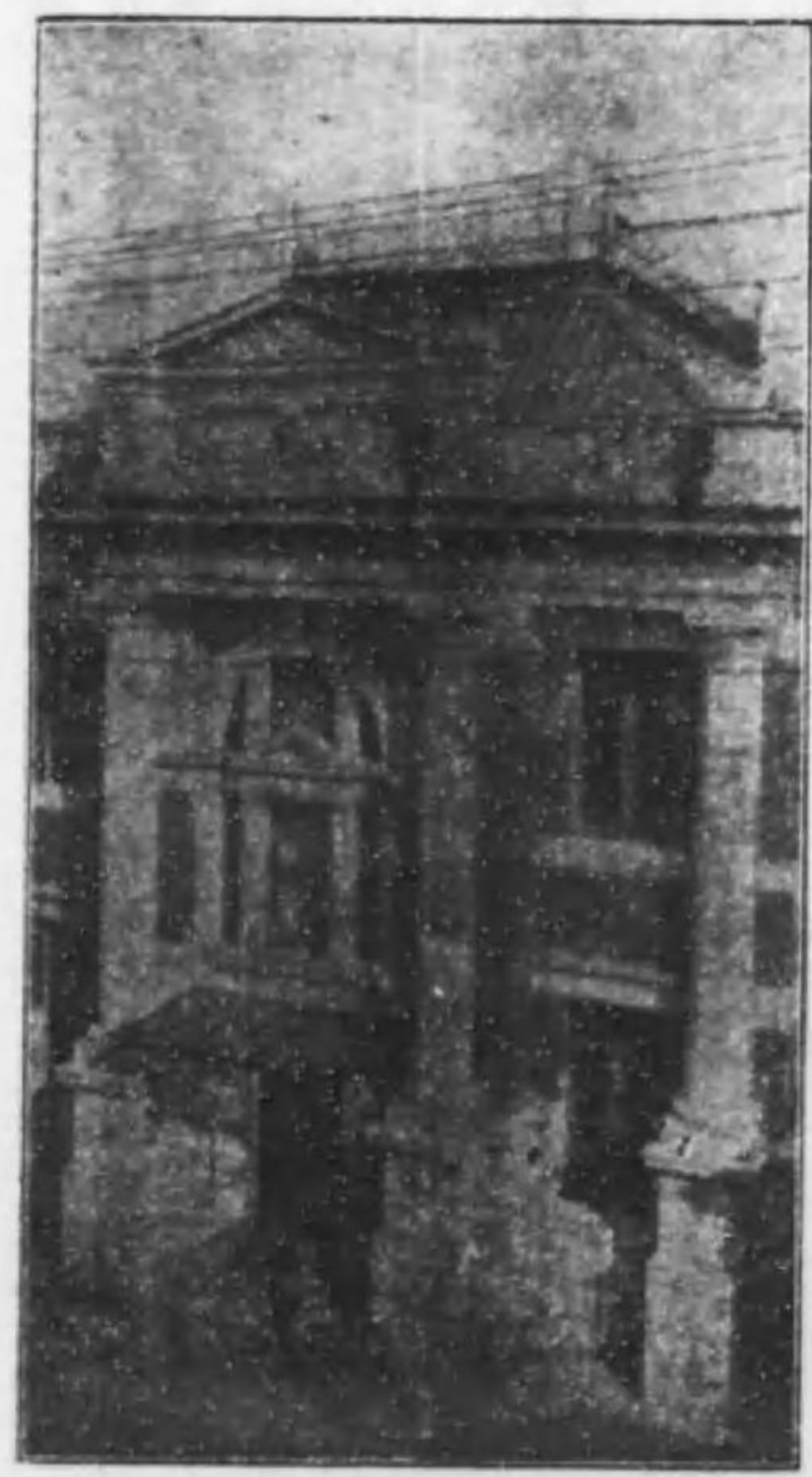
### 將來の施設 重役の活動

同社は七百「キロワット」を出すべき第二發電所を同郡岩倉村に建設すべく豫て其筋へ許可申請中の處此程認可ありたるを以つて本年六月より工事に着手せり蓋し竣工の發見尙に遅延たり而して二千五百「キロワット」を出すべき第三發電所を有田郡八幡村に建設すべく目下其筋に認

可申請中なれば近く許可あるべしと信ず社長土山郡兵衛氏は資性温厚圓満の士なるも經濟的手腕に至つては南海地方に於て稀に見るの人たり常務取締役御前七郎右衛門氏一見當世向のヌーボー式の士なるも機を見るに敏なる好く同社長を補佐するに適せり、此二氏の努力は遂に南海水電會社をして今日あるに至らしめたるものと言ふべく吾人は竊かに敬服せる處なり

## 支店銀行の霸王 株式會社浪速銀行和歌山支店

和歌山市本町二丁目に巍然たる洋館は株式會社浪速銀行和歌山支店なり同支店。明治十二年八月株式會社和歌山銀行を買収し同年九月より浪速銀行和歌山支店と改稱し當時和歌山銀行頭取たりし久高幸徳氏支店長に同事務取締浦野誠太郎氏支店副長となし其の後明治四十四年十一月久高氏病歿するや前田時二氏は支店長となり同時に三井銀行支店を買収し移轉し更に倉庫數ヶ所も増設し着々業



浪速銀行和歌山支店

務擴張をなし來れるが大正六年七月前田氏は同行取締役となりたるを以て當時副支店長たる浦野誠太郎氏は支店長に就き今日の隆盛を見るに至る同行資本金は一千万圓積立金四百萬圓にして全國支店十九ヶ所を有し我國金融界の重鎮たり同行の前身は三十二國立銀行にして當時平瀬龜之助氏頭取として専ら營業をなし來れるのみか東京、堺の兩地に支店を設け明治三十一年國立銀行營業滿期と共に第五國立銀行と合併し資本金二百四十萬圓に増加したり其後明治二十四年に至りて大阪明治銀行、大阪共立銀行、大阪商工銀行と合併し資本金四百萬圓となす日露戰役後我が國財界空前の膨脹を告ぐ



るの資本金を七百萬圓に増加し和歌山銀行を買収し和歌山支店を設置し行務の進展は難波に、北に、九條に更に福岡に支店を置き五年一月に資本金一千四百萬圓

纖維工業界の雄

玉置綿布工業株式會社

玉置綿布工業株式會社は關西第一の綿ネル製織會社たる事は世人周知の事實なり此業ある會社を我縣内に有するは吾人の誇りとし又所在地たる海草郡内海村民の意を強めス處なり

沿革の概要

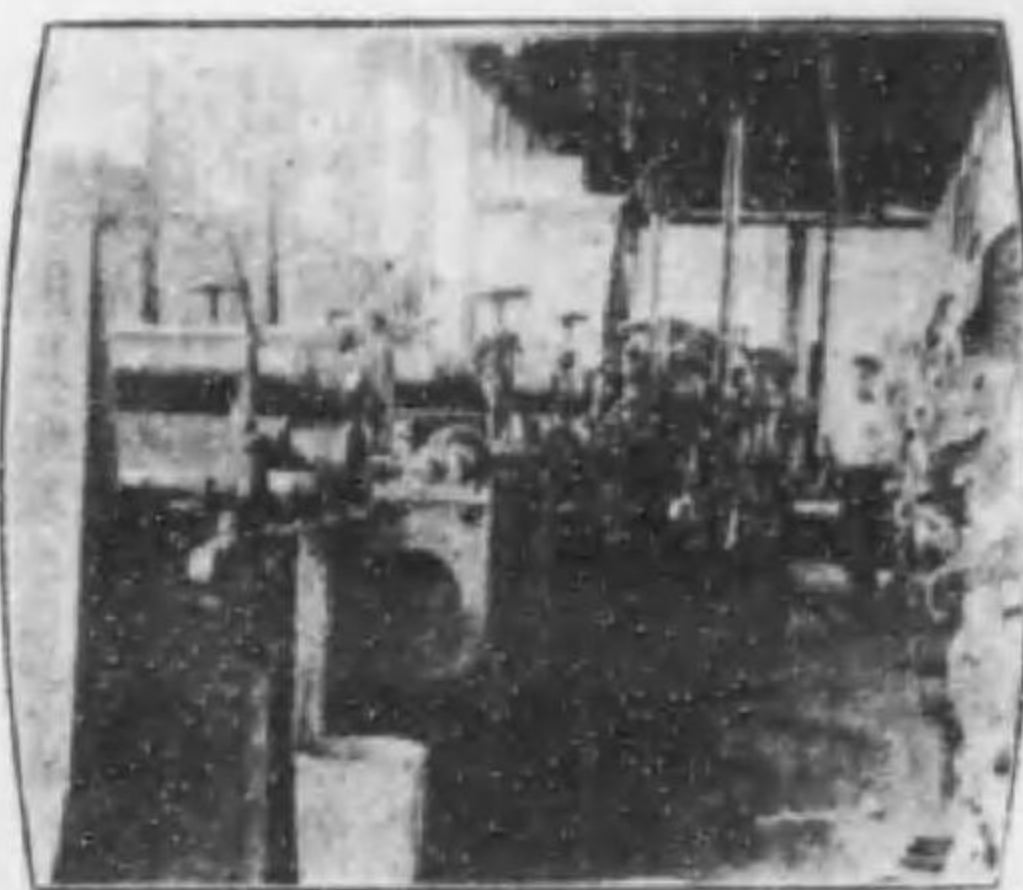
同社は明治四十四年現社長玉置吉之丞氏獨力を以て設立し玉置綿布工業所として綿ネル生地を買入れ加工するのみならず時勢の進運と共に綿布の需要頗る増加するに至りてより經營者玉置氏は茲に見る處あり織機を備へて自家に於て生地を製織するに至れり、爾來此計畫は成功し擴張に亞ぐに擴張を以てし巨額の利を

となし最近九州實業銀行を買収して熊本支店を設置し又下の關馬關商業銀行を合併し資本金一千五百萬圓となし下の關に支店を設置し今日に至れり

收むるを得たり、本年一月株式組織に變更し資本金百萬圓として六十萬圓の拂込を了し玉置綿布工業株式會社と改稱せり其重役は

- 取締役社長 玉置 吉之丞
- 事務取締役 仲谷 辰次郎
- 販 縮 役 吉田萬右衛門
- 監 査 役 玉置 文吾
- 同 平林 寅藏

同社の工場は内海村に於ける本社工場を初め和歌山市東針貫町和歌山分工場、大阪府泉南郡日根野村日根野分工場、同郡雄信村雄信分工場の四工場にして尙此外同郡尾崎町に尾崎分工場の建築中なり、



綿ル加工水洗實況

日根野、雄信の二分工場は生地の製織のみにして本社、和歌山の兩工場は主として捺染加工を爲す、而して新築中の尾崎分工場に一萬錘の紡機を備へて紡績事業を營むの計畫なり、加工用機械としては片面六色捺染機一臺、兩面三色捺染機一臺、起毛機十二臺、水洗機若干臺あり、

以て其の規模の大なるを知るに足るべし  
**重要販路と**  
**代表的製品**  
 最も大々的に取引せらるる販路は大阪にして其取引先は關西財界の明星たる伊藤

万、伊藤忠、田村陶其他數十に及べり東京にも相當の販路あり、和歌山市の商人は競みて同社の製品を賣弄すつゝあり蓋し品質の真好と市場に於る名聲ある所以ならむ、尙ほ製品に附する代表的商標は無地綿ネルの葵二百番あり之れ最も斯業者に喜ばれつゝあるものなり、捺染物には大準あり、サンライズあり共に市場に於て名聲を博し同品を風靡す、昨年中の生産高四十八万反に及べ之れを價格に見積る時は實に七百二十萬圓の多きを算す、之れを以て見て如何に同社の事業の躍進せるか想像に余りあるならむ

玉置社長の略歴と資性

玉置吉之丞氏は海草郡内海村の産にして同社取締役百田万右衛門氏の令息なり、學業を終へると同時に雄圖を抱きて米國に渡り遊學事數年廿三歳にして歸朝し玉置家に入る、資性温厚着實にして同情に富める好尚の青年紳士なり、多くの社員と職工は一人として氏の抱すべし温情を堆積せざるものなりは其人の性行を語るもの也、氏初より巨費を擁して綿布業を始めたるに非らず而も今日の如き大成

功を贏ち得たるもの實に商略に長け機を見るに敏なるに因るべし、氏が個人の大事業としては最近其筋より認可せられたる内海灣理立工事の如き最も顯著なるものなり、昨年居村公共事業に五千圓を寄

堅實なる歴史を有する

株式會社和歌山倉庫銀行

株式會社和歌山倉庫銀行は和歌山市十二番丁に在り近時和歌山銀行界に雄飛し江湖の信用を博し居れり同行は明治廿六年六月の創立に係り當時和歌山倉庫株式會社と稱し倉庫業のみを經營せるも廿八年九月に至り銀行業をも開始し會社の組織を銀行及倉庫と爲し銀行兼營和歌山倉庫株式會社と改稱爾來事業益々發展し和歌山商工業界に重きを爲せり、更に大正元年一步を進めて名稱を和歌山倉庫銀行と改稱し現在の宏壯なる洋風の建物を新築し他銀行と其覇を競ふに至れり

資本金と主なる重役名

會社は創立當時資本金僅かに三萬圓に過

ぎざりしが爾來事業の發展と共に二十九年五萬圓に増資を行ひ更に四十四年十萬圓と爲し進んで大正四年二十萬圓に増資を斷行して着々其の歩を進め今日在るに至りたるものにして其の事實なる組織は世人の既に定評ある處なり、現頭取津村紀隆氏は先代重兵衛氏の歿後其後を襲ひ今日に至りし人にして取締役前局長大郎氏之れ亦嚴父の歿後繼續して事業を管掌せるものなり、其の資性着實にして、精勵、敏腕の間之高し現支配人宇治山眞作氏は創立當時より支配人に選任せられ今日迄精勵せり同社の双壁として重きを爲しつゝあり  
 現在の預金額五十萬圓に達し居れり更に同行にては昨年竣成したる十二番丁の倉



庫及橋町外市内敷箇所に大小の倉庫を有し新時代に於ける模範的營業振りを示す

和歌山經濟界の恩人

### 垂井清右衛門氏

#### 履歷の概要 と其の人格

垂井家は代々紀州家に仕へたる由緒正しき家筋なり清右衛門氏は万延元年六月を以つて生る幼名を清之助と呼び現在の縣立和歌山師範學校の前身岡山學校卒業後專ら育英の事に従ひしが家名を襲ぐに及んで質商を經營せり、氏英邁の資卓越の才群を振る然も思慮周密なり其度量宏碩來るものを拒まず、去るものは追はず、汎く容れ冷く收めて其中に鑒識する所あり且つ氏は文雅の才に富み俳句を能くし逸水と號す書亦巧み也

#### 經濟界に於ける氏の貢獻

明治二十一年和歌山市に商工談話會を起し其副會頭に推されたるを振興出しに二

十二年選ばれて市會議員となり、爾來再選に再選を重ね四十二年迄市政のため盡瘁する處ありしも後輩者のため勇退して專ら力を實業家に致せり二十八年染工所

垂井清右衛門君



を設立して瀛器を備へ紀州綿糸の加工に努め大なる成功を收む、之れ即ち和歌山市に於ける染業の嚆矢にして時の縣知事野村政明氏より表彰せらる翌二十九年和歌山電燈株式會社の創立に努め推さ

れて社長となりしが三十八年和歌山水力電氣株式會社に譲渡するに至り同社の取締役に就任現に其の職に在り越へて三十七年和歌山商業會議所會頭に推れ爾來今日に至る迄和歌山市の實業界に盡瘁するに寧日なし我が市の恩人といふも敢て溢美に過ぎたる言ならざるべし氏が現に關係せる會社、銀行は和歌山水力電氣株式會社取締役、南海鐵道株式會社取締役、紀陽貯蓄銀行監査役、南海倉庫株式會社社長なり以て氏が實業界に於ける位置を説明して余温なげむ

■講家青木梅岳氏 山紫明水の藤白山麓に居、携へて悠々自然の天地を眺め、彩筆を揮つてゐる青木梅岳氏は奇聲反肉の風發と共に又海南の一偉人と稱へられてゐる。

■角田宇兵衛氏 海草郡日方町の大商略に長け海南地方の各銀行會社に關係を有するも雖も何故か悉く不振の域に在り現在木材會社の創立に盡力しつゝあり、氏資性温厚なれ共小利に傾き大利を遂するの性格なり、されど海南事業界に必要缺くべからざる人材なり

### 和歌山縣下唯一の

### 肺結核専門病院

縣下唯一の肺結核専門病院として乃世界に曠々の名を馳せつゝある野上病院は天然の氣候新鮮なる大氣を利用して且つ位置を背へ、居ながらにして空氣浴日光浴を受け得る山地氣療養所にして呼吸器病患者の轉地療養者を收容し「ナレメール」デットソイレル其原則的自然療養、衛生營養療法一を行はしめ兼ねて免疫學的治療を加ふるを目的とせり

◆野上病院 本院は和歌山縣那賀郡野上電車終點地にあり、長峯生石山脈と龍門連山の間、山岳重疊せる山間の一都邑東野上村動木の丘上に宏大に建設せられ、貴志川の清流脚下を流れ四季の眺望絶佳なるは他に多く比類を見ざる所にして紅塵に疲れたる患者は山に河によく田圃生活の快趣を味ひて嬉々たり

◆出張所は 和山縣の首都和歌山市扇の芝にあり、市内電車扇の芝停留所を扣へ交通の中心たり、外來患者のみを取

扱ひ居れり、本院に至る交通の順路は先づ和歌山市に入るを便とすべし、これより市内電車日方口終點に至り、此處にて野上電車に乗換へ三十分にして野上終點

西宮寅之進君



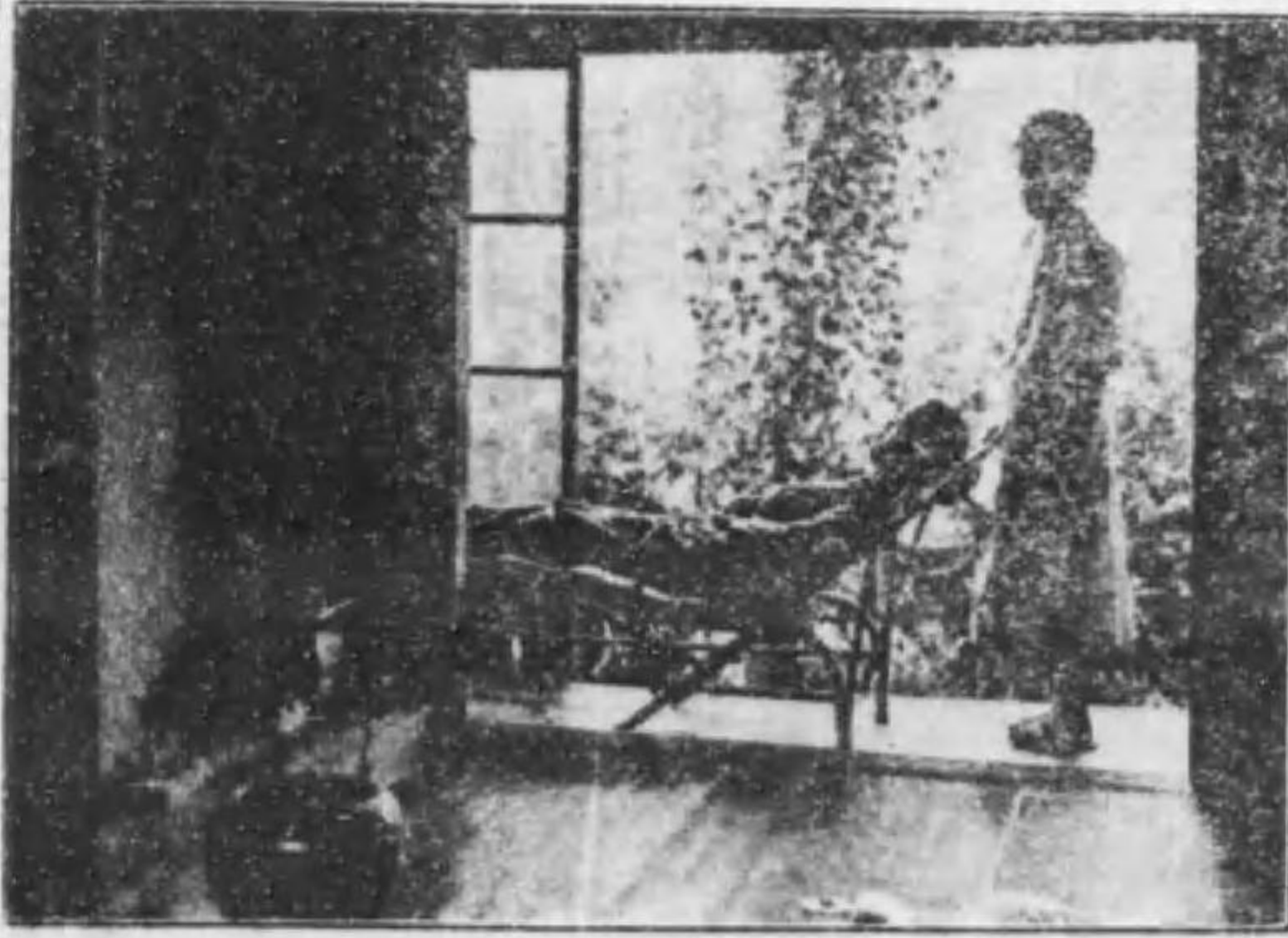
に至り數町にして本院に達すべし診療は左記表に依る

本院 日、火、土曜日 午前院長  
午後副院長  
月、水、金曜日 午前副院長  
午後院長

出張所 火、木、土曜日 午後院長

◆院長略歴 院長西宮寅之進氏は和歌山縣那賀郡眞國村の産、其先祖は佐竹家に出づ、年九才笈を負ふて郷、出づ各

療養の光景



地に學ぶ、明治四十三年岡山醫學專門學校を卒へ、肺結核病の人類に及ぼす慘害を審に調査研究を重ね結核亡國論著し



、肺結核の治療と豫防に就て高唱し、或は菅井博士と肺結核化学療法の研究を共にし、或は百瀬博士の肺結核研究所にて免疫療法を研究して、歸郷、堅固なる信念と大なる抱負の下に現在の地に野上病院を設立し呼吸器専門を以つて立つる來

## 和歌山綿布株式會社

### 驚くべき近來の發展

綿布製造及び加工事業の勃興と同時に其の製品の海外に輸出せらるゝもの日逐ふて旺盛なるが實際に於て海外に搬出し始めたるは未だ最近の事に屬す、此間に於て個人經營時代より既に海外に其販路を求め又は視察團を組織する等百般の努力を盡したるものは和歌山市畑屋敷中の丁五番地に本社を同東の丁に分工場新島町に晒工場を有せる和歌山綿布株式會社なり

### 資本金と其營業の概要

同社は元現在重役諸氏の合名經營なりし

三年業務日に發展し、病舎は増築に増築を以つてし目下三百余坪の大病院となる、和歌山市扇の芝の出張所と相待つてその患者は縣下は勿論兵庫、大阪、京都、三重、奈良、徳島等より踵を接しつゝあるも亦宜なりといふべし

を大正六年四月資本金一百萬圓の株式組織と爲し五十萬圓の拂込を了したり、其營業は綿布、綿糸の製造販賣及び加工を爲し其の優秀なる製品は内地は勿論の事印度米米方面に迄異彩を放ち聲譽を博せり、同社の生産高は一ヶ年五十萬反の莫大なる數に達し尙ほ注文に追はるゝの繁忙なり同社の登録商標の代表的なるものは天華、青龍、雲井、マーチ等にして其の優秀、堅牢を特に認められ今日迄各種展覽會、共進會、博覽會より賞状を授與せられたる事一再ならず、最近雲井は本縣工業試験場より堅牢を保証されたる如き同社は如何に研究改良を爲しつゝある

## 野上輕便鐵道株式會社

海草郡日方町より那賀郡野上驛に至る五哩の線路を有し本社を日方町に置ける野上電車、即ち野上輕便鐵道株式會社は大正二年八月の創立に係り同五年二月開通したるものなり同社は海南地方唯一の交通機關にして所屬野上地方の産物たる繭、棕櫚、木材、柑橘、枇杷等を都市に搬出し一面和歌山市より諸雜貨を運びて相互間の便益を圖り地方發展に資する處多し而して毎年夏期貴志川の清流を利用して沖野々に螢狩を催して都人士を慰するに努む同社開通當時の收入と現今のそれを比較せば約七割の増收を示し更に昨年四月政府より同十一年三月迄補助金の

下付を受ける事に決し既に相當の額を下付せられたり、尙ほ現在の状態に甘せずして近き將來に於て沿線に一大遊園地を

設けると共に神野市場より有田郡八幡村附近に至る約四哩の軌道を延長するの計畫あり、壯なる哉

## 和歌山市中に先鞭を着けたる南海倉庫株式會社

近時和歌山市の商工業は長足の進歩を來し所『大和歌山』の實現近きに在らむとす、從つて各地より移入し來る原料の類は日に山積するの狀態にて之れ等の貨物は不完全極る運送店の倉庫に貯蔵せられ保管を委する外他、適當なる機關に於ては商工業者間の頗る不便に感じたる處より然るに當市財界の巨頭和歌山商業會議所會頭垂井清右衛門氏南海鐵道會社取締役大塚惟明氏四十三銀行頭取宮本吉右衛門氏の三氏は倉庫會社設立を計畫したるも大塚氏は南海鐵道を宮本氏は四十三銀行と言ふ何れも大會社を發せしむるの重責あれば他事を顧るの邊なきを以つて垂井氏と專ら之れに當ることとし南海鐵道の太株主たる名手山兵衛、廣田伊助、前田辰之助、寺田甚與茂、寺田元吉

、南井一郎、宮井宗兵衛、古田吉兵衛、九鬼千代治、矢田由松、伊藤啓次郎の諸氏、謀り賛成を得て南海倉庫株式會社設立の計畫を立て水利交通の輻輳たるべき和歌山市驛前に二千餘坪の敷地を買收し尙ほ南海鐵道株式會社附近の空地、二千餘坪を借入れ茲に完備せる近世式の一大倉庫の建築を起して僅々四箇月間内外の日數にて竣工を告げたり、之れと同時に此の施設を期待せる一般商工業者は競ふて同社に貨物を委するの盛況を呈し阪神間の豪商鈴木商店よりも積々貨物入庫の申込みあり、現在の入庫貨物は一千萬圓の巨額に達す

### 今後の施設と内容概略

連絡を取り貨車によつて直ちに貨物を倉庫に輸送するの便利なる設備を施さむと計畫し倉庫事業の眞實を發揮せむ事を期



南海倉庫株式會社

右の如き盛況を呈するは要するに同社倉庫の完備せると位置のよろしきを得たるによるならん乎尙ほ之れに満足する能はずとして引續き倉庫を増築し鐵道線路と



せり而して同社は信託事業をも開始せるが其の成績頗る見るべきものあり、更に縣の特産物綿ネール更紗並に米穀、肥料等の信託賣買をも併せて開始せむと目下計畫中に屬す其の前途の好望遠望するに難からず因に資本金は五十萬圓を擁し既に二十萬圓の拂込を終了せり幹部社員左の如し

社長 垂井清右衛門

取締役	古田 吉兵衛
取締役	廣田 伊助
取締役	前田 辰之助
取締役	宮井 宗兵衛
取締役	山本 光三
取締役	高橋 龜太郎
監査役	名手 由兵衛
監査役	寺田 元吉
監査役	九鬼 千代治

### 模範的紳士と稱すべき

## 木村平右衛門氏

和歌山縣實業界に木村平右衛門氏を有するは海南地方の誇り也。資性温厚、篤實而も敏捷奇抜の才、神變不測の智に富む、氏豪家の出身なりと雖も毫も富豪者振らず舉措頗る磊落なり已を持する端莊は共に輕佻浮華に流る、現代紳士間に於て、稀に見る模範的人材として推賞するに足る。かゝるが故に地方人の尊敬大いに

### 氏の性格と履歴の大要

厚く世の信任も亦極めて厚し且つ氏の學殖は世人周知の事にして現在南英育英會幹事たり、其他に至つては多言を要せず即ち明治三十八年滿韓起業同志會の用務を帯び故土方伯に隨つて支那諸省を視察し越へて大正元年紡績界の泰斗和田豊治氏と共に歐米を漫遊更に同六年秋再び同志と南滿地方に遊びたるを以つて如何に新智識あり且つ諸事に精通せるかを証するに足るべし大隈内閣當時推されて代議士に當選し國事に奔走す其の勳功によつ

て勳四等を賜ふ

### 經濟界に於ける氏の地位

氏の實業界に於ける舞臺は東京市、中心にして活動す敏捷奇抜の才は能く事柄を得て携はれる事業にして一として實績の擧げざるはなし、既に縣内に於ては日高川水力電氣株式會社社長、白土土地建物株式會社社長、旭セメント株式會社監査役兼外に於ては九州水力電氣株式會社監査役兼外九大會社の重役、日本工、俱樂部、日本電氣協會の評議員たり、此重要の地位に在る事として其の經濟界に於ける地位、窺ふに足るべく、而も我國電氣事業界中氏の如きは稀に見る經驗家にして常に劃策怠らずと言ふ

谷井虎之助氏 海草郡日方町の人にして家代々の資産家なり、櫻筋郡の地所は概ね氏の所有なり、現に郡會議員の職に在るも事業家に拘らず、従つて事業界に重きを爲さず

## 大正綿布株式會社

和歌山市杉之馬場五丁目

和歌山綿布界に曠々の名ある大正綿布株式會社は和歌山市杉之馬場五丁目に在り同社は元山本幸之助氏は専ら採染業を経営し居たるものなるを數年前より現取締役社長坂上喜代三氏と公共にて大正綿布合名會社を組織したるが歐洲戦亂の勃發と共に事業の大發達を來し到底小資本にては時代の要求に應じ且つ好機運に乗ずる能はざるを以つて百尺竿頭更に一步を進め大正七年五月一日現在重役諸氏發起の下に

### 資本總額

五十萬圓を投じ大正綿布合名會社事業の一切を繼承して茲に大正綿布株式會社を組織せるものなり、重役は

取締役社長 井上喜代三  
 取締役 前田 義胤  
 同 岡本市太郎  
 同 山本幸之助

同 瀧波 義尚  
 監査役 高垣良三郎  
 同 瀧波芳太郎  
 同 岡田 米吉

### 年一割の

配當を爲し諸積立金四萬圓と言ふ良成績を示せり蓋し今後發展を疑ふに餘地なく前途洋々たるものあり、同社の重役諸氏は何れも和歌山市經濟界に於ける新進の士のみにして従つて劃策する處等しく時代の要求に適せり、實に會社今日の盛況を見たるの原因は重役の施設當を得たるものと云ふべし

### 温厚篤實の士榎律氏

榎律氏は海草郡内海村の人現に同村に住む氏の家は酒造業を業とし盛大に之れを営みつゝあり、資性温厚にして篤實の士身を保つ事節儉質朴なり、氏性來の世話好き能く地方開發の爲め奔走し同村のためには必要缺くべからざる士なり爲めに地方人の信任頗る厚く且つ敬慕せらるゝは氏の徳の致す處なり、氏元來盧色を忌む事一切ならず、普通ならば地方に於ても將又經濟界に於ても得たるの位置を得る人なるに拘はらず榮冠を悉く棄て一介の榎律を以つてせる處は蓋し氏の氏たる所以のものにして吾人の敬服措く能はざる處なり而して世の富豪者流の如く人に接するに傲慢、事を處するに金錢を以つてなす能く總てを理解し誠意の二字を念頭に事に處するにも人に接するにも皆然り、内海村は幸福なる村なり木村、木下、濱田、玉置の諸氏と共に榎氏の在るは辛ひに健在なれ、

### 和歌浦土地會社

和歌浦土地株式會社は大正七年三月資本金百萬圓を以つて創立せるものにして現在の重役は



社長南楠太郎、常務取締役松本政之丞、  
取締役岩橋新三郎、同渡邊綱五郎、同  
谷爲察太郎、同三村榮吉同鈴木定右衛  
門、監査役竹中源助、同中井喜代楠、  
同前田辰之助

## 日本織物株式會社

和歌山市元寺町五丁目

明治二十六年當時更紗より一轉せる裏地  
模様の露西亞ネルが支那方面に現はれ來  
り亞で明治二十八年獨逸より始めて伊太  
利ネルの本邦に入り來るありて僅々二二  
年の間に輸入額は百萬圓を超へ滔々底止  
する處を知らず、當時漸やく芽生え將に  
發展せむとする和歌山綿ネル界もこれが  
爲め壓倒せられむと若し其儘に放任せ  
ば其前途に一大障害を蒙るのみならず地  
方經濟上に及ぼす悪影響甚大なるを以つ  
て岩谷民藏、原秀次郎氏等發起の下に明  
治二十三年和歌山市紺屋町に

一綿ネル株式會社と改稱せり越へて三十  
九年資本金を二十萬圓に増加すると共に  
社屋および工場を現在の元寺町五丁目  
新築し四十年四月移轉して盛大に營業を  
爲しつゝありしも大正六年十月一躍五十  
萬圓に増資し社名を日本織物株式會社と  
改稱せり毎期決算に際しては平均二割内  
外を配當し其製品の如きも

- 同 岩子安太郎
- 同 橋爪源助
- 同 谷爲察太郎
- 同 中原嘉吉
- 同 田端春三
- 同 廣田善八
- 同 神前純一郎
- 同 田井金藏

## 南海肥料會社

同社は和歌山市畑屋敷に在り、元北島七  
兵衛、名出義雄兩氏の合名組織にて經營  
し來りしが大正六年五月資本金十萬圓を  
投じて株式組織に變更せるものなり一ヶ  
年の生産高八萬噸此價格六十五萬圓を算  
し全國の肥料商と取引あり、重役諸氏左  
の如し

- 社長 増尾房次郎
- 常務取締役 山田常三郎
- 取締役 名出義雄
- 同 上林義男
- 同 藤田梅市
- 同 岩崎亮藏
- 監査役 藤田梅市
- 同 岩崎亮藏

### 練達の人 堪能の士

## 木下七左衛門氏

木下七左衛門氏は海草郡内海村の人兼代  
々の傘問屋を業とし巨富を擁して、海南  
地方に於て屈指の資産家也、業務の側ら  
内海紡績株式會社社長として多くの社員を  
督して練達其能の才を振ひ社運の隆盛を  
企圖せられたりあり、近時の内海紡績株  
式會社の發達異常にして其の利益の如き  
も是れを大都市の同業會社と比して遜色  
を見ず蓋し事業其物に時機に投せるに依  
ると雖も一は社長木下七左衛門氏の奮  
闘努力に依らずんば焉くんぞ今日の隆運  
を見るべけんや

す、其性温厚圓満一點の邪氣なく徳望郷  
黨を壓し、配下に一死以つて其恩に報ふ

## 現日方町長青木英一君

公吏の典型と稱せらるゝ  
海南地方は人材の淵藪也此の著載する所  
の如きは蓋し其の一斑のみ然れども多年  
公共事業に携はり格勳精勵公職に任じて  
また一日の懈怠なく眞に公吏の典型と稱  
すべきの士を求めは吾人は現日方町長青  
木英一氏を推さずんば非らず氏は明治十  
三年五月二十七日名草郡日方村、いさの  
日方町に生る氏の家固より素封家として  
名あり余具商を營み氏の代において海南  
に於ける新聞の一手取次を兼業す氏は幼  
にして頓悟明治三十四年和歌山縣第一中  
學校を優等を以て卒業し家に居り家業に  
従ふこと數年明治四十三年日方町助役に  
當選するの氏の自治的手腕の非凡なるを  
町民の認識する所となり遂に大正二年町

## 實業上の天才 は氏の天性

氏老齡なるに拘はらず其意氣體力攫獲壯  
者、凌ぐの概あり、稀に見る活動家にし  
て機を見るに敏、商略に長、商業道德  
を唯一の信條として嚴守し誠心誠意一貫  
して奮闘する氏の如、他に比ぶる寛く實  
業家としての天才なりと言はざるべから

と稱する者多しと以て氏の人と爲りを見  
るに足るべく近時世道人心日に浮華に流  
れ商業道德日に落つるの時實業界に氏を  
有するは吾人の意を強ふする所なり。

長の改選に際して當選して實績を擧げ大  
正六年再選して現に其の職に在り縣下町  
長中最も適任者として各名、博し町民克  
く氏の徳望と手腕に信服して一人の氏に  
對して批議するものなきは氏の人格の如  
何に圓滿にして且つ練達の士なるかを見  
るに足らむ氏は脈々たる温情に富み人に  
接して城府を設けず常に赤心を故に人  
信せざるなし氏は斯くの如く性格の所持  
者たると共にまた進歩的頭腦を有してよ  
く時代精神を理解しかの公吏の多きに  
見らるが如き頓迷固陋の嫌ひなきは多きすべ  
しいや日方町の商工業の發達眞に驚く  
可きものあり町として施設すべきもの多  
々あり擧げて青木町長の手腕に俟たずん



は非らず氏たるもの更らに奮奮努力町民の願望と期待を空うせざらん事は吾人衷

心よりの願望也

### 前途洋々たる

## 和歌山鐵工株式會社

和歌山鐵工株式會社は多年採染業色用の諸機械製造に獨特の技能を有し他に比類するものなき際、獨占したる岡崎愛之助氏が個人經營を引續き、新たに資本金五十萬圓の株式組織に改め在來の京都市烏丸御池通營業所を出張所となし本社を和歌山市南片原町二丁目七番地に設置し社長として小野木榮次郎氏を務務取締役岡崎愛之助取締役秋山徳藏岡崎清次郎原田新太郎監査役井村健次郎湯川善藏氏等地方一流の實業家を拉致し茲に堅實の基礎を堅の舊時に倍するの實質を具有するに至れり同社は工場のみにて一千四百坪の面積を有し工場と旋削部仕上組立部鑄造部鋼工部木型部の五部に區分し一切の設備完全し目下旺んに作業しつゝ、あり抑も同社の中樞たる岡崎氏は當初採染業に

身を委ねしが中途に於て慨然放棄し業を抛ち之が機械の製造に心身を捧げ枯槁數年の後漸く業色整理漂白に關する精確なる機械を案出するに至れるを以て一意専念新界に貢獻すべく工場を設置し製作に努力せる結果非俗の好評を博し和歌山縣は勿論大阪京都兵庫愛媛名古屋東京相生八王子等各業地に於て盛んに需要せられ殊に兵庫和歌山愛媛三縣の公立試験場並に福井縣立工業學校八王子染織學校等の用命を受くるに至れり然れど個人經營なりしを以て従業者は七十餘名にして年産額二十萬圓に過ぎずして限無き需要を充たす能はざりしが這次組織を變更し一般の設備を擴張するや生産額も大に激増せるを以て同社にては近く上海に出張所を設け支那方面に大々的販路を擴張すべ

しと云ふ斯く同社は内容の充實すると共に岡崎氏は倍舊の熱心と以て精勵し居れるを以て社運の發展は期して候つべし況んやその機械には他の企及するを得ざる精巧簡便廉價の三拍子揃へるに於てをや是れ獨り同社の誇れるのみならず國家の誇りなり今や國家は大陸に門を開きんとす國家としても是非同社の海外發展を祐け其の事業と大成としのさるべからず

### 紀陽鐵工株式會社

海草郡中之内村に在る紀陽鐵工株式會社は元西田貞次郎氏の個人經營に屬せしものなるが大正二年資本金二十萬圓を投じて株式組織とし爾來業務を擴張し大正七年更に新潟縣東亞海事興業會社を買収し資本金を八十萬圓に増加せり、製品の主なるものは船舶用汽缸および採染機陸用ボイラー等なり、而して其後一百萬圓に増資し運輸部石炭、木材部を設け目下盛大に營業しつゝ、あり重役左の如し社長松居善助、事務清水橋一郎、同近江橋松、取締役西田定次郎、同中岡喜助、監査役高橋龜太郎、同高垣良二郎、同賀志平介

## 和歌山商業會議所

和歌山商業會議所の前身は明治十四年時の四十三銀行頭取愛宕直三郎氏會頭となり、其頃各地の都市に設けられたる商法會議所を組し、四十三銀行内に事務所を設け、現今の會議所に關する統務をなしたるものにて、之は現今會議所の發端なり、同二十三年會議所法の發布と共に法規に基き和歌山商業會議所を設置する事とせり、其の事務権限は左に記す

- 一、商工業の發達を圖るに必要なる方案を調査する事
- 一、商工業に關する法規の制定改廢施行に關し意見、行政廳に具申し及商工業の利害に關する意見を表示する事
- 一、商工業に關する事項に關し行政廳の諮詢に應ずる事
- 一、商工業の狀況及統計を調査発表する事
- 一、商工業者の委嘱、因、商工業に關する事項を調査し又は商品の産地、價格等、證明する事
- 一、關し人の請求、因、商工業に關する紛議を仲裁する事

一、官廳の命により商工業に關する鑑定又は參考人を推薦する事  
以上の調査機關として左の如く事務の部署を定む

- 商工部
  - 一、商業の狀態、市場價格の高底に關する事項
  - 二、物貨の集散、市場の狀況に關する事項
  - 三、販路の伸縮、需要供給の關係に關する事項
  - 四、賣買取引の方法に關する事項
  - 五、内外貿易輸出入の増減に關する事項
  - 六、各種工業の狀況に關する事項
  - 七、製造工業及工業の實況に關する事項
  - 八、各種製産物に關する事項
  - 九、機械と勞銀及生産費に關する事項
  - 十、商工業の獎勵に關する事項
  - 十一、以上外商工業一切に關する事項
- 理財部
  - 一、銀行及關本に資する事項

二、金融の緩急金利の高底に關する事  
三、流通貨幣の増減に關する事項  
四、海關稅其他商工業に關する税金の適否

- 五、内外爲替相場の変動に關する事項
- 六、商業手形流通に關する事項
- 七、倉庫の狀況に關する事項
- 八、各地取引の換金に就て金融に關する事項
- 九、其他一切理財に關する事項
- 通運部
  - 一、運輸、交通の狀況に關する事項
  - 二、運輸の便否運賃の高底に關する事項
  - 三、運輸貨物の増減に關する事項
  - 四、運送人と荷主との關係事項
  - 五、運送取扱及委託の方法に關する事項
  - 六、運送危險の有無及其分擔法
  - 七、電信電話其他一切通信運輸に關する事項
- 仲裁判斷
  - 和歌山市内の商工業に關する紛議の仲裁、請求する者ある時は役員會に於て其の受否を決し、之れを受理したる時は仲裁委員を選定し仲裁判斷す

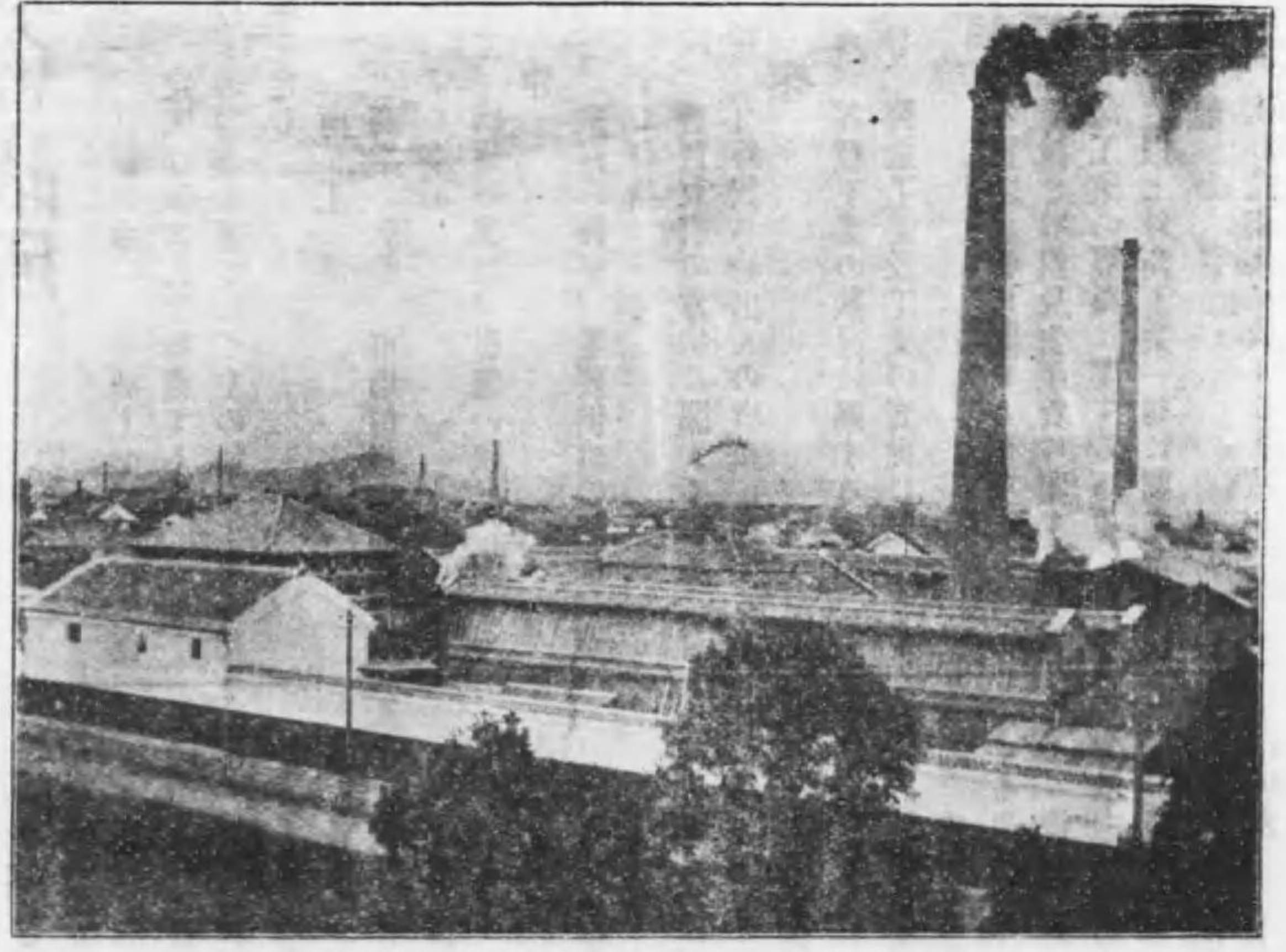


尚會議所の役員及書記長並に議員左の如し

- 役員
- 會頭 垂井 清右衛門
  - 副會頭 後藤 榮藏
  - 常務委員 古田 吉兵衛
  - 同 伊藤 啓次郎
  - 同 廣田 伊助
  - 同 廣田 善八
  - 同 津村 紀陵
  - 書記長 小池 多賀壽

特別議員

- 宮本 吉右衛門
- 遠藤 慎司
- 竹中 源助
- 谷井 勘藏
- 竹井 貞太郎
- 島村 安次郎
- 谷井 勘藏
- 北島 七兵衛
- 南方 常楠
- 南 楠太郎
- 岩谷 民藏
- 橋 吉右衛門



照參事記項別 社會式株物業本日

- 九鬼千代治
- 岡 安兵衛
- 矢田 由松
- 八幡 政吉
- 寺田 長左衛門
- 岩橋 中兵衛
- 中谷 俊平
- 廣田 善八
- 津村 紀陵
- 中川 富之助
- 廣田 伊助
- 瀬戸 市太郎
- 馬場 主計
- 神前 純一郎
- 渡藤 榮藏
- 伊東 啓次郎
- 林 利兵衛
- 右田 吉兵衛
- 島崎 爲助
- 垂井 清右衛門
- 谷爲 察太郎
- 木本 直吉
- 島 喜兵衛
- 前田 辰之助
- 中村 龜之助

## 縣内金融界の重鎮たる 株式會社四十二銀行

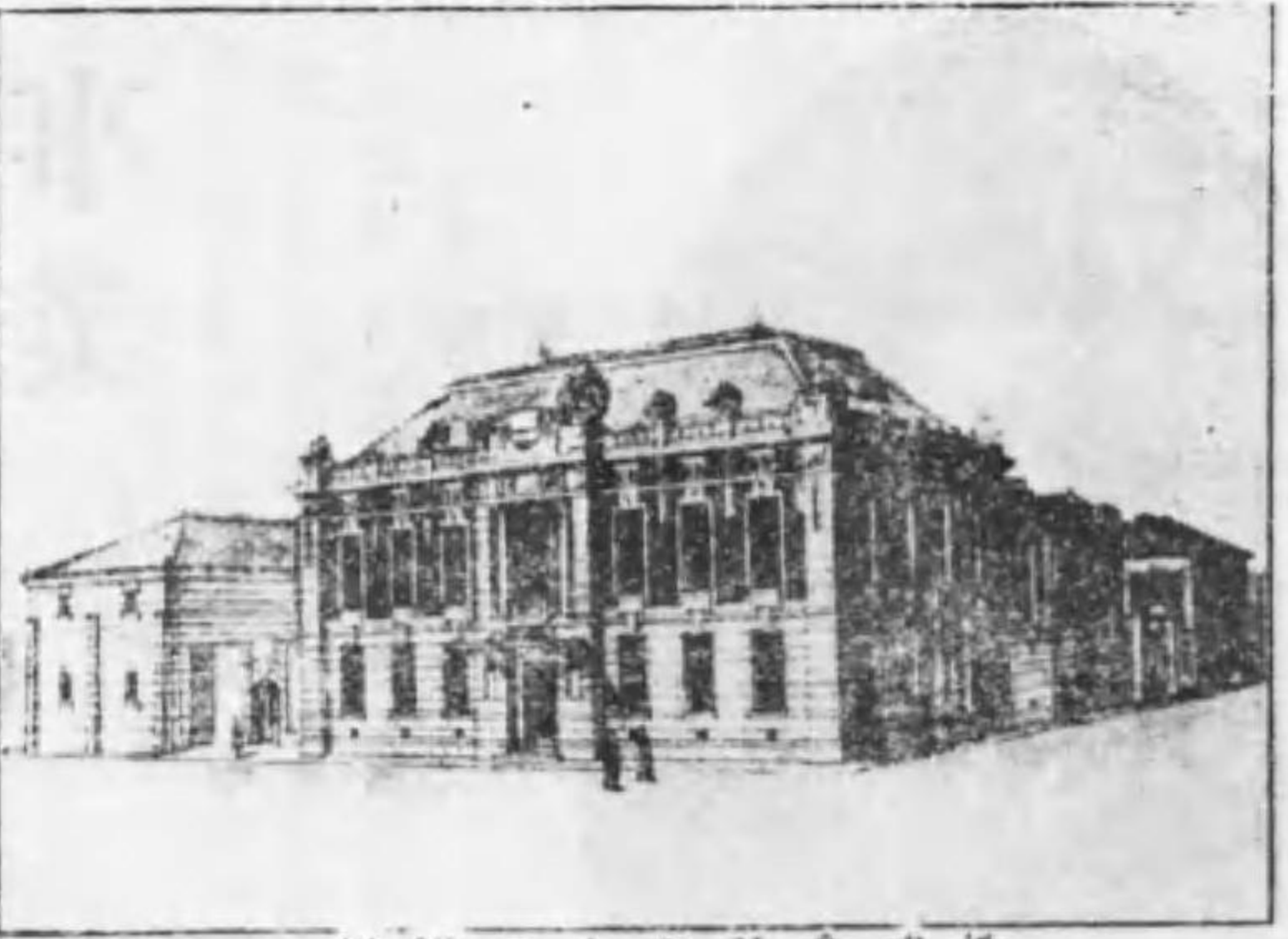
兒玉 信市  
柴田 太平

金澤 彌吉  
山本 幸兵衛

株式會社四十二銀行は明治十年八月森部好謙氏の發意を以つて當時士族に下賜せられたる金路公債を據出して資本と爲し翌年九月創立總會を開き、浦上氏頭取に愛宕直三郎を支配人に就任し同年十一月より和歌山市中の店中の丁に開業せり越へて十四年一月現今の十一番丁一番地に移轉し其の三十年國立銀行營業満期により株式組織を改め國立の二字を除き株式會社四十二銀行と改稱せり

### 資本金額と業務の概況

資本金は創立の當時は二十万圓なりしが二十八年四十万圓に三十年に百万圓と増資し更に三十三年紀州銀行と合併するに及びて百五十万圓の資本金を擁するに至る。而して大正二年又々増資を行つて三



株式會社四十二銀行

百万圓とし全國地方銀行中第一流の銀行となり従つて堅實無比として新界に最も

### 業務の躍進と重役諸氏

重きを爲し社會の信用亦厚きを加ふるのみなり、現に日本銀行派出所、支金庫其他縣金庫等の業務を取扱ひ郡部主要の地に派出所を設置せるが時勢の進運に伴つて各地商工業の金融機關乏きを以つて明治二十一年より縣下の主要地及び奈良縣五條町合計十四箇所を支店を設置するに至れり

業務の大躍進とも言ふべきは大正二年八月が橋を畔に偉觀を呈する本行建築となり或は本年一月資本金を六百圓に増資し決し更に大阪府、岸和田町に支店を設置する等最も顯著なるものなり、蓋し前途大發展の地運に向ふ事は言を俟たざるなり、斯の如き大銀行を操縦し經營するには全程の人物を要するは勿論の事なるが此點に於ては萬遺憾無く頭取には關西實業界の重鎮たる宮本吉右衛門氏あり、氏は先天的の事業家にして其の手腕既に世に定評あり、氏を補佐するに支配人北代達枝氏あり、性豪放頭腦明敏能く活動し能く實績を擧げるの人なり、同行の發展以つて故あるべし、



# 土木建築界の權威

## 原正組の事業

### 父祖三代の業績を見よ

土木建築の事業は直接文明を導く施設なり別言せば斯米の旺盛は直に文化の進展を語るもの也鐵路、橋梁、隧道と設けて交通に便益を與へ、校舎の築造によりて教育に裨益すまた住宅建築の如き亦吾人の日常生活と離る可らず以て此の事業の眞實を見る可し然り而して事業の盛衰は主として事業家の人格材能如何に因由するは恰も活潑なる精神の健全なる身体に宿ると同一轍に出づ吾人は土木建築界の權威として茲に紹介せむとする原正組は果して如何なる業績を示せるぞ。

抑も原正組は文化三年三世の祖原庄太郎氏の紀州藩主徳川治賢卿大普請方拜命に創まる爾來歴世藩工事に貢献する所あり就中加太港河築造及び友ヶ沖島舊砲壘改築の如きは遺蹟として人口に膾炙する所也維新以後は長子庄次郎氏陸海軍御用

として附近沿岸の砲臺燈臺の築造、爲し更らに次子庄右衛門氏は地方官衙並に法人の經營工事の用命を分擔し桔槔業に安せしは人の能く知る所也

原正右衛門氏



會社技師工學士三好清之氏に師事し土木界の要素と實驗を究め傍ら時勢の進運に鑑み純建築の趣味を採り是れを實地に應用し工事觀るべきものあり而も重厚の質熱誠部下の指導に努め温情摯すべきものあり又其の模々たる俠骨は公共の事業に嚆矢し父祖繼承の實力を發揮して朝を斯界に稱し家聲日に揚かり業運年と共に盛なる亦當然の事といふべし副組長たる現代庄次郎氏また加太町に家名を嗣ぎ依然陸海軍御用の專加として手腕信用父兄の名譽に同組補佐の任に當りつゝあり累代一族當々として相扶翼し以て業運の興隆を圖るの美は同組の事業の精と共に稱すべく亦感すべし哉

### 其性の俠骨 其質の重厚

現代組長庄右衛門氏家名と和歌山に興ぐに迫り百尺竿頭一步を進め曾て日本土木

### 縣下土木界の大功勞者

凡そ縣下所在銀行會社工場の大建築は殆んど氏の準紀より刻出され治水開渠隧道

港埠、橋梁學校悉く原正組の施工に係れりといふも敢て潜稱し非ざる也若し夫れ縣交通機關に至つては新宮、加太、野上、有田の各軌道は擧げて原正組の工事に係り殊に昨年工費八万二千圓の大工事たる北島橋の架設に際し僅に五ヶ月を以て契約期限より五十日間短縮して敏速に竣工し重砲隊の重砲運搬に資し軍事當局をして賞讃せしむ更に現池松知事をして従來曾てなかりし土木受負業者を表彰するの新記録を作らしむ即ち其の表座文を左に掲げ

和歌山 市小野町二丁目

原 庄右衛門

多年工事の請負を營み誠實業に服し信用あり去年紀の川北島橋流上浸舊架設を請負ふに當り恰も時局の影響を受け材料の蒐集に勞力の供給に困難を極めしに拘らず鋭意工事の進捗に努め契約期限五十日間短縮の成績を以て竣功を告げたるは交通上公衆に利益を與ふること勝なからず仍て金三百圓を賜與し之を表彰す

大正七年十月三十一日

和歌山縣知事從四位勳三等

池松 時和

### 多趣多面なる

## 濱田周次郎氏

海草郡内海村の濱田家といへば何人も柳屋を聯想せむ、海南地方屈指の豪家にして亦名望高き舊家なり、氏の資性豪放闊達にして明敏實業界に政治界に重きを爲せり

### 社會的地位 其の人格

氏世の富者に免れがたき銅臭の輩と其の選を異にし何事にも恬淡にして大度の人なるだけ社會の信任も亦特に厚く地方の重鎮として木村平右衛門、木下七左衛門、玉置吉之丞諸氏等と共に海南樞要の紳士也氏は大正四年推されて縣會議員に

當選して現に其の職に在り將又三郡製絲株式會社社長、南海瓦斯株式會社取締役の重職に在り此他關係の會社銀行數多く一として實績の擧げざるものなし、以て氏の手腕と人格とを窺ふに足りむ

### 實業的方面 より見た氏

氏の家業は酒造とタオル製織なり共に居村に於て營む、其の醸造に係る清酒の如きも世既に定評あり、年々販路は擴張され名聲甚だ隆々子の好んで之を求むるの現況に在り又其の製織業は實に時機に適せる好事業にして創業日尙は淺しと雖



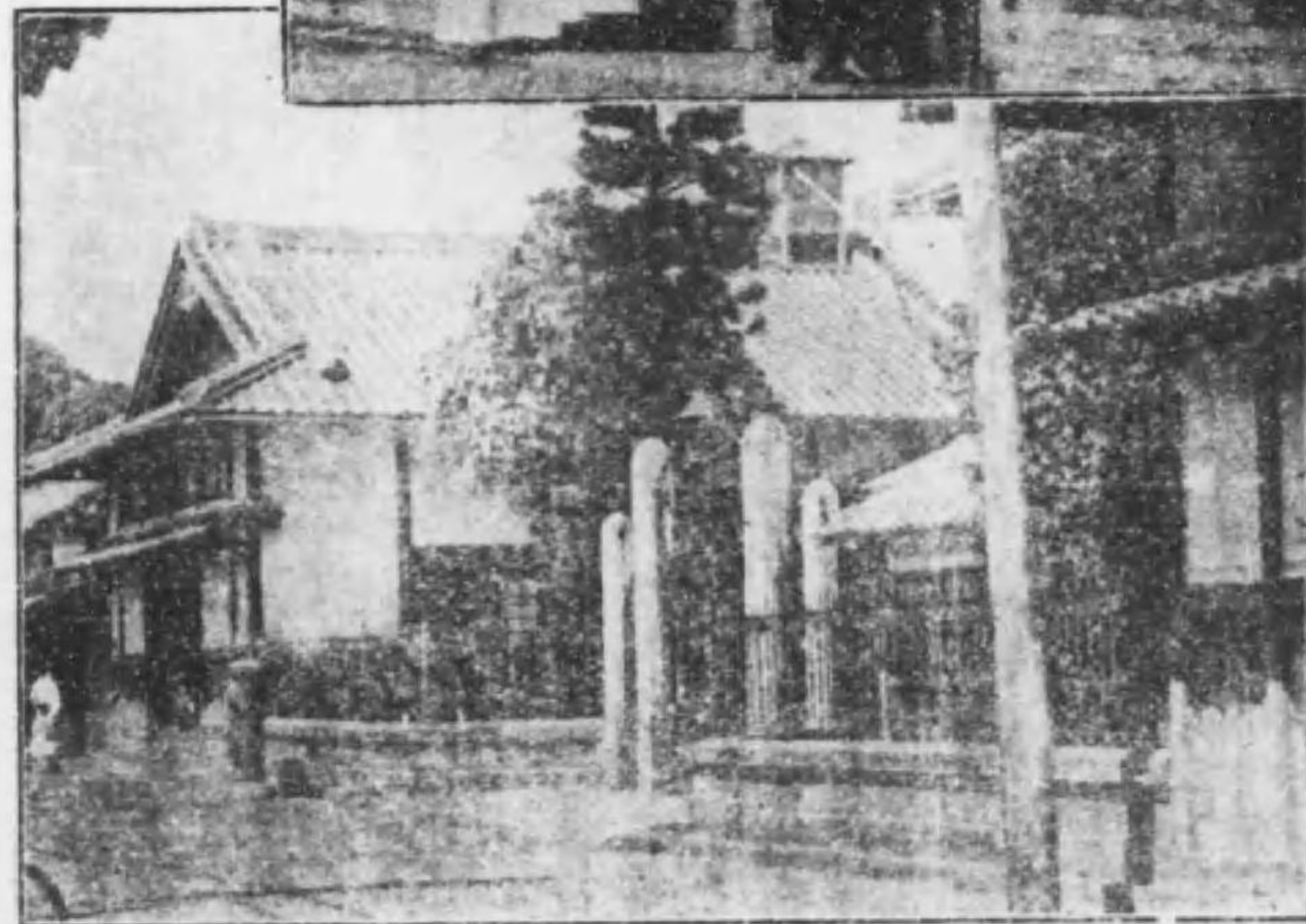
濱田周次郎氏の家庭



近藤病院全景



和歌山米穀取引所



寫真部記事参照

も能く時流に投じ既に品質精良。市場を驚嘆せしめつゝあり、輒近畿系界の波瀾に伴ひ同業者の事業を中止し或ひは操業するものありと雖も氏は依然盛大に操業しつゝあるにあらざり、一見些事に拘泥せざる如き氏にして而も大規模の之等事業を経営し用意周到遠算よく關係會社の重任を全ふする處は氏の實業家として其の將來更らに大いに嚮望すべきものあるを信ず。

### 近藤病院

和歌山市九番丁

和歌山市九番丁に安壯なる洋館の在るは和歌山月界に噴々の名ある近藤病院なり、其内容の設備に至つては關西地方の斯界に見ざる迄に完備なり、院長は醫學士近藤節藏氏にして和歌山月界の長老として斯業者の信任頗る厚く同人亦尊敬しつゝあり、氏は人格の人にして當に稀に見る温厚篤實の士なり、明治四十年迄が歌山縣立病院より引續いての赤十字社文部病院長の職に在りたり、其經驗人

よりも厚く手腕に至つては更に群を抜き常に研究を怠らず、患者に對するに親切なるは世既に定評ある處なり、氏の如き

### 株式和歌山米穀取引所

株式會社和歌山米穀取引所は和歌山市三番丁に在り同所は明治二十六年資本金四萬五千圓にて米穀の直取引、延取引、定期取引を目的として株式會社和歌山米穀取引所を十二番丁に設け翌年一月開業し、爾來屢々盛衰ありて有價證券の取引を併營し又は綿絲取引を加へ、明治二十九年十二月資本金七萬圓に増加し、和歌山米穀株式會社取引所と改稱す同三十年九月志賀方立正氏理事長となり、三十五年九月營業所を現在の所に移轉し、今日迄に幾多の變遷あり随つて役員にも屢々交代と見たるが、明治四十二年辻野惣兵衛氏理事長となり、且つて拾六萬五千圓に増資したる資金を拾壹萬圓に減じ、銳意其の發展を計りし結果面目頗る一新し利益配當及積立金も増加するに至れり、大正三年營業目的中外國の國債、地方債其他の有價證券の取引を削除し専ら米

は實に我和歌山月界中に必要缺くべからざるの人材なり

穀の取引に變更し、商號又上記の如く改稱するに至れり、其後半林甚輔氏理事長に就任せるも大正七年辭任せり、現時の配當は常に一期五分乃至二期にして役員には

理事中谷俊平氏 理事長代理 理事角田 宇兵衛氏 理事津波芳太郎氏 監査長南方 吉九郎氏の外支配人井村監之丞氏あり

### 内海紡織會社

内海紡織株式會社は我縣紡織界中の花形なり同社は大正四年八月の創立にして本社を海草郡内海村に置く資本金百萬圓を擁し六十二萬五千圓の拂込を了せり戦亂以來の配當は常に三割乃至四割を以つてし社運隆々たり、社長は木下七左衛門氏なり



# 和歌山市内に於ける 婦人科醫の元祖

婦人科の谷本か谷本の婦人科と稱せらるる、谷本婦人科醫院の院長谷本精一郎氏は實に和歌山市に於ける婦人科醫の元祖也。即ち谷本醫師は今より十數年前明治三十五年現在の紀和町に初めて開業して今日に至りし也。氏は世人の周知する如く海草郡山口村の出身にして少時志を馳せて笈を浪華の地に負ひ小學後より順次高等の學校に入り螢雪の功室しからず優等の成績を以て大阪醫科大學卒業し卒業後は同大學の附屬病院の婦人科に三年間、都大學病院の同科に三年間研究を積みたり。氏は開業當時既に婦人科醫としての學殖と經驗は充分整ひ居りし也。果せるかな開業するや忽にして其の非凡の手腕は認識せられ患者陸續を接し名聲甚和歌山刀圭界の權威を以て目せられつゝある也。氏は性温厚にして懇實眉目清秀風采優雅患者に接する極めて親切也。一家琴瑟相合して家庭常に霽然として春風の如きも

のあり亦羨むべきかな。吾人は我市杏林人材多しと雖も氏の如きは婦人科醫の代表者として推稱すべきの士たるを信じ茲に紹介せる所以也。谷本氏以外婦人科の名醫和歌山市になしといふに非ざる也。唯氏の敏腕一頭地を抽くものあるを認識するに吝かならざるのみ。

## 和歌山染工株式會社の概況

和歌山市石橋町一番地に在る和歌山染工株式會社は明治四十年合名會社として創立せられたるものにして大正六年十月資本金百萬圓として五十萬圓拂込の株式組織に變更し綿糸更紗の製造及販賣を營業主目と爲せり。其の生産高は一ヶ年綿糸十萬反更紗四十萬反に及び大阪市の信用ある商店に供給しつゝあり現今重役左の如し

- |       |       |
|-------|-------|
| 社長    | 垣内 太郎 |
| 常務取締役 | 江川 質純 |
| 取締役   | 貴志喜次郎 |
| 同     | 小澤 阜一 |
| 監査役   | 木本主一郎 |
| 同     | 幸前權二郎 |
- 取締役社長 土生信一、常務取締役 高垣 長三郎、取締役 松村耕吉、同伊藤萬次郎、同平松徳三郎、監査役 松村政之丞、同伊藤卯三郎、同田村 天郎

## 加太輕便鐵道株式會社

南海電車和歌山市驛、起點として海草郡加太町に至る加太輕便鐵道は明治四十四年一月資本金二十萬圓を以つて創立せるものにして毎期相當の利益を見つゝありしが大正二年頃商工業不振の影響を受け一時悲觀すべし窮狀に陥入りしも勇を鼓し十萬圓の増資、決行し極力奮闘の結果今日にては少なからざる利益を擧げるに至れり、重役諸氏左の如し

## 本縣特産綿子一ル

綿糸は縣下の最大重要物産にして其の消長は各方面に影響す、年産額は三千余萬圓に達し、内は三府十餘縣の製産地を壓倒し、外には輸入品、防過し、益々發展の現況にあり、今綿糸の沿革を釋するに其の創始は藩士徳川氏と頗る深き因縁を有す、是は初紀州侯が藩兵を置き洋式の兵制を採るに當り、被服に紋羽織を用ひしが、品質弱にして實用に適せざるより小倉服を採りし、之れが動機となりて苧谷三七と稱する人これに改良を加へ、軍隊用の襦袢を製せんと試み、越へて明治五年和歌山商會所の手代瀬戸十助氏一尺三寸の織布に起毛を施し、大阪兵部省に差出し直ちに採用されて御用を受けたり、之れ綿糸の蓋賜にして其の後氏間にも需用せらるるに至り、品質船茶のフランネルに劣るるより何時しか世人に綿フランネルと呼ばれ、今日迄に事業の常とし、幾多の消長ありたるも要するに徹々たる創業時代において、其の需用世の注意を引かざりしも販路のするに從ひ、當業者をして暫時製品

改良の自覺心を喚起せしめ、染色術の研究同業取締りの兩機關創設され、追々發展の氣運に向ひ、當業者は競ひて新柄の製織の案出に苦心し、此の期間は主として手織機全盛時代なりき然るに明治二十二年始めて獨逸より伊太利糸の本邦に輸入し來り、而して其の出來風大に時好に投じ、輸入額百萬圓を超へ、爾來當市の重なる人々は輸入防過の方法に就て協議の結果、明治二十二年始めて木製捺染器を用ひ大に器械工業の進歩を促し世の變遷につれて分業の發達となり、家族的工業の狀態より組織綿糸が時世の進運に伴ひ工場組織に變じ、捺染糸を製造するに至り、近々の間に斯く急激の進歩を見たり、終に重要物産の額に入れるも此の間運送法等に付て他の諸種の機關の完備も大に助成し、就中資金の融通宜しきを得たるは言ふ迄もなし、蓋し銀行業者が綿糸界に貢獻せる所尠からず、さりながら要は當業者の向上心に富み、進歩改良の思想が畢竟今日の勢運を贏ち得たるは筆新しく書く迄もなし、而して

製産機關の完備は需給の均衡を失する事あるは何れの産業にも免れ難き通弊にして、綿糸も亦其の例にもれず近時動もすれば製産過剰に失し、終に溢賣となり共倒れの悲慘事を演出す、茲に於て從來の如く間接輸出に甘する能はず、販賣機關として對外輸出協會の組織され、一面には益々製品の改良を圖りつゝあり、蓋し斯業の海外發展は最も時宜を得たるものにて、朝鮮と清國に向つて弘く販路を開拓せば、其の需用は殆ど無礙にして我が紀州糸の前途は隆々として發展期して待つべきものあり、以上は沿革と現状の大略にして、終りに製産状態を聊か記述せん、綿糸の原糸及び生地は主として經糸に二十番の綿糸を用ひ、緯糸には八番手、十番手、十二番、十四、十六番手は裏地糸に用ふ、の綿糸にして合同、攝津、鎌ヶ淵、和歌山等の各紡績及生地は組合内に製織される外糸を生地又はシーチングと稱して岡山紡績、三重紡績、鐘紡、和歌山紡績、和歌山紀陽織布等の製布を用ふ、染料の多く人造にして大抵外國品なり、製品の種類は捺染糸を主とし、色無地糸、裏地糸、英



チル、六枚織、斜子織、白綿、八枚織、濃珍、珍平珍綾、藍棒、裏地の外尺六巾ものには寧波布の稱する柄物にて之れに無地と藍棒とあり、製品の供給は地域と階級に區別なく、實用品にして價格の廉價なるのみならず、斯業の發達と共に體

### 嚴父の遺業を繼げる

## 新人物 小山芳一氏

新時代は新人物の活動に俟つ殊に實業界に於て然り吾人は新時代の實業界に雄飛すべく將來を嚆望する、新人物として海南方において小山芳一氏を推稱せんとするに方り吾人は先づ本年春易筆された嚴父芳松氏の如何なる人物なりしかを詳叙するの至當なるを思ふ、嚴父芳松氏は文久三年海草郡加茂村に産る長じて大阪に走り商業を以て身を立てんと欲し商舖に丁稚奉公を爲し凡ゆる辛酸を嘗み苦楚に逢ひしも丈夫の志は盤根錯節に遭ひて益堅く番頭に進むに及び其抜目才幹は主人に重用せられしが年三十にして海外に雄飛せむとの大志を抱き英領澳洲

に航し更らに新嘉坡に渡り日本雜貨、呉服、食料等の店舖を經營したるは抑も氏が成功の端緒にして爾來異域に活躍して春風秋雨二十年にしてよく巨万の富を積みたるが氏の脚限はかの護謨栽培の世界の事業なるに着目し明治三十九年新嘉坡に近、ジョホールに六百町歩の廣漠たる沃野饒地を開墾して護謨樹を植栽し是れ又た多大の成功にして年採取する利益は實に莫大なりと氏が一店員より身を起して巨万の富を致し且つ新嘉坡在住邦人の共濟會長として推されるに至りしまでの歴史は一篇の立志傳として推服に値ひすべきものあり而も今後の事業大に見るべ

小山芳一氏

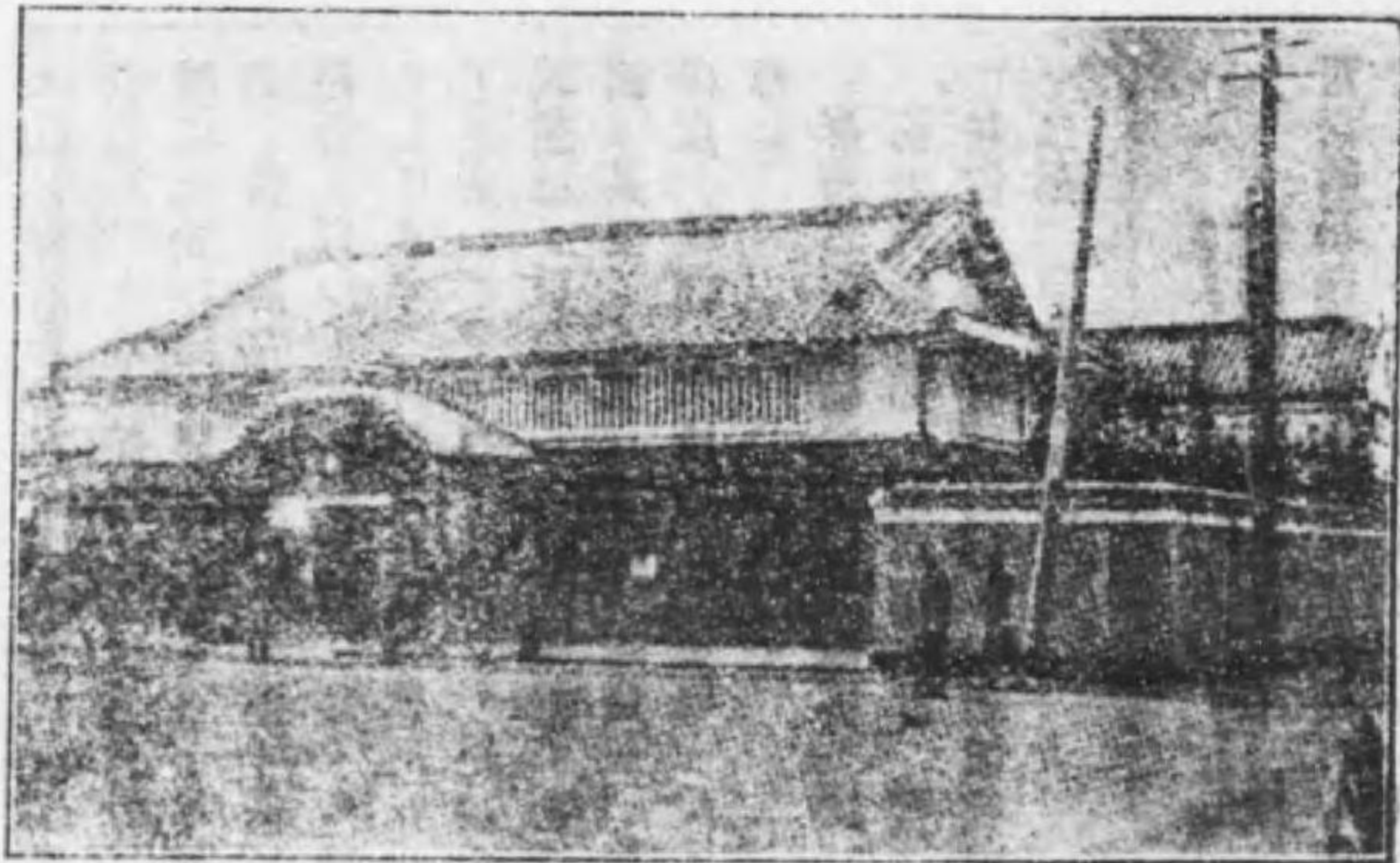


胸宇既に決するあり而して氏は一面營々として家業の醬油業に従ひ多數の店員を雇用して其の經營振りの圓熟せるは老店員も氏に敬服しつゝありといふの一事を見て知るべし殊に氏は店員に對し極めて温情に富み店員丁稚を見る宛も弟の如し以て其の性格を説明して余りあらむ殊に

進歩的頭腦、有して新時代の新人物とし一最の道はしきは氏の未來を嚆望する、所以にして氏が今後果して幾千の發展を遂げ得るやはまた一箇興味ある問題とい

## 株式和歌山縣農工銀行

株式會社和歌山縣農工銀行は和歌山市北汀町に在り明治二十九年四月同行設立の議起り翌年十一月縣の高等官及び各郡有法中より十一名の委員を任命し爾來創立事務所 縣廳内に設け三十二年一月創立總會 開 役員互選の結果谷井勘藏氏頭取となるに及び同年二月大藏大臣より許可を受けて市内等合町に營業所を設置せし越へて三十四年七月現正の北汀町に移轉し其の營業王銀行條例の改正と共に取引範圍を擴張随つて金融希望者増大し來り茲に資金充實の一方法として日本勸業銀行代理貸付の開始し傍ら農工債券を發行して資金吸收の方法を講じ利益配當は常に八割以上の好成绩を擧げるに至れり資本金六十萬圓にして既に全部の拂込了り積立金四十六萬圓の現在重收



和歌山縣農工銀行

ふべき乎吾人は氏に對して父君の聲名を更に顯揚すべく發奮努力せむ事を切に期望して止まざるもの也

### 山市皮革工場

和歌山市廣瀬中ノ丁一丁目

近時の本縣皮革事業界は驚くべき發達を遂げ年産三百萬圓以上に上るの盛況を呈し尙ほ將來大躍進に向ふの傾向を有するの狀態なり、山市皮革製造工場は如きは縣下屈指の大型工場にして製品は市場に於て名聲噴々たるものあり、同工場は明治三十二年の創立に係り海草郡岡町村西之丁に在つて和歌山市廣瀬中ノ丁一丁目山本市右衛門氏の個人經營に係れるもの製品の主なるものは靴用グロム皮、靴底皮、山羊皮、軍用靴、靴用皮其の他靴種なり此年産額平均八十萬圓に達し製品は内地は勿論の事、遠く支那、南洋、露國等に輸出す而して最近貿易部を設け膠材

- |       |         |
|-------|---------|
| 頭取    | 谷井勘藏    |
| 取締役   | 上山 市郎兵衛 |
| 同     | 森田 庄兵衛  |
| 同     | 三浦 英太郎  |
| 同兼支配人 | 岩橋 恭三   |
| 監査役   | 宮本 吉右衛門 |
| 同     | 神田 清右衛門 |
| 同     | 白井 藤楠   |



料、染料パーク等の輸出を開始す、實に個人經營としては規模頗る大且つ前途に富めるものと言ふべし

九鬼皮革製造工場 同工場は和歌山市柳屋敷松ヶ枝町に在り九鬼千代治氏の個人經營に屬し製品は主として外國軍用向とせり、天津に支店を有し同地を中心に廣く支那露國方面を活動舞臺とせり同工場は明治十四年の創業にして一ヶ年の産額八十萬圓内外を出すと

### 和歌山瓦斯會社

和歌山瓦斯株式會社は明治四十五年の創立にして資本金二十萬圓を擁し市内瓦斯の供給を爲しつゝありて縣内同事業の先鞭を付けるものなり、同社は最近に至つて放棄に困難を感じたる瓦斯液に化學的作用を施し流酸亞母尼亞を製造し併せて骸炭販賣價格を引上げ昂騰せる炭價の調節を爲し相當の成績を擧げつゝあり社長は廣田善八氏にして常務取締役は平松義孝氏なり

### 紀陽染工會社

本社を海草郡宮村大字新田に設け盛大に營業しつゝあり紀陽染工株式會社は元岩橋留楠氏の個人經營に係り三十年來染工業を營み居たるが時勢の進運と共に個人經營を以つてせば好機運に乗ずる能はずとして本年二月株式會社に變更して岩橋工業所の事業一切を繼承して紀陽染工株式會社と改稱せり、製品は概ね海外に輸出す其主なる先は支那、露西亞、南米、印度、澳洲、米國等なり重役の氏名左の如し

### 南海晒粉會社

南海晒粉株式會社は海草郡湊村に在り明治三十九年十一月の創立に係り資本金百萬圓を擁し既に五十八萬圓の拂込を了せり同社は主として晒粉及硫酸の製造販賣を爲し名聲噴々たるものありて我縣化學工業會社の筆頭と稱するも過言にあらざる重役の如きも實業界に重きを爲しつゝあり左記諸氏なり

### 南海瓦斯會社

取締役社長北島七兵衛、常務取締役小泉米藏、常務取締役、名出義雄、取締役廣田善八、取締役南方常備、監査役上山市郎兵衛、監査役名手由兵衛

### 株式旭商會

和歌山市中の店中之丁に本社を置く大正五年十一月二十五日の創立にして資本金三十萬圓を擁し有証分賣買仲介及信託を營業科目とせり蓋し現況開屋、株式會社組織に爲せるは和歌山市に於て同社のみなり、從つて堅實にして世の信用厚し社長は岩橋萬助氏なり

### 南海瓦斯株式會社

南海瓦斯株式會社は海草郡黒江日方の兩町及び内海村に瓦斯の供給を爲すの目的を以て大正二年九月資本金十萬圓を以つて創業し本社を黒江町六ヶ濱に置き營業を開始せるも未だ瓦斯の眞價を解せざる地方民は同社を利用するに至らず、爲めに大なる利益を得る能はずして今日に至る、されど速からず發展の域に向ふは疑ふべくもあらず社長は角田宇兵衛氏なり



新築落成

資本金 五拾萬圓  
積立金 貳拾七萬七拾圓  
預金額 六百六拾萬圓  
〔大正八年八月十七日移〕

### 株式紀陽貯蓄銀行

#### 支店所在地

- 和歌山市橋町 橋向支店
- 同 久保町 湊支店
- 海草郡中之島村 中之島支店
- 同 加太町 加太支店
- 同 和歌浦町 和歌浦支店



# 齒科專門

東京齒科醫學士

市川宗義

和歌山市十番丁

電話一四九番



婦人科  
產科  
專門

和歌山市五番丁

池內診療院

池內織之助

電話八〇四番



# 諸油卸商

和歌山市久保町一丁目

## 掛下徳兵衛

電話 三六一番  
振替 大阪 一一九〇四番

# 漆原料油製販賣

和歌山市久保町一丁目

合名 紅葉谷商會  
代表社員 掛下豊太郎

## 本縣下の工場と職工

### 電動機使用は特に増加

◆大正七年末和歌山縣下工場統計◆

大正七年末現在の調査に依れば和歌山縣下の平均一日職工十人以上を使用する工場は總計二百九十五あり内機關を設備するもの七百二十設備せざるもの七十五にして前年に比し總數に於いて五工場増加したり而して各郡市中前年に比して増加せるものは海草、那賀、伊都、日高の各郡にして其の減少せるは西牟婁、郡和歌山市なるが増加せるは主として綿子ル及製蒜業の増設に基、減少せるは貝類業の専業、印刷及酒造工場の職工減少、基因より而してツメ設備機關は前年百四十一臺七千七百十六馬力、蒸氣エンジン十七臺千七百九十馬力、瓦斯機關二十四臺千六百馬力、石油機關七臺九十一馬力、水力タービン式水車四臺二千五百六十馬力にして前年に

比し百二十六臺四千四百二馬力の増加を示せり殊に最近水力電氣の勃

興に基き電力生産的方面に使用せらるゝもの多く従て原動機を電力の供給に俟つ

縣下實業界の重鎮にして  
前代議士たる  
木村平右衛門氏  
(別項記事参照)



興に基き電力生産的方面に使用せらるゝもの多く従て原動機を電力の供給に俟つ

もの増加し爲めに電動機數の増し四百五十五千八百馬力に達し前年より百二十六個二千八百三十九馬力を激増せり、又此等工場に於ける職工總數は男六千八百四十四人、女一萬二千四百七十人、計一萬九千三百十四人にして此れ亦前年に比して五百九十九人を増し五箇年前たる大正二年に比すれば六千五百七十八、五割強を激増せるが職工の外此等工場に雇役せらるゝ労働人夫は男七百八十二人、女二百十六人、計九百九十八人あり、然れども幼年職工は丁場法制定の結果漸次に減少の傾向を示し目下十二歳以上男二百四十七人女二千二百八十九人十二歳未満男四百八十五人あり業種別及郡市別工場數等の如し

郡市	工場	職工	石炭消費高
和歌山	三	四、九六六	八三、一五三、三〇〇
海草	四	八、三九六	一、四三七、七〇〇
那賀	二	九四七	一、四七〇、七〇〇
伊都	四	二、三六一	八、一七〇、〇〇〇
日高	八	一、八三三	三、〇〇〇、〇〇〇
西牟婁	三	一、三三三	一、八四六、〇〇〇
東牟婁	三	三、五九〇	四、二、五〇〇
合計	三三	三三、〇〇〇	一、二、二、三、五〇〇



## 見よやこの發展の跡を

健實な歩を辿りつゝ、信用益々厚き石炭商

# 南方伊平次商店

正義は之れ最後の勝利也。和歌山縣海草郡紀二井寺村大字内原の隣村より身を起したる彼南方伊平次氏は常にこの正義のモットーを陣頭に掲げて商略の第一義となし、平和の商戦に獅を奮迅の勇を揮ひ、さながら寧日なく只是れ努力奮闘、生命として今日に到れり。

## 彼伊平次氏は内原の名

門家南方家に生れたるが、青春の血熱然の其所何とぞして生々草深き隣村、朽々べしと忍ぶべし、即ち人五々の存太望を抱いて郷内原を出で幾多の商戦に従ひ、盛衰浮沈つゞさに辛酸を嘗めたるはこれぞ今日の隆盛を見る、君の基礎なりし也。



氏次平伊方南主店商炭石方南

く語らずと雖も、その明晰にして透徹せる頭腦と、而して今日まで幾多嘗め來れる辛酸の生きたる教訓は遂に彼をして決心せしむる所あり

## 戦後事業の膨脹と共に

## 彼や沈黙寡言にして多

凡ての事業の根元として欠くべからざる石炭供給業の未だ和歌山が不完全なるに心を留め嘗て大阪住友にあつて研究を

積みたる石炭に對する該博なる智能を以つて和歌山市の石炭界に一大革命を起すべく

## 遂に自ら起つて石炭業

を南材木町に開くに至れるが、開店未だ半歳を出でざるに早くもその後援者には五條製糸會社社長代議士隅田豊吉氏を筆頭に山東鐵礦事務取締役田尻林之助氏等現はれ、其他多數へ來れば實に枚擧に遑わらず殊に特筆すべきは

## 華城石炭界の權威とし

て自他共に許せる大阪市安治川株式會社今西石炭商屋の支配人の如き特に氏を信頼する所あり多大なる聲援と努力を吝まらず、南方氏のために盡されつゝあることは、之皆南方氏日頃の

## モットーとせる正義の

徹底に遂に最後の勝利を得たるものと謂つべく、吾人とても竊かに敬服措く能は

ざる所也。南方伊平次氏今や和歌山に於ける石炭界の革命兒として又龍兒として更に一段の雄飛を試みんとする意ありと彼は常に使用せる外交員等に對し

## 品質のいゝ、値の安いも

のさへ賣れば阿叟も饒舌もいつたものにあらず自ら顧客は雲來霧集せんのみとあり是れある故この一語商略の總てを盡して他言し、さればにや南方石炭商店の得意は和歌山及び一般郡部は勿論

## 大和路に入つて大々的

發展をなしつゝあるまた宜なりといふべし、和歌山に於ける石炭商店は現在十指を數へて尙余すこと三、何れも團栗の脊比べにして進取向上發展の氣色見えざるが中に雄然として一頭角を擡げ來りし南方伊平次氏の尙今後の活躍こそ實に眼覺せしむる雄々しけれ、その大成を期して待つべきものあらん、而も齡未だ三十を余す二、その性

只正義のモットーの下に戦ひ、挫れて後已むの勇氣と膽力を持って飽迄戦ひ來りし氏や、今漸く發展の曙光を認めて更に第二の奮進に入らんとす、切に好漢今後の自重と自愛を祈り併せて幸の多からん事を之れ獨り南方伊平次氏の幸のみならず、吾人衷心の願望亦こゝにあり、こゝに

## 豪放磊落此の邪心なし

## 健實なる歩を辿りつゝ

信用厚く實業家南方伊平次氏を捉へ來り世に紹介する吾人の積意、また多く言ふを要せんや。

## 彼の全性格を語此一事

彼南方伊平次氏の全性格を知るに吾人はこの一事を擧げてその経緯たらしめんとす、即ち縣下那賀郡東野上村出身なる坂上宗太郎と呼べる一青年、一昨年秋青雲の志を抱いて東都に上り、明治大學に學



谷脇田代議士、山田章縣會議員等の出資に依り、我々修學に怠りなかりしも、事志と違ひ、何時しか都の瀾風に染まりてあたら青雲の志を抱いて獨り、空しく歸國に歸省するの已むなきに至れるが、彼南方氏は深く此の前途ある青年の田舎に奔るべきを遺憾とし懇々今後の方針其他の事を斡旋注告して彼坂上を改心せしめ、再び明治大學の學舎に復歸せしめたるは實に大正八年七月の中旬也、併して

### 時代に適應せる

## 谷脇自動車商會

### 自動車の價值

言ふも贅言ながら自動車は文明的の交通機關にして國の文野は其の國の自動車の數を以て下知すべしされば歐米の先進國に於ては路上自動車の運轉せざるなきの有様にして吾が國においても近時世運の進歩と商工業の發達に伴ひ東京大阪其の他の大都市においては自動車の需要激増

今後卒業するまで學資として毎月金二十余圓を給與することとしたれば、青年坂上宗太郎流涕涕泣、此の至大なる人格に感化され、必ずその前途の希望を完成すべき事を南方氏に誓ひ、勇み立ちて再度上京の途に就ける也、吾人この一事を擧げて、南方氏の全性格を語るに亦何をか言はん、只こゝに記して讀者諸君に告げし而已。



谷脇自動車商會主谷脇芳種氏

して従つて其の車輛數の著しく増加せるを見る吾が和歌山市に於ては漸く自動車を利用するに至り最近日々自動車の交通を見つゝあるは市商工業の發展を示す象徴として吾人の甚だ満足する所ならずんば非らず而して谷脇自動車商會の事業の日に隆盛を見るは時代に適應せる事業の當然亨く可き報酬たるを信す

### 谷脇氏の熱心

時氏に對して合資會社或は株式會社に變更せむ事を以てせるも氏は不經驗者も事を共にするは自ら悲境に陥るものなりとして是れ斥け努力則ち是れ資本也との確き信念を以て獨力此の事業を經營せんこと會主自ら時に運轉手となり客の送迎に

## 株式紀陽貯蓄銀行

### 和歌山市本町一丁目

我紀陽貯蓄銀行は縣下に於ける貯金銀行に先鞭を附せる最も古き歴史を有するものなり、明治二十八年四月和歌山市經濟界に重きを爲せる有志等によつて創立せられ同年五月三日より市内米屋町に開業せり當時の資本金は僅々五萬圓なりしも明治四十四年十萬圓と爲し大正元年七月本町一丁目に移轉せり越へて大正二年七月二十萬圓に更に七年二月五十萬圓と増資せるが年を數へると共に基礎確

### 基礎確

實となり益々江湖の信用を博するに至れり、現在に於ける積立金の如き二十六萬圓預金總高實に六百二十二萬餘圓の多

### 普通銀行專業

を以て近時に至り貯蓄預金を主眼とし極めて堅實なる方針にて營業を爲しつゝあ

### 業運また隆々

今や谷脇自動車商會に於て日々三臺の自動車は乗客の送迎に遠く近く米國に注文せるベーターと稱する最新式の自動車到着せんとするあり開業以來僅か一年にして業運隆々として見る可きものあり近

額に達し縣下左記極要の地に支店出張所、代理店を設置しあり

- ◆支店 和歌山市橋向町、海草郡湊村、同中之高村、同和歌浦町、同加太町
- ◆出張所 海草郡黒江町、同日方町、同鹽津村、有田郡箕島町、同湯淺町、同日高郡御坊町、同南部町、西牟婁郡田邊町、東牟婁郡新宮町、伊都郡橋本町、那賀郡粉河町、同岩出町
- ◆代理店 海草郡山口村に在り



り、尙は業務擴張に伴ひ昨年三月同町内  
 營業所の建築工事を起し八月中には竣工  
 の見込みなりと蓋し其宏壯にして美觀なる  
 は四十三銀行に亞ぐものならむと思考す  
 、同行重役諸氏は左記の如き顔觸なり

同 内田彦四郎  
 同 加藤 杲  
 同 關 榮藏  
 同 監査役 宮本 吉右衛門  
 同 谷井 勘藏  
 同 垂井 清右衛門  
 同 支配人 山田 虎次郎

### 博學多才の人たる

## 醫學士吉田彦一氏

和歌山市雜賀屋町東之丁、扇の芝の一角  
 に在る大建物は世に名高き吉田病院なり  
 院長は醫學士吉田彦一氏にして同氏は西  
 牟婁郡大郡河に於ける名門家の出身なり  
 家代々熊本藩主細川公の典醫を勤め維新  
 後大郡河に閑居せる由緒正しき家柄なり  
 、氏は明治三十一年第四高等學校に入り  
 三十四年卒業同年直ちに京都帝國大學醫  
 科に入り三十八年優秀の成績を以つて卒  
 業せり、されど醫學士の稱號にては到底  
 満足すべき性質の人にあらざりし、醫學界  
 の最高機關に就て研究するに如かずとし  
 て同大學附屬病院内科に入り中西、笠原

の兩醫學博士に就き實地研究を積む事四  
 年、四十一年九月辭して歸郷し和歌山市  
 湊北町一丁目内科専門の醫院を開業せ  
 り、最高學府を出で四年に亘る長年月を  
 實地に研究せる手腕は忽ち世人の認識し  
 且つ尊敬するところとなれり、其後現在  
 の病院を新築し移轉せるは大正四年七月  
 なりき、移轉後の盛況や茲に多言を費す  
 迄もなく既に世人周知の事實なり、  
 院主彦一氏は資性温厚にして篤實謙讓の  
 美德に富めり、而も文學の造詣頗る深く  
 書齋に堆高く積める書籍さへ見れば如何

に篤學の士なるか首肯するに足る、尙は  
 政界の傑人出谷英一氏は外舅に當れり

吉田病院 全景



## 和歌山縣の銀行と會社

### 大正七年末現在 和歌山縣統計課調

和歌山縣統計課の調査に係る昨大正七年  
 末現在の商會社及銀行の状況を見るに  
 會社數百三十二銀行數四十三あり先づ會  
 社より見るに其業種は農業及び漁業四、  
 工業七十九、商業三十三、水陸運輸十七  
 計百三十二にして之れを前年に比すれば  
 二十二の増加を示せり **拂込資金**  
 に至りては二千七百七十五万二千三十圓  
 積立金三百六万五千九百三十九圓あり之  
 れ等を前年に比較せば拂込資金に於て七  
 百四拾六萬二千三百五拾圓積立金に於て  
 七拾一万五千百七拾二圓の騰ぐべき増加  
 を示せり、此内譯左の如し

會社業種別	拂込資金	積立金
農業及漁業	三三、六〇〇	一四、二〇〇
各種工業	三、六六、〇〇〇	二、九八、八七〇
各種工業	一、八四、〇七〇	七三、二六
水陸運輸業	二、〇三、九〇〇	四、七

於ても尙増大し行くならむ、尙ほ之れを  
 郡市別に區分して示せば左の如し

郡市別	株式	合資	合名
和歌山	一六	九	六
海草郡	三	一	一
那賀郡	八	一	二
伊都郡	四	六	二
有田郡	五	一	四
日高郡	三	三	一
西牟婁	四	三	一
東牟婁	四	三	二

資金別	社數	拂込資金
一萬圓未満	二五	六二、七〇〇
五萬圓未満	四七	一、〇三、〇五〇
十萬圓未満	一	一、二七、〇〇〇
廿萬圓未満	二	一、六四、〇〇〇
卅萬圓未満	九	一、九四、二六〇
四十萬圓未満	四	一、二七、四〇〇

### 比較せば

行數に於て増減なく  
 資本金に於て七十七萬五千圓拂込資金に  
 於て百二萬五千六百圓積立金に於て七十  
 七萬九千圓六十二圓の増加を何れも示せ  
 り、組織は株式三十合資二個人經營二に  
 して之等を區分せば左の如し

郡市別	行數	株式	合資	個人經營
和歌山市	五	那賀郡	三	
伊都郡	一	日高郡	一	
西牟婁郡	一三	東牟婁郡	一一	
合計	四三			

### 拂込積立郡市別

郡市別	拂込資本	積立金
和歌山	四、一〇〇、〇〇〇	三、二八、一〇〇
那賀郡	二、六、〇〇〇	一、七、〇七三
伊都郡	二、七、〇〇〇	一、六、〇〇〇
日高郡	三、六、〇〇〇	一、三、〇〇〇



西牟婁郡	一〇四二、七〇五	三〇七、八七五
東牟婁郡	九四〇、六〇〇	六四八、四三〇
<b>▲資本金別</b>		
資本別	行數	拂込資本金
五萬圓未満	二	三四、九六〇
十萬圓未満	九	五七九、三三〇
廿萬圓未満	三	三六〇、五〇〇
卅萬圓未満	五	一、〇八五、〇〇〇
四十萬圓未満	四	一、四四六、〇〇〇
百萬圓未満	一	六〇〇、〇〇〇
百萬圓以上	一	二、七五〇、〇〇〇

## 虎城寫眞界の霸王 柴田寫眞館と館主

寫眞術は文明の産物也吾が和歌山市も其の發達に伴ひ寫眞館は兩儀の筈の如く簇生す有休に言へば寧ろ其の多を思はしむと雖ども寫眞館として設備の完全にして撮影の精妙を極むるものは八番丁に宏壯なる洋館建の柴田寫眞館を以て其の最とせむ是れ何人も異論のあらう筈なし同館現在の撮影場は多年経験の結果最も理想的完全なりと稱せらるシングル複式にして館主の苦心の程を窺ひ知るに足る、事實は雄辯也開業以來理想的寫眞館として益々榮運隆々として榮え振りが悪かつたなどの批評は未だ曾て聞きたる事なし、而もかゝる事は何人も周知の事にして



柴田寫眞館

今更らしく書き立てるは寧ろ野暮の骨頂也、吾人は更らに一步を進めて館主香堂柴田太平氏は如何なる人物ぞ彼れを捉へて月旦するの興味あるを覺ゆる也彼は人材雲の如く産出し傑物林の如く輩出する備前の岡山生れの男也、嚴父に伴はれ西牟婁郡田邊町に育ちたり彼は長大なる體軀の所持者也、其血色よき顔色は如何にも彼の健康体なるを思はしむ、從つて風采は堂々として丈夫らしく其の剛健にして堅固なる意志は周宇の間を閃めさつ、

あり彼は頗る社交術に富み客に接するや頗る談上手にして常に微笑を浮べて對者に好感を與へ少々嫌々事たりともそれらしき色をも見せぬ所に彼の凡人にあらざる片鱗を認め得べしとは彼の知己某名士が記者に曾て語りし所也、彼は正義の念の強烈なる漢にして一步も其の主張を枉げず徹頭徹尾其の主張を貫かざれば止まざる概あるは彼れが明治四十年より六年間市會議員として公職に携はりし當時に於いて彼れが社交家たる半面に稜々たる氣骨を露せる、其の鋒筆を露しぬて明治四十五年以來商業會議所議員として現に其の職に在るが茲にても其の主義に忠實なるは彼れの性格を見るべし而も世話好なる點に於いて虎城名士中彼れの如きは僅に五指を屈するほどならんか而も彼れの堅固なる意志、其の圓熟せる資性而も内氣膽を藏する彼れの人格は彼れが多量研究せる佛敎より符來りしものに非らざるか彼れが佛敎の意を注ぎしは今より二十五年前にしてかの現代敎界の明星村上專精博士の當地巡錫に際し彼れは其の説く所に感じて佛敎を修むる發心を爲し後禪門の巨人橋本嶺山師さては東海靖州に參禪し大に得るあり其の宗教上の信仰

と道念の抜くべからざる不斷の修養は腦髓をたぬれぬの如くかざるを得ざらしむ蓋し虎城名士中佛學に於いて彼れの右に出るもの無し聞かざれば劍道に達すと記者は未だ其の技を見ず是れを評する能はざるを憾む趣味としては刀劍術を主とす彼れは先年精糖の妻に死なれて家庭不自由なるまゝに在る名門より後妻を迎へ彼女が容姿艶麗にして社交界の花形也、寫眞館に附設せる美顔術、化粧法は彼女の担当する術也家庭は常に和氣調々として堂に澄るを羨むべきかな。

**和歌浦鐵工所**  
縣下に於ける石油發動機製作事業に先鞭を附せるは我株式會社和歌浦鐵工所なり會社を海草郡和歌浦町に設置し大々的に營業しつゝありて資本金は二十萬圓を擁し八萬圓の拂込了せり、同社の製品は江湖に信用あるは之れ即ち會社の堅實なる事を裏書せるものと云ふべし社長は經濟界の利者岩子安太郎氏なり

**日本除虫菊會社**  
和歌山市に於ける事業界中特殊の事業として世人より有望視せられ且つ信用を博

しつゝある日本除虫菊株式會社は海草郡漆村に在り、營業主目は除虫粉、殺蚊粉同操香にして主として外國に販路多し資本金五十萬圓にして二十萬圓の拂込了し配當の如く常に一期五分内外、出資前途有望の事業と云ふべし

**南海運送會社**  
南海運送株式會社は海草郡中之島村に在り本縣運送事業中の權威にして江湖の信用頗る厚く取扱の如く迅速にして且つ懇切なり明治三十四年二月の創立に係り資本金は五萬圓なり、營業方針は極めて堅實にして誠意を營業モットーとせり、社長は和歌山市會議長神崎純一郎氏なり

**黒江漆器會社**  
黒江漆器株式會社は大正五年八月資本金五萬圓を以つて創立せり本社は同町に在りて主として洋傘柄の製造販賣を爲す、創設日尙淺しと雖も著々其の成績を挙げ今後も大なる躍進を爲すべく過般本社前に一大工場を新築せり社長は岩橋新三郎氏なり



# 法曹界の四名士

## 眼に映じた儘を俎上に載す

苟くも法曹界の人物を批評せむと欲すれば少しく彼等を理解するの豫備知識を有せざる可らず而も筆者は法律に就ては全くの門外漢也、和歌山の法曹界人物多しと雖も茲には其の悉くを載せず唯茲に四人者を捉へ來りて俎上に載せ見たま、感じた儘書き下したるものは此の稿也、但し書かぬからとて文句は云ふ可からず書かれたからとて小言は吐く可からず月且其のものが該當せるや否やは固より問ふ所に非らず一寸した間の瞥見に思ふ儘を評價したる迄也若し夫れ適評ければ記者の批評眼が正しき也誤評あらば不明の致す所也、曾て佛國の有名なる批評家は「吾人は沙翁を批評する時もモリエールを批評する時も結局吾人自らを批評し居るに過ぎず」と、また哲學者は曰く「吾人の批評認識の對象は主眼に外ならず」と記者は此の語を借用して自らの立脚地を掩護せむ可き辯護士諸君の

逆鱗に觸れてはと敢て些か右の如き前提を下し置くといふ

### ▲細見重喬氏▲

當年「鬼掇事」として世の奸邪邪惡の徒を威怖せしめたる細見辯護士は五年間和歌

細見重喬氏



山において検事生活に厭が来たか、但しは大に感ずる所ありしか、驟然検事の職を擲ちて辯護士に早變りし境遇の變化と共に思想の激變せるもの、如し、検事時代には官僚思想に囚はれし如かりし彼れは辯護士となると共に極めて平民的となり新思想を理解するに於いて他に先んずるものあるは亦一個の好対照也彼は曾て記者に語りて曰く「検事時代に被告人を拘禁する位は何等意に介する所にあらざりしに辯護士となるに及んで一夜犯罪の嫌疑者を拘禁するも其の妻子眷屬が如何に愁歎憂慮するかを思ひまた被告の心情の如何に切なきを想へば昨是今非の甚だしきを感ず」と、這は公にすべからざる事なるやも知れざれども境遇の變化により思想の變化の一例として見るべし、乎當年の鬼掇事としていざは被告人の教主也、菩薩也幸疎ゆる論告を爲したる口より多くの被告人を救ふ其の辯護の聲は逆り出る也煽れば猛火となり結ばは露となりとは蓋し此の謂ひ乎彼れは容貌魁偉風采堂々として人

を威壓し加ふるに其の辯舌は莊重にしてや、滋味を帯びたるも聲量に富み、滔々懸河の辯あり多年検事として法廷に練磨せる舌鋒は辯護となるに及んで益々圓熟し來り殊に刑事事件の辯護士として京阪著名の辯護士と伍して遜色なきを見る、彼は兵庫縣の産にして法學院出身也、さる消息通に聞けば將來政治界に打つて出づる野心なきに非らずとか一審打つて出で中央の議政壇上に彼れの熱心に提唱する陪審制度などに氣焔を擧ぐれば亦妙ならむ乎彼れは學殖深く經驗に長じ練達堪能の辯護士として虎城法曹界の白眉として推稱すべく人は法曹界の一權威なりと評するまや宜なりといふべし

### ▲天野得三氏▲

虎城法曹界の花形たる彼は一世の豪傑大西郷が薩南の健兒に擁せられて城山の露と消えし明治十年縣下田邊町に呱呱の聲を擧げぬ幼にして頓悟なごの月並の事は記者は調らべても見されども明治三十七年京大を優等で卒業したるが在學中奇行に富みしは財部靜治博士の曾て記者に語れる所也、彼れは一向邊帽の飾らぬ

男也、髯の如きも滅多に剃つた事もなく寫眞なども撮した事は生來數回あるやなしやなりとは今時には珍らしき男也、彼は辯護士共通の缺陷ともいふべき際のない過ぎる謙味なく能く人言を容れて行氣なく彼は富貴も淫する能はず威武も屈する能はざる眞骨頭を有し一面に恭謙已を

持し掩はず飾らず豪放にして磊落小事に拘々たらずと雖も頭腦は粗笨ならず、而も明治三十九年開業以來の經驗と著實力と思慮は彼をして辯護士として今日の名聲ある所以也、彼れは辯護士たるが故に辯を弄するのみにあらずして彼の眞摯熱誠の辯論は遂に判官を動かさずんば止まず和歌山市に彼れが如き名辯士を有するは一の誇りといふべきか非か、彼れは趣味の人も、何事にも若干の趣味を有す固基可也、將基可也、繪畫可也、殊に彼れは蘭を描くに妙を得たる専門の畫伯も三舍を避く而も自ら謙遜して曰く「僕の畫を求めらるゝものあらば表装し謹んで進せむ」とまた常にいはく「僕は刑事も民事も下手也辯護依頼者に對してか氣の毒也」と少しも自らの能に驕色なし、以て其の人となるを見る可きなり、

殊に學殖の多寡は人間評價の標準に非らざるも彼の學殖の豊富なるは辯護士として聲名ある一の有力なる理由なるべし。

### ▲山本佐一郎氏▲

彼は和歌山法曹界において民事専門の辯護士として第一人者たるは世間定評のある所也彼は刑事法廷において細見辯護士の如く検事を向ふに廻はして侃々諤々の論を爲す漢に非らず柔順なる羊の如く敬虔なる祭壇に跪く信者の如き態あるも一たび民事事件において原告の辯護士となれば被告の辯護士となるや時に勇敢なる事狐狸を翻弄する獸王の如く時に冷々として理を是れと見て他を見ず而も必勝を期する術に氏の名辯護士としての價値は充分認識される也、彼は常にいはく二兎を追ふものは一兎を獲ず予は民事事件を専門として辯護士としての職責を盡さんごす彼れの民事は確かに虎城法曹界を調歩するに足る、如何なる錯綜せる難問題と雖も一たび彼の前に展開せよ、快刀克く乱麻を截つ概あらしむ、彼れは那賀那粉河町風猛山下に産る、幼より頭腦周密にして儼然に抽さんご其の法學院在學



中の如き屢々適切なる質問を發して教授を悩まし其の頭腦の明敏は一般の評判なりしとはさもありなむ、彼れ明治二十九年當市に開業し以來辯護を乞ふもの年一年多く是れがため氏は今や巨万の富を積み其の事務所の如き堂々たる洋館風の建物たり以て如何に人の民事専門の辯護士として成功せしかを見る可し殊に民事専門の辯護士の如きは往々にして敵を作るの止むを得ざる職業に在りし雖も彼れに對して悪聲を放つものなき一事は彼の人格を立証するに余りあり彼れは俊敏と



山本 一郎 氏

て彼れ笑へば夜叉も微笑すべく春風飄蕩として和氣蕩り渡るを思はしむ彼れもまた人徳なるかな、

綿密とを練とし諧謔と智巧を經としたりる努力は彼の今日ある所以と解せんか、かれは鬚髯蓬々として遠くより見れば怖るべきもの、如くなれども一たび接すれば萬福の相を圓滿の童顔に現はし莞爾とし

民、刑と名辯護士として評判よきはかれ也かれは法曹界の宮本武蔵なりかの風采優雅にして見るからに上品なり瘦たる

▲▲加藤 清氏▲▲



加藤 清 氏

冠して民間に下り辯護士として今日に至れり辯護士としての彼れは豊富なる學殖に加へて常識の圓滿に發達せるがために詭辯を弄するが如き事なく理路整然たるのの眞なる辯論振りし和歌山法曹界の重鎮として麻しかしからず彼れは如何なる小事件と雖も、また假令その依頼者は貧窮にして辯護料薄くとも彼れは是れがために辯護の熱心に甲乙

あるの現金的の輕薄漢に非らず一件書類を精讀し被告の事情を詳悉し以て辯護士

人は神經質にして怒り易く、ものに感じやすく往々にして理性を失ふことあるを常とすれ共彼は然らず常に快活にしてニコニコ然として接するものに好感を與へしむ、かれは明治十五年和歌山市に産る家固と富ます彼が今日に至りし徑路は實に一篇の立志傳なり關西ノ學を出で筑波東都に負ふや日本高等科専攻科ノ學と螢雪の苦と積む彼、誘致せんとする悪友の裏木を恐れず彼、瑣瑣累々たる幕場を免れて讀書、爲すや常とて夜は寢床を占す深更に至る、勉學志は睡眠を催せば机に隠れて一睡する、常とし徹夜する如きはかれは毎度の事にて珍らしからざりしといふ其の意志の堅固にして勉學心に強きは世の青年學生の範とすべし事ならずはあらす而も此効率は空しからず僅か二十二の若き青年のかれは優等を以て判檢取試験に合格して世人を驚愕せしめ司法官試験となりて明治三十七年郷里和歌山に就職し在職一年有半にして判事となり後姫路、高知、奈良の裁判所に歴任して、明敏なる頭腦より割り出したる其の裁斷宜しきに協名法官として曠々の名を馳せたるが大正二年二月に至り掛

着實にして信用厚き

▲▲正金貯蓄銀行▲▲

虎城金融界の重鎮

吾が和歌山市は幾多の金融機關を有し其の數頗る多しと雖も市内匠町に設置せる株式会社正金貯蓄銀行の如きは着實なる營業振りを信條とし徒らに外觀の華麗絢

爛を衒はずと雖も其の鞏固なる基礎は信用を厚からしめつゝある好銀行として推稱されつゝあり同行は紀陽實業界の重鎮たる廣田善八氏等主唱の下に設立を企

の職責に努めて倦まず學生時代練磨したる精力は今日に至りて更らに旺盛なるを見る也聞く多くの被告は彼れの辯護を聞いて地獄に佛の思ひを爲すと是れあるかな彼れの今日の聲名を博する事や、彼れ辯護士の外に大正六年四月市會議員に選ばれ同年九月縣會議員に當選し現にその職に在りていづれも重鎮として縣市政に貢獻しまた政友會和歌山支部の幹事たり政治家としても大に將來を囑望されつゝあり幸に奮勵せむことを望むや我も人も痛切たらずんば非らず。

- 畫され去る大正二年五月二十九日創立總會を開き同年十二月より前記の場所に開業したるものにして目下同行の重役は
- 取締役頭取 廣田 善八
  - 常務取締役 中岡 喜助
  - 取締役 橋爪 源助
  - 同 神前 純一郎
  - 同 岩子 安太郎
  - 同 岩 橋 万助
  - 同 柳 廣藏
  - 同 監査役 柳 廣藏
  - 同 市 兵衛



の諸氏にして何れも縣下の實業界に羽振を利かしつゝある士なるは言ふ迄もなし而して同行は行運の隆盛に赴くに從ひて本店のみにては十分の營業を爲し能はざるを以て羽翼を郡部に擴ぐべく日高郡御坊町、海草郡黒江町、有田郡鳥屋城村大字金屋、那賀郡田中村大字打田の四箇所に支店を設けたるも満足せず更らに日高郡藤田村大字藤井に代理店を設置し漸次發展に向ひつゝあり同行の資本金は五十万圓にして現今拂込三十万圓積立金及後期繰越金四万四千圓外に新築準備金として金八千圓の積立を爲しつゝあり開業以來僅に六閱月に過ぎざるに既に預金高二百萬圓以上に達す香粉なき花に蜂は寄りつかず此の一事以て如何に信用を博しつゝあるかを裏書して余あり、頭取廣田善八氏は重厚の資、眞摯の性に加ふるに温情に富み部下を愛して少しも驕色なく街氣なく徒らに邊幅を飾るを欲せず而も卓抜なる才幹を藏して機を捉ふる事は、俊敏也如何なる難局に立つも快刀乱麻を截つ切れ味を有するは温厚の士にして斯かる半面を有するものは稀れ也、氏は今

や巨富を擁して市内重なる會社にして氏の關係せざるなく或は社長として或は取締役として縦横に其の手腕を揮ひつゝあり事務取締役中岡喜助氏また温厚懇實の士にして事務に練達し人に接するに城府を設けず那氣なく頭腦明敏にして廣田氏

の女房役として好個の人物也阿氏中心となりて正金貯蓄銀行を經營す同行の信用厚きは阿氏の信用厚き結果に外ならず從つて同行將來の發展は期して待つべきものあらむ

### 岩子安太郎氏と其事業

岩子安太郎氏は明治十三年二月十二日を以つて和歌山縣海草郡鹽津村に生る、明治二十七年三月大阪に出で大阪高等工業學校に入學するや抜群優等の成績を以つて同校を卒業し、直ちに藤本清兵衛氏の經營せる藤本銀行に招聘せられ應じてその事務に没頭せり、これ氏の

#### 實業界に入れる第一歩

にして、その誠意終始一貫せる執務振は先輩の驚歎する所となり、その手腕を認められ重要な地位を占むるに至れるも明治三十年、同銀行を辭して歸郷し、當時水野國太郎氏の經營にかゝる和歌山商業銀行に聘せられて益々その手腕を認め

#### 拾有零星霜 非凡なる手

腕は社會的展望の厚きと相俟つて、同支店の營業頗に長足の發展を遂ぐるに至れり、此の間、創造的意概と青雲の想を抱ける氏は、和歌山紀陽倉庫株式會社を發起創立して社長の椅子に、株式會社正金貯蓄銀行を發起創立して取締役の地位に、箕島紡績株式會社を發起創立して監査役の重任を帯び又大正五年九月和歌山第

一編ナル株式會社社長岩谷氏職を辭職するやこれが後任として重役に推舉せられたり越へて大正六年和歌浦町出島海岸に

### 株式會社和歌浦鐵工所

を設立し自ら社長となりて將來の飛躍を劃し、目下雜資材秋葉田に社屋新築に着手する等驚異の發展を遂げつゝあり、又氏は同年海草郡中之島に米肥株式會社を發起創立して監査役の重任に就、又株式會社旭商會の重役也大正三年郡會議員に當選して七年辭職するまで郡政に貢獻する事多大なりし也、されど懇眼なる氏は深大の思を遠く海外に馳、朝鮮合併以前全羅南道靈光郡御聖附近の

### 豊沃なる土地 地敷十町歩

を買占り多數の日鮮人を使役して開墾せしめ店員大畑庄次郎氏を派して經營に當らしめつゝあり、まことに精米を業とし傍ら雜貨商を営みつゝあるが品質の優良と、價格の低廉を以つて需要に應じ切れる位にして業務の發達、想像に余りあ

り、氏は又赤十字特別會員にして、家は代々の富豪にして父喜助氏は米肥料及び金貨を業として柑橋問屋として手廣く取引をなし居れり、氏は銃獵を好み、解獵の期になれば良犬を率ひたる蕭洒なる風貌は附近の山岳を跋渉して余す所なく、又氏の性の

#### 活潑にして 勇猛心に富

める、知るに足るべし、邸宅は鹽津港に

### 苦學克く今日の成功を 收めたる奮闘の人 阪井病院長の性格

和歌山市十番丁に巍然たる洋館建の阪井耳鼻咽喉科病院の院長として處城乃吾界の重鎮たる阪井龜定氏は如何なる人ぞ彼れが今日の地位を獲得するに至りし徑路はげに一篇の立志傳にして懦夫をして起たしむるものあり彼は日高郡川上村の西川家に産る彼れの家は舊家なれども彼れ

の兄は家産を倒盡して極めて貧窮なり兄弟十三人あり彼れは其の末弟にして嚴父は彼れ生後四ヶ月にして他界し彼は家計のために僅に尋常小學を卒業せるのみにして年甫めて十三村役場の給仕、爲しいくらかの日當を得糊口の資とす而も幼時より伶俐な彼るは如何なる苦學を爲すも



他日克く人に長たらんとするの志を抱き、縣立師範學校に學ばんと欲し和歌山に出で市内片原の一文菓子屋に止宿す同家は僅に六疊の一室あるのみ而も同家には寺の小僧止宿し居り菓子屋の婆と其の倅を合して四人暮しなれば其の狹隘を容るにも足らぬ有様也されど彼れが一箇月の學資は四圓にして毎月四圓より各一圓宛を送り來るもの也内二圓五十錢を下宿料に充て他は月謝書籍文具代に充てたる也、彼は元來麥飯は大の嫌なりしも二度々々の食事は麥飯のみ也如何に物價の廉さ當時と雖も二圓五十錢の下宿料としては尤もの話也彼は時に一文菓子屋の婆のために店の用事もなしたるが性來勉學心の強さ彼は此の困苦にも克く耐へ居る事一年にして師範學校に入學するを得二十八年優等の成績を以て卒業し一年間御坊小學校に教鞭を執りしが病を以て退職して親戚なる阪井家を襲ぎ京都府立醫學專門學校に入り三十三年卒業し外科醫術を研鑽する事八星霜に及びしが明治四十二年京大に入り耳鼻科を専攻して四十二年市内寄合町に開業したるが大正三年現在の場所を建設するに至り業運隆々として今日の成功を見るに至りし也、

茲に逸す可らざる一のエピソードあり彼れ最近八十八歳の高齡を以て易簣せる母堂のために郷間の一寺に法事を營むや偶々同寺先住のために三回忌を修すべく來れる僧侶岩橋師あり、師は大阪に於て二等布教師也學殖深く且つ眞言宗中稀に見る雄辯家にして亦徳望ある僧侶也焉くん



阪井龜定氏

ぞ知らん此の僧侶こそ當年一文菓子屋に於て六疊の間に阪井氏と起臥を俱にして互に勵まして勉學せる小僧ならむとは彼とは二十年振の邂逅にして彼れ一語、吾れ一語暫して互に言葉なく相擁して其の奇遇に泣き岩橋師は奇しき因縁を語りて

會衆に演説を爲し阪井氏もまた是れに酬ひしといふ彼れが今日に至りしまで嘗めたる幾多の辛酸は彼れの人格を磨き上げ根が神經質にして感情に脆し士なれども常に快活にして豪放最も克己心に富み邁進努力何もの、障害も粉砕せざれば止まざるの傲骨、有す彼れが今日の地位を築きたる固より就上彼れが奮闘努力の賜なるは勿論、

その他何でも来いで政治文學にも興味を有す一事一物に拘泥せずして趣味は廣さを尙ふとは彼れの趣味觀也彼れは自ら辛酸を嘗めしだけに同情の念教く學資を與へて高等教育を卒へしめしもの二名はじめ彼れの世話になりし青年學生多きの一

事に見て彼れが人格の閃めきを見る可し奮闘の人阪井國手の事記すれば尙盡さず

と雖も余りに長文となれば略して茲に其の一斑を叙するに止めて置かむ。

## 和歌山齒科醫の白眉 明樂包次郎氏 事業は氏が最上の趣味也

記者曾て尙齒延齡の語を知る蓋し齒牙の衛生を重んずるは長壽を保つ所以也、和歌山市に於ては近時著しく齒科醫の開業を見るは齒牙衛生上喜ぶ可き現象也、而も齒科醫中或は學理に長せるもの或は技術に巧なるもの堂に鮮少なからずとせむや然れども其の開業の最も古く學理實地共に長じて老巧の手腕練達之技能患者は勿論世上噴々の盛名、傳へ隆々たる今日の業運を見るに至りしもの明樂齒科醫院を主明樂包次郎氏の右に出づるものなけむ氏は、實に和歌山市齒科醫中の白眉として將たまた權威として何人も肯定して異議なかる可し『齒科醫の明樂』といへば縣下は勿論是れを知らざるなく他府縣にかいて知るもの多し故に今更らしく紹介

するは或は無用の事にして明樂氏も亦是れを好まざる所ならむ、寧ろ迷惑とするも測るべからずされど書くと書かぬとは記者の勝手也記者は唯自己の觀察せる所に基き唯自由の筆を揮へば可ならむのみ、氏は那賀郡小倉村大字金谷の産明樂包次郎氏は、右衛門氏の次男也夙に齒科醫を志し明治二十七年頃高山齒科醫學院を優等を以て卒業したるが在學中氏の頭腦の明晰と技術の巧みなるは等輩に擢んじ時に教授を驚かしたる事ありと聞く卒業後は齒科の名醫ドクトル伊澤信平氏に就いて具さに實地を研究し他日齒科醫として雄飛すべき羽翼既に整ひたるを以て明治二十九年の早春和歌山市駿河町に開業するや其の棟腕は間もなくして認められ齒牙を病む

もの續々として踵を接し而も年所を経ると共に其の手腕は益々上達して患者の激増と共に狹隘なる醫院、不完全なる設備にては不可なりとし大正五年巨費を投じて宏壯なる醫院を新築す其の設備の完全なる京阪の大都市に於てすら其の比を見ること稀れ也氏は其の新築に方りていへらく『予の今日あるは一に患者の責也是に酬ゆるには治療室を完全し患者の待合室を立派にするに在り自己の居室を飾りて待合室を狹隘不潔のものたらしむるは予の欲せざる所也』と記者曾て齒を害し氏の診察を受けし事あり其の待合室の如何にも蕭洒にして且つ善美を盡したるに感じ實にお立派ですといへば院主莞爾として『患者の待合室は醫院の何處よりも多く金を投じ意を致せる也』と是れある哉同醫院の一大成功を收めたる偶然ならずといふべし氏は性温厚にして篤實その少しも衒はず驕らざる風采と氣品は奥行の深さを示す邊幅を飾るが如きは大難ひにして朴直にして謙讓の徳に富む、趣味としては自ら少しも無しと謂ひ仕事か意の細くなりし時は人人生至業の境也と氏に取りては事業は則ち其の趣味也氏の成



功せる理由の一斑も亦茲に存せしむ事業以外強いて其の趣味を求めば息意などを伴ひて一葉の扁舟を浮べて網打を爲す事と母堂は盆栽、花卉を嗜むが故に孝心厚き氏は其の趣味に同化せんがために盆栽、花卉を弄るを樂むのみ氏は四男四女ありて却々の子福長者也長男佐一郎君は目下東京齒科醫學校に在學中にして明年秋卒業すべく校中に其の俊才を謳はれつゝある優等生にして卒業後は父君と共に診察に従事す可し佐一郎君にして飯來せば氏は隱退するに非らざるも自然若干の開を得べく別荘に悠々自適するを得べく樂み居れり長女和子は那賀郡粉河町の出身にして最近で陸軍省に奉職し目下陸軍經理學校の教官として學才共に名ある一等主計山本英一氏に嫁げり至誠は天に通ず仁術を施せば自ら余慶ありまた欽羨に値ひせざんばならず、氏は現在の設備も尙は安んずるを欲せず嗣子の卒業飯來を俟つて醫院の設備を一層改善して完全とし具に理想的のものたらしめんと、現狀に晏如たらざる所に事業に熱心なる氏の性格を窺知し得可き乎。

## 平松義孝君の經營せる 大正化學工業所

大正三年六月東京に於て開催せる化學工業博覽會にオレンジ山(Orange)ビスマルクアロン、ベンゾアロン(Y)同(B)を出品して入賞しその品質の優秀なるを保証せられたる同所は現和歌山瓦斯株式會社の常務取

平松義孝氏



縮役平松義孝氏は苦心研究に依りて生れしものにして氏が個人經營にかゝるもの也、和歌山市外中之島和歌山瓦斯株式會社内にあり、初め氏が本邦染料工業の

歐米先進國に比し、その進歩の遅るゝの甚だしきを慨し同社の工場の一隅に化學實驗室を設け自ら技師と共に之が研究をなせしが、實驗研究中小規模の故障事故生ぜしが中にも大正三年夏季末の大爆發は苦心經營せる化學實驗室及びその設置せる試験材料等悉く烏有に歸せしめしが之に屈せず更に實驗室を設け研究を巡らせし結果、輕油、重油、ベンゾール、アニリン、ナフサリン、の實驗完了を見るに至り時恰も歐洲戰亂の勃發するに際し漸く染料欠乏の聲次第に高まり直接その影響を蒙る事甚だしき傾向を呈するを見、更に進展して染料製造研究の業を立て幾多の苦辛を嘗め研究を續行し遂に大正五年に入りてその濃度色相に於て獨逸品に劣らざる完全なる染料を製出するに至り中にも登録商標ザクロ印染料は噴々たる好評を以つて各需要家に歡迎せられ日を逐めて需要増加し從來の製造能力を以つて悉く之を滿たす能はざるを以つて

大正六年十一月組織を變更して株式會社組織となすべく知人の勧誘に依りて殆んど成立に近づきしに突然株式の暴落に會ひ中止するの已むなきに至りしが近く工場を擴張し尙併せて工業藥品をも製造すべき計畫あるを聞けば遠からずしてその實現を見るに至らん、併してその實現の際には斯界に貢獻する所大なるべきは期して待つ可きなり、尙ほ大正七年秋和歌山發明協會より表彰せられたり

## 山東輕便鐵道

海草郡中之島村より同郡山東村伊太新會社前に至る六哩餘の線路を有し盛大に荷客の運輸を爲せるは山東輕便鐵道株式會社なり、同社は大正三年六月の創立に係り資本金二十萬圓を擁し既に全額の拂込を了せり社長は田尻林之助氏にして世人の信用頗る厚し

## 海南刀圭界の第一人者 阪口義譜君と其病院

海南刀圭界に重きをなし名聲隆々たる坂口病院は紀州海草郡日方町にあり、明治三十七年十二月の創立にかゝり院長坂口義譜氏、明治三十六年岡山醫學專門學校を卒業するや翌年十二月内海村字名高に醫院を開業せるはその前身なり、氏は性來頭腦明晰天稟の才を有し内科、小兒科に特殊の技能を揮ひ患者の信頼日に厚きを加へたり、然もその資性温厚篤實にして患者に接する誠心誠意寢食を忘れてその衝に當る、その熱心さは技能の優勝と相俟つて社會的信用いよゝ厚きを加へ、その發展の跡實に長足の觀あるは、以つて故なしとせず、

の發達は從來の病舎を以つて遂に狹隘と不自由を感ずるに至れるより大正七年三月日方町なる現在の地に工を起し一

## 万五千圓の巨額なる

工費を投じて宏壯なる西洋造の病舎を新築すると共に分科制度となし、京都大學耳鼻科教室出身の秀才井上弘氏を聘して耳鼻科、科を擔當せしめ、同時に金澤醫學專門學校出身の石田秀雄氏をして外科を擔當せしめ、茲にはじめて内容外觀共に充實し地方稀に見る理想的病院となれるが更に氏は近き將來に於て病舎の増築をなし産婦人科、病科を設置し各醫學士をして擔任せしめ、尙傳染病舎研究室を作成せんとする計畫あり、我等は重大なる人命を托すにこの完備せる理想的病院



の、海南に建設されたることを、**同**  
**地方の人の至大なる**

阪口病院



け行く海南の地に巍然として聳ゆる阪口病院……それは内容と外觀共に充實せる海南文明の照明塔にして又同地方人の恩人たる阪口病院也、

内科小兒科外科  
院長 阪口 義譜氏

耳鼻咽喉科部長 井上 弘氏  
外科部長 石田 秀雄氏  
藥劑士 松山達之助氏  
看護婦 五 名  
現在入院病舎數 二十室あり

## 男爵三浦英太郎氏

華族とし言へば世人の多くは傲慢にして社會の實情に暗き階級也と一概に斷ずるも男爵三浦英太郎氏の如きは華族と思はれざる程迄に平民的にして而も社會の實情に明く且つ總てに如才なし斯の如きは従らに舊慣にのみ囚はれたる窮屈なる華族社會の人としては他に比類なし資性頗る濃厚篤實にして謙讓の美德に富み而も氣宇高亮雄才世に震ひ高嶺人を動かすの概あり、氏の家柄は世人の知る如く和歌山藩の國家老にして代々祿一万五千石を領し先代權五郎氏に至り明治三十三年特に華族に列し男爵を授けらる氏は其の令孫にして中川三七氏の長男なり明治十一年六月二十七日を以つて生れ同三十六年十一月祖父權五郎氏の後を承けて家督を

相續し襲爵仰付けられ從四位に叙せらる氏は紀州藩士族の子弟を育英するを天職とし元徳義社の社長とし或は南葵育英會の幹部として多くの子弟を育英せり、現に氏の斡旋を受けて社會に活動せる多くの青年にして氏の徳を稱へざるものなきはまた以つて氏の人格高潔を証明するもと言ふべし、現に株式會社和歌山縣農工銀行取締役の重職に在り、一時世論の喧しかりし徳義社解散問題の如きを能く毀譽褒貶の標的に立ちて處理せるは果斷の力に富むものとして吾人の竊かに敬服措く能はざる處なり、氏は徳川侯爵家の中堅にして公爵の信任頗る厚きは蓋し宜なりといふべし  
夫人榮子は舊野州黒羽藩王子爵大關家より出でたる清淑貞節の貴婦人たり

**幸福**とすると共に、阪口氏の奮勇に對しては滿腔の謝意を表せんと欲す、開

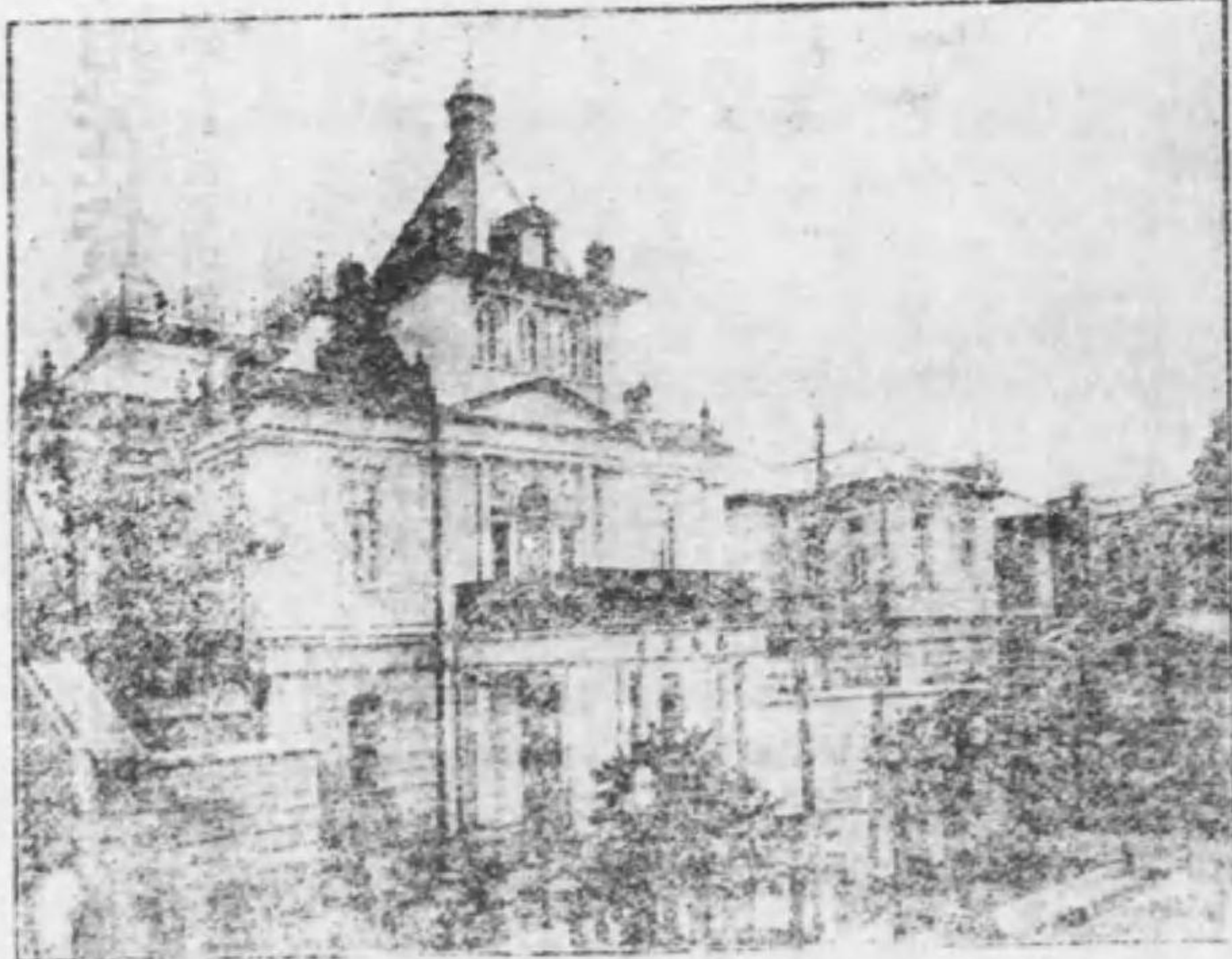
## 南葵育英會事業

基本金實に十八萬餘圓を算し  
今日迄に人材を出す事數十名

舊紀州領：和歌山縣全段及び三重縣松坂以北：出身の子弟を保護奨勵し相當の人材を養成する目的を以て和歌山藩藩主徳川頼倫侯爵を中心として明治四十四年を以て設立せられたる

### 南葵育英

會は逐年隆盛となり今や同會出身にして成功せる人物少なからず後來の發展人材の雲出は想像するに餘りあり今同會に關する總ての概要を記さし、明治十六年の頃我郷黨に對し學事保護奨勵、なごを欲し舊紀州藩出身の文學者は和歌山學生會を同陸海軍武官が中心となるもの組織し同郷團樂の目的を以て相會し相提携して後進者を誘導し共に多年經營の効本見るべきもの渺なからざりしが時勢の進運に伴ひ徳川侯爵を中心として兩會を合併して一の會を組織するの必要を認められ茲に



### 同會設立

となれるものなり  
その成立と共に兩會の財産を引繼ぎ新たに侯爵家より基本財産として公債証書額而六萬圓の寄附あり大正二年賛助員の制度を設け又侯爵家より年額金の出資あり大正六年度末侯爵家より更に公債証書額而六萬圓を寄附せられ大正七年度和歌山縣費より一千圓を補助せらるゝ等その基礎年と共に鞏固を加へ以て今日の隆盛を見るに至りしものにして會の本部を東京市南葵文庫内に設け支部を和歌山縣立和歌中學校内及び三重縣松坂町に設立し各自その區域内の事務を擔當せり

### 貸費資格

は身体健康品行方正學術優等にして學費に乏しき男女學生を徒に對し學費を貸與するものにして即ちその内譯を掲ぐれば左の如し

▲四月乃至九月に約十五名に對し帝國大學百圓高等は



専門學校は八十圓を貸與し若し尙は不足するものには特別貸費として一年六十圓以内を更に貸附せらるる▲陸軍幼年學校入學を志望するものに對しては毎年九月十五名宛一年四十八圓乃至九十六圓を陸軍を志望しその豫備として中學校三年まで就學するものに對しては毎年四月十五名宛四十圓乃至八十圓を、陸軍士官主計候補生に對しては毎年六月に十五名宛四十八圓を、海軍士官志望者に對しては毎年九月十五名宛四十八圓を何れも貸與せらるる

更にその貸與の終了をなし目下社會に出で相當の位置に就き若くは尙は最高學府において修學しつゝあるものを學ぐれば左の如し

- 高等學校十二名▲帝國大學十一名▲高等商業學校四名▲高等商業學校四名▲高等師範學校十名▲醫學專門學校四名▲高等工業程度七名▲商船學校三名▲帝大實科選科二名▲慶應義塾一名▲關西學院一名▲早稻田大學一名▲美術學校一名▲東京裁縫學校一名▲幼年學校二十五名▲士官候補生一名▲中學校六名▲合計九十二名

### ◆現在貸費

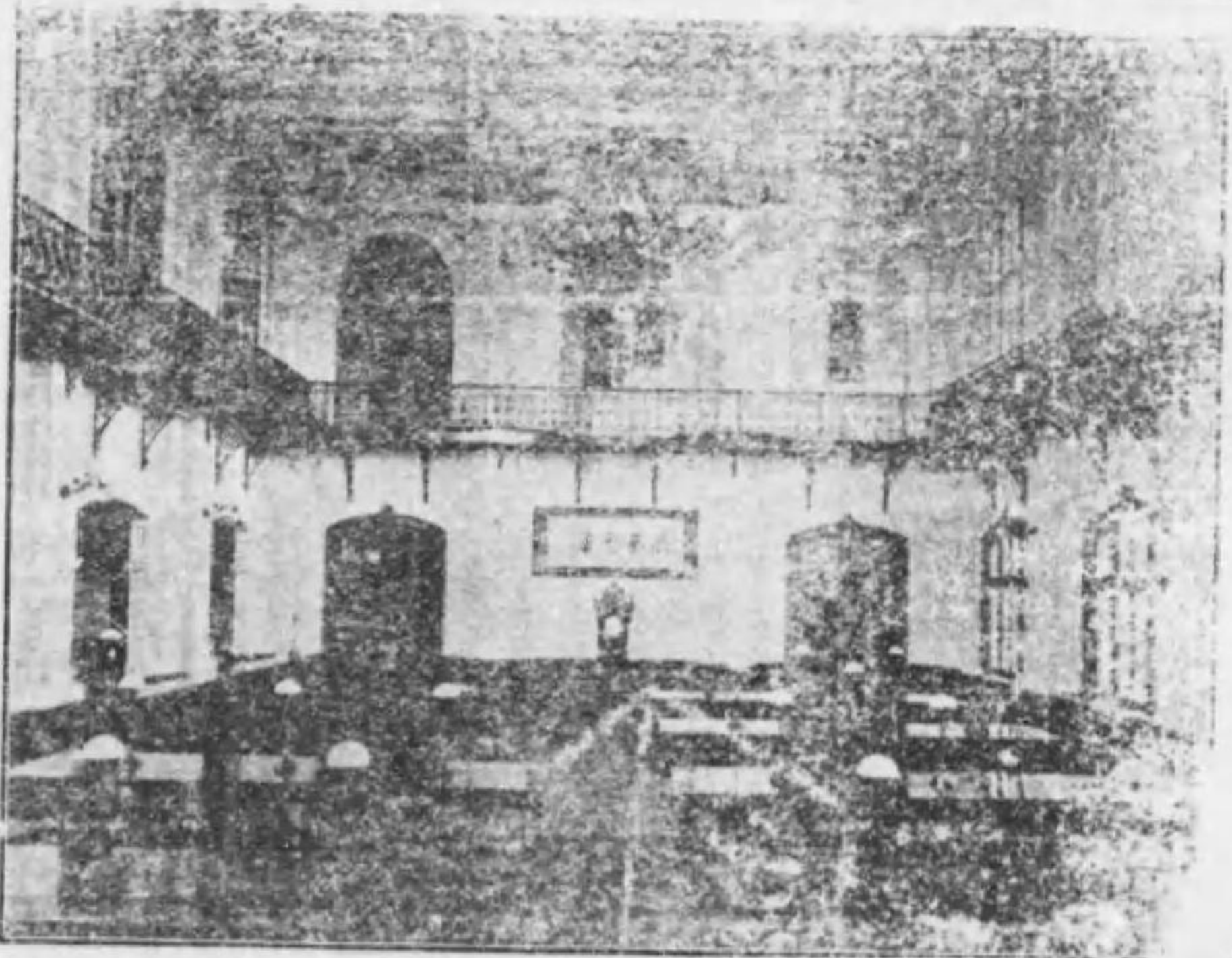
をなしつゝある向を掲ぐれば左の如し

- 慶應義塾一▲關西學院一▲成溪實業一▲外國語學校一▲大阪醫大二▲同志社大學一▲同文書院一▲秋田礦山一▲通信官吏一▲女子高師一▲海軍兵學校一▲幼年學校二七士官候補五▲主計候補生二▲中等學校四▲合計一〇一

而して給費篤志者獎勵金の設置あつて貸費生中特に優秀なるものに對して或る期間學資金の一部若くは全部の給與をなす制度あり是等學生のため大正元年徳川侯府邸に

### ◆進修學舎

なる寄宿舎を經營し學生々徒を收容せり現正の数は七十二名に達し徳川家の諸氏は指馬監督の任に當り、學生大會は東京において春秋二回和歌山に於いては夏期一回これを開き先輩並に學生の親睦を計るに努めつゝあり、會報は一年數回發行し先輩學生の意見及び動靜會況等



高等學校一▲帝國大學一名▲高等商業一▲高等師範六▲醫學專門四▲高等工業六▲帝大實科一▲高等醫科一▲

を掲載し又た各地先輩並に學生の團體と互に消息を通じつゝあり尙ほ基本財産としては十四万五千三百三十九圓別途財産三万八千三百五圓合計十八万三千三百四十四圓を有せり大正八年度の經費

### ◆收支豫算

は一万八千二百一十圓を計上せり、即ち左の如し

▲収入の部	
債券預金利息	六、二八九圓
贊助金	七、七五〇
徳川家年額金	一、四〇〇
同特別寄附金	一七二
貸費返納金	一、六〇〇
縣費補助金	一、〇〇〇
合計	一八、二一一
▲支出の部	
進修學舎本舎費	九四六
同 支舎費	七一四
貸給費並獎勵費	一〇、六五一
武學生徒豫習費	六六〇
本部支那學生大會費	七〇〇
會報費	六八〇
其他諸經費	三、三〇五
備費	五〇
合計	一八、一五六

## 桑山村の殿様

### 桑山新太郎氏

#### 其の二弟の人物性行

「桑山村の殿様」是れ實に紀州著名の豪農桑山新太郎氏の稱也氏の事を録するに方り由緒正しき桑山家の家系を説くのであるを見る、桑山氏藤原性左大臣魚名の裔結城上野介宗廣の三男三郎左衛門尉親治の孫修理大夫宗久尾張國海東郡桑山を領するを以て氏とす、桑山修理大夫定久七代以則嫡男重晴修理大夫從五位下法体して果法印宗榮と改め治部郷法印に任ず大和納言秀長に屬し武田城主にて一万石を領す其の後紀伊和歌山に轉じ三万石に増し豊臣秀吉公より和泉谷川にて亦一万石を加増す其の後數代を経て昌隆に至り武士を廢めて和歌浦に住す其後六代玉州は初名又爵及繼昇といひ後嗣燦と改む當時の文人の稱呼に倣ひて支那風に桑嗣燦といへり字は明夫通稱茂平次後左内と改む玉州鶴

龍明光居士、聽雨室、呵雲堂の號あり書を能くし繪事鄙言、玉州畫題等の著あり、玉州以前是れ以上の畫論なく今日雖も畫家の珍重措かざる所にして帝大たり、美學を研究するもの何れも其の畫論の卓拔なるに驚かざるものなしといふ玉州は畫に於て古今有数の士たるを共、桑山村の開墾を爲るといふ知らるる當代桑山新太郎氏所藏の玉州の筆和歌浦十景圖に録する碩儒故倉田袖岡翁の箱書はよく其の事を悉くせるが故に左に是れを掲げん、玉州先生住和歌浦集古人和歌捕其書製十勝圖奕世珍襲久之天保五年甲午冬十二月十三日我、紀伊公放鷹於城東入桑山氏而懇焉令出斯圖歎賞不能已矣夫世人之稱先生以畫今謂先生憂安原郷之地多荒蕪自捐貲開墾之爲田凡二千畝移農









### 外相夫人の實弟

## ▲滝野三郎氏▼

和歌山市内有數の素封家滝野三郎氏は奈良縣吉野郡川上村大字大瀧故土倉三郎氏の二男也「大和の土倉」といへば全國有數の大富豪其の俠氣と共に海外にも其の名を轟はれし士也元老大官と交際し故伊藤公、山縣公、故井上侯の如き最も親交ありまた近く高輪を以て易貨せる自由民權の主唱者たる板垣伯の如き土倉氏の援助

によりて佛國に留學するを得たる也また故古澤滋氏の如きも亦土倉氏のために負ふ所多しといふ其の他氏の義侠によりて援けられしもの政界實業界を通じて知名の士實に枚擧に遑なく亦世間周知の事に屬するを以て今更らしく茲に録せんは余りに無用なるべし嗣子鶴松氏亦豪宕の士也曾て清國盛宣懷と結託してかの有名な

府を設けず酒を嗜ま  
ず夫人千代子との間  
に文子、敏子の二令  
嬢あり一家圓滿和氣  
常に堂に溢るまた幸  
福なる家庭といふべ  
し氏は夙に赤十字社  
特別社員なりまた近  
く市學務委員に推選  
され公共の爲めに盡  
瘁されつゝあり、

る宣城炭坑を經營し其の大任掛にして率やかなる遺方は一時外人を驚倒せしめし事あり鶴松氏男六人女五人の弟妹を有す末弟六郎氏泉下の人となりし外何れも健在にして世に立てり庄三郎氏の長女とみ子は原六郎氏の夫人となり次男辰次郎氏は實業界に雄飛し次女政子は現外務大臣として卓抜の才、英邁の資、非凡の精力を以て紛糾錯綜せる世界改造の一大轉機に際して縦横の手腕を揮ひ上下をして其の塔に安んせしめつゝある子爵内田康哉氏の夫人にして鬢髮の翠、豐頰の麗、當代社交界の花形として轟はれつゝあり三女は神戸ドクトル川本海造氏に四女は京都ドクトル佐伯利一氏に嫁す四男四郎氏はシャトル正金銀行支店長五男は伏見に在りて橋本相國寺獨山老師に學して禪を學び大に悟道する所あり五女末子は東京の實業家青木徹太郎氏に嫁げり青木氏は最近迄興業銀行の常務理事たりし人也而して三郎氏は瀧野家を襲げり瀧野家は今より八年前までは材木問屋たりしが今は廢業して閑居せり夫人花子との間に四男一女あり末男は令妹の嫁げる青木氏に子なきを以て氏の養子として現に東京

に在り瀧野氏は稜々の氣骨あり嚴父庄三郎氏の血を享けて義侠心に富み人の難を聞くや自ら犠牲となりて援助を吝まらず資性快活にして豪放斗酒且つ辞せず小事に拘々たらざる所流石に土倉家の生れ也而も氏は豪家出にして外務大臣を姉婿に持ちながら少しも人に誇るの色なく客の此

の事に及べは只莞爾として笑ふのみ亦以て其の人と爲りを見るべし矣氏の趣味は刀劍、陶器、書畫、藏書等を主とす殊に刀劍の鑑定に至つては市内に有數の士也從つて愛藏するの刀劍實に珍重すべきものありといふ

### 綿子ル界の人物

## 山田吉兵衛氏

綿ネルは紀州物産の大宗にして其の盛衰は和歌山市はじめ本縣下の盛衰に關するや大也而も事業は即ち人也斯業に従事するもの、人物如何は綿ネルの盛衰に關する事蓋し鮮少ならざる可し吾が幾十幾百の綿ネル當業者中人材多しと雖も山田吉兵衛氏の如きは斯業界の重鎮として押しも押されぬ人物なるべし彼は明治五年三月三十一日人材の産出縣下に嗣を稱へつゝある那賀郡下の安樂川村大字段の農に生る嚴父は千田半十郎氏といひ彼は其の五男也明治二十七年十二月同郡池田村の山田家の養嗣子となる養父吉郎氏は



山田吉兵衛氏

の嫌ひ也故に彼は一切の情實の外に立ちて其の論すべきは論じ主張すべきは主張し秋毫も假借する所なし、陰險險劣は彼の最も忌む所にして公明正大は彼の本領とする所也、而して彼れに最も執るべきは事に當りて誠實なるに在り熱心なるに在り彼れの所論は凡

夙に綿ネル業者にして亦却々優れたる人物にして政治運動にも携はれり彼は養父と共に池田村に其の産を治ると共に明治二十八年當市に業務を擴張し目下郡市二箇所の商店を懸持にて綿ネル業の發達と自家運の隆盛とに力を盡しつゝあり彼は資性高邁にして頭腦明敏、夙に政治思想に富み多年業務の傍研究からず大正六年和歌山市會議員となるや其の犀利の舌鋒は能く肯綮に觸れ市會議員中錚々たる闘將の名を博せり、彼は公事に臨むや極めて嚴格にして公私を混淆する事は大



べて實際問題に觸れて空虛ならず是れ彼  
 れが經營せる商店の發展する所以にして  
 亦市會議員として市民の信服を博しつゝ  
 ある所以也彼は昨年綿ネル検査存廢問題  
 の縣會に現はるゝや營業者に推されて盟  
 主となり或は縣當局に薄り或は縣會議員  
 を歴訪し綿ネル検査の如きは營業者の自  
 治的に行ふべきものにして官僚的強制的  
 に執行すべきものに非らずと主張したる  
 が彼は此の時よりして縣會議員の爲す無

### 三番丁仲買人の重鎮

## 中井助右衛門君

和歌山市三番町丁和  
 歌山米穀取引所の仲  
 買人中井商店は本年  
 二月開業したるもの  
 其間僅に半歳にして  
 信用日に厚く業運隆  
 々として今や同市場  
 仲買人の重鎮を以て  
 目せられつゝあり蓋  
 し店主中井助右衛門  
 氏の誠實の致す所に



中井助右衛門氏

きに憤慨し自ら綿ネル業者の代表者とし  
 て縣議政壇上に立たんと欲するの志を堅  
 くし今秋執行の縣會議員改選に際し馬を  
 陣頭に進め逐鹿場裡に馳驅せむと彼の  
 趣味は將棋・乗馬を好むやた青年と共に  
 共同的事業を爲すは三度の飯より好きな  
 りとは彼の常に語る所也彼れは實に政治  
 家として當市において將來を展望する  
 の士の一人たるは何人も異論なからむ

外ならし氏は慶應二年十一月七日海草郡  
 岡崎村大字神前の農家に生れ中井益裕氏  
 の嫡男たり長じて中井家を襲ぐに及ば地  
 方の聲望高く村會議員、學務委員に選ば  
 れて公共事業に力を致し亦夙に和歌山米  
 穀取引所監査役に選ばれ大正六年郡會議  
 員補欠選挙に當選して海草郡會に其の手  
 腕を發揮したるは人の知る所也いさや専  
 ら三番丁市場に仲買人として着實に營業  
 しつゝある外他を見ず氏は資性一見磊落  
 の如くなれども不羈の人に非らず内心寧  
 ろ頗る眞摯にして同情に富む氏の骨肉何  
 れも世に頭角を現はしつゝあり即ち二男  
 水谷梅次郎氏は陸軍二等藥劑正從五位勳  
 五等たり三男雄裕氏は豫備陸軍歩兵少佐  
 にして目下郷里に飯臥し四男工學士中井  
 義雄氏は陰内の古川礦業所長として敏腕  
 隠れなく五男亦工學士にして朝鮮無煙炭  
 株式會社技師長として名あり令妹靜子は  
 陸軍歩兵中佐瀬戸口彌太郎氏に嫁げり兄  
 弟揃ひも揃ふて斯くも立身出世せしは地  
 方稀れに見る所なり氏は夫人爲子との間  
 に四男二女あり長男重義氏は岡崎村の家  
 に在りて農業を營む次男利裕氏は目下東  
 京帝國大學法科大學に學び長女は陸軍一  
 等軍醫福井雄太郎氏に嫁し次女は家に在

り三男は和歌山中學校に四男は小學校に  
 在學中なり氏の趣味として最も圍碁を嗜  
 び外他なく事業は實に氏の生命たり而も

一門一家斯く榮へつゝあるは積善の家余  
 慶あるものといふべき乎なた羨むべし

## 少壯畫家鈴木大固氏

### 日本最舊家の門に産る

海草郡内海村藤  
 白鈴木は全國鈴  
 木の總本家  
 一也祖千氏命  
 より現今に至る  
 費で百世代連綿  
 として血脉絶す  
 家門の永續殆ど  
 比敵なしと可ふ  
 可し故に其家今  
 に至るも血脉大  
 黒天を祭す祀之



鈴木大固氏

に詣るもの年々絶えずと云ふ同家中興の  
 祖鈴木三郎重家と呼ぶ源義經の臣たり其  
 舎弟の龜井六郎重清と曰ふ義經四天王の  
 一なり共に源家に仕へて功臣たり其の後  
 重幸に至り石山合戦に功あり世人多く飛  
 騨守の名によつて之を知るもの即ち是れ  
 なり紀州名所圖繪等に之を載す畫伯鈴木  
 三郎氏一號大固一紀州の名門鈴木家百三  
 十代の當主なり維新後家門漸く衰へて歴  
 代鈴木家を維持するに最も辛酸を嘗む、  
 弱冠紀州鐵道會社に入り更に南海新報記  
 者となり後感ありて東都に出で東京市役  
 所に奉職中資性丹青の道を好み諸大家の  
 門に出入し專ら畫道を研鑽する多年遂に  
 職を辭して畫家となり氏亦か俳諧を好  
 み竹冷の俳風に親しむ多年其畫風一種の  
 俳味を帯び風俗一脱するの概あり當時畫  
 室を藤白の舊宅に設け専ら新道の研鑽中  
 なり作品頗る氣品に富み將來有望の少壯  
 畫家と謂ふべし



# 赤手空拳より 一千萬圓得たる 大成功者

## ◆今川音藏氏の成功記◆

一千萬圓の綿糸成金として昨今至る處に噂せられつゝある和歌山市新通六丁目綿糸商今川音藏氏は年齒三十五の青年なり僅々數箇月間に斯の如き大成功を収めたるの人は實に和歌山縣下の第一人者として推賞に値すべし、氏の如きは立志傳中の人と言はずして何ぞ、

實家に生れたる○は幼にして大阪の綿糸商岩田惣三郎商店の丁稚となり致々として勤めしが其の眞摯的態度と機敏はいたく主人の信用を博せり、偶々和歌山支店が綿布の思買より大失敗を來し慘憺たる破目に陥入りし時氏の手腕の凡ならざるを認めたる主人は整理の爲め和歌山支店に差向けたり、此時年齒僅か十九才の紅顔なる少年なりしとは何人も思はざる

べし、爾來銳意整理に努めたる結果二十才の時負債全部の償還を爲し而も前途の光明を認めるに至りたるを以つて大々的に業務を擴張せり、其後時運に際會して本支店共莫大なる利益を得つゝありしが氏は昨年九月支店以外自己の貯金全部を投じて綿糸綿布の思買をして忽ちにして百萬圓を贏ち得たるのみか社主より年來の功勞に酬ふべく和歌山支店と二十五萬圓の金を贈與せられ茲に獨立獨歩の地位となり愈々課一貫より得たる百二十五萬圓を以つて散じて元の裸に歸るか更に轉じて大成金となるか一生の運命を決するは今なり、と決心して綿糸綿布の思買を爲せるも時利あらず僅々二箇月にして四十五萬圓を損失せるも勇猛果斷なる氏

は斯の如き小失敗に屈せず残れる八十萬圓を擧げて當時二百圓臺の綿糸を買廻り運よくも相場は日々殿上りに昂騰し幾許ならずして平均一俵三百圓の利喰を爲し遂に三ヶ月の間に八百萬圓の大金を贏ち得たり、

目下の財産は此八百萬圓以外に綿糸定期に掛けた敷金を合して一千萬圓を下らずと言ふ、而して氏は斯の如き大成功を収めたるに拘はらず身を飾る等の虚色を忌み粗衣を纏ふて平然たり此點は採つて以つて施さずべき處ならずや而も情誼に厚く義兄たる辯護士赤坂惠龍氏は過般歐米を漫遊するに際して莫大なる旅費を提供し氏をして後顧の憂へからしめ欣然として旅途に就かしめたり、赤手空拳より一千萬圓を贏ち得たる今川音藏氏——滔々たる虚色にあこがる現代青年の學びて可なるべき也

# 和歌山木材株式會社

## 其の前途は頗る有望也

和歌山木材株式會社は、當市に於ける木材業者間における權威にして創立尙ほ日淺きにもかゝらず漸次發展し着々地歩を占めつゝあり、同社は元現重役小野田庄助、中谷長藏、中島熊楠、喜多繁太郎及び平野林平氏等の匿名組合を商會たりしが去る大正七年三月資本金二十五萬圓の株式會社となし現今拂込金八萬七千五百圓に達し居れり、同社の販路に至つては縣下當業者は勿論阪神地方、四國方面に迄擴大するゝに〇れり最近製箱用材江戸松は北海道より購入する事になり近々

到着の豫定なりと、而して同社は發展に伴ひ從來の貯木場は狹隘を極めるを以て本年六月海草郡湊村大字鼠島の谷井勘藏氏所有たりし貯木場三千六百九十坪を買収し尙貯木場附近に製材工場をも建設すべく目下之れが準備中なりと云ふ現今重役は社長中谷長藏、専務取締役平野林平、取締役小野田庄助、監査役中島熊楠、同喜多繁太郎、支配人中村新助の諸氏にして何れも其の人を得たるを以て同社の前途は頗る有望なるべし

# 宮本吉右衛門氏

秀の實業家の多く存し能く施設せるに基くものと思ふものなり、茲に於て之等優秀の實業家を紹介するは敢て徒爾ならざる事とし著名の士數名を拉し來り聊か知れる點を紹介せむと欲す

關西實業界に於て宮本吉右衛門氏と言へば何人も直ちに株式會社四十三銀行を聯想すべし、實に關西實業界の重鎮として推賞するも何人か之れを駁すべきぞ、資性頗る圓滿篤實にして寛弘の量、圓轉の徳、聰明の資、機敏の質を悉く保持する福者なり、明治二十一年株式會社四十三銀行頭取に就任して以來幾多の困難と戦ひつゝ能く奮闘し今日の隆盛を見るに至りたり、此間三十年間一日の如く和歌山金融界の爲め盡瘁せる功勞や萬人の多とせざるべからざる處たり、獨り同行の爲めのみならず、有ゆる事業に關係し悉く成功を収めたるは實業家の好典型とすべく吾人の感服措く能はざる處なり、現に關係せる事業は株式會社四十三銀行頭取の外和歌山紡織株式會社、和歌山水力電氣株式會社各取締役、株式會社紀

# 虎城實業界の人材

歐洲戦乱以來の虎城實業界は大なる發展を來し今や關西有数の一大商工業地として目されるに至りぬ、其の原因たる素より戦争より來れる寄利に在りと言ふも如

何なる好況も能く之れを捉へて時流に投ずるの人材なくむば到底發展の域に達せざるは言を俟たざる也、吾人は此見地よりして虎城實業界の發展は實に懸りて優



蓄銀行、株式會社和歌山縣農工銀行各監  
査役なり、氏は先代宮本吉右衛門氏の長  
男にして嘉永五年十一月二十日を以つて  
生れ幼名を芳太郎と云ふ、明治二十一年  
推されて和歌山市會議員市參事會員の公  
職に就き市政のため盡瘁せる處渺なから  
ず、兎に角も虎城實業界に必要缺くべか  
らざる人材なり、

### 島村安次郎氏

氏は虎城實業界中の明星にして宮本吉右  
衛門氏と兩々相對する人材なり家代々酒  
造業を營む和歌山縣有数の富豪なり、資  
性頗る磊落豪放なるも機を見るに敏なる  
は何人の追従も許さざるの觀あり、氏の  
酒業なるは何人も周知の事實にして年百  
年中陶然たり、されど能く萬事を處理し  
て誤らず悉く成功するは大石藏之助に  
相似たる處あり和歌山水力電氣株式會社  
を創立して未だ茲に幾年の星霜も經ざる  
に既に巨資を抱き縣下第一流の會社たら  
しめ尙ほ今後の施設に付き鬼策を逞しつ  
ゝあるは實に氏の手腕の非凡ならざる處  
なり嘗て大阪の某一流實業家は感じて曰  
く「島村君の如きは先天的の實業家なり

界に重きを爲し世の信用厚し氏は松井伊  
次郎氏の長男にして慶應元年三月十七日  
を以つて生れ明治十五年七月、督を相續  
し爾來奮闘能く資産の増殖をなし今日に  
ては既に數倍せり夫人しげ子との間に四  
男三女あり、子福者と云ふべく家庭亦頗  
る圓滿なるは常に紳士階級の羨望する處  
なり、

### 松居善助氏

紀州に於ける維新工業に於ける松居善助  
氏の地位は今更言ふ迄も無く高し、松太  
綿布株式會社長とし内海紡織株式會社專  
務取締役として能く其の職責を盡し漸次  
發展の途を拓きつゝあり、氏は寡言沈黙  
の人なりと雖も所論不言實行能く萬事を  
處理して誤らざる處は偉として推賞する  
に足るべし獨り實業界のために活動する  
のみならず和歌山市學務委員として教育  
界のため盡瘁する處多し氏は海草郡日方  
町に於て明治八年四月二十三日を以つて  
生る同三十一年十月家督を相續し爾來紡  
織の事業を經營して今日に至れるものな  
り、

、あれだけ酔つて尙ほあれだけの成功を  
見つゝあるは寧ろ恐るべき人物なり」と  
、之ある哉氏の總てを評し去りし明言な  
り、

部下を愛する事恰も我子の如く常に部下  
は一身同體なりと語れり、故に部下の氏  
を慕ふ事慈父の如く氏のためには死して  
尙ほ餘榮ありと云ひつゝあるは氏の氏と  
や言はむ、願はくむば自愛以つて我虎城  
實業界のため盡瘁せられむ事を、

### 津村紀陵氏

津村氏は豪邁至剛の氣象と抱き局量氣闊  
の士なり、和歌山水力電氣株式會社專務  
取締役として能く島村社長を補け今日の  
隆盛を見るに至らしめたり而して野上輕  
便鐵道株式會社長として海南通界のた  
め功勞多し、大正七年推されて貴族院議  
員と成り現に其職に在り以つて氏の社會  
的地位及人高を窺ひ知るに足るべし、氏  
は先代津村重兵衛氏の長男にして文久三  
年二月二十二日を以つて那賀郡山崎村に  
生る、家督を相續して以來家産次第に増  
し今や多額納稅者として名聲隆々たるも  
のあり、前記の會社重役以外株式會社和

歌山倉庫銀行取締役たり、

### 南方常楠氏

一代の哲人ミルの言に在る「創造の心思  
、創造の品行」に適する性格の人は南方  
常楠氏とせざるべからず、滔々世を擧げ  
て惡風に染む現代に於て稀に見る端正の  
人は南方常楠氏なり、氏は先代南方彌左  
衛門氏の三男にして明治三年三月二日を  
以つて生れ同十二年六月家督を相續せり  
、青年時代篤く負ひて東都に出、早稻田  
大學に學びて優等の成績にて卒業せり、  
夫人をす子は縣下屈指の富豪中野友右衛  
門氏の令妹にして才色兼美の婦人なり、  
其關せる事業の主なるものは朝鮮土地株  
式會社日本糖物株式會社各社長、南海晒  
粉株式會社、和歌山瓦斯株式會社各取締  
役の重職に携はれり、又氏の兄弟は悉く  
博學多才の人にして彼の世界的植物學者  
として名高、南方常楠氏は氏の令兄なり

### 松井伊助氏

松井氏も亦虎城實業界有数の人材なり、  
性頗る圓滑にして篤實の人なり、和歌山  
紡織株式會社外數種の會社重役として斯

### 北島七兵衛氏

北島氏は虎城實業界中の奇才なり、果斷  
の勇に富み神算鬼謀能く調して奇利を博  
するは先天的の實業家なり、性清廉にし  
て潔白身を保つに節儉質下且つ心を持す  
るに公明正大なり、世人の信望頗る深き  
一代の長者なり、老いて愈々壯んにして  
今や老齡にも拘はらず事業の爲め奔走し

### 好評噴々たる齒科醫

### 岩橋彌太郎氏

和歌山市に於て現在開業せる齒科醫は其  
の數約二十名に上るまた昌んなりと謂ふ  
可し其の中には技術に老練なるもの學理  
に長せるもの少しとせざれども市内難賀  
町に開業せる岩橋彌太郎氏の如きは最も  
評判より名醫也氏は縣下海草郡西和佐村  
大字岩瀬の産也仁術を以て世を渡らんと  
志し夙に笈を東都に負ひ獨逸協會學校に  
遊び齒學を修めしが不幸病魔の厄に遭ひ  
て暫らく學業を廢するの止むなきに至り  
しが病癒ゆるに及んで齒科に志し優等の

て日夜席温さらず其勢力絶大なるは感じ  
て余りあり、現在南海晒粉株式會社社長和  
歌山水力電氣株式會社、株式會社四十二  
銀行各監査役其の他諸會社の重役を兼ね  
居れり、氏は深見藤七氏の長男にして嘉  
永四年六月六日を以つて生れ後北島七兵  
衛氏の養子となり明治十一年十月家督を  
相續し現在の名に改めたるものなり七男  
五女の子福者なり、羨しき哉

成績を以て其の開業試験に合格し東京に  
おいて女子齒科醫學校に教鞭を執り傍ら  
實地講習會の講師たり大正五年現在の場  
所に開業したるが氏の齒科醫としての手  
腕は忽ちにして認められ患者續々同醫院  
に集まりつゝあり氏は開業以來間なく和  
歌山縣齒科醫師會の理事に推され現在同  
會の評議員として虎城刀圭界に重きを爲  
しつゝあり氏は風采堂々性豪放活達にし  
て小事に拘々たらせず而も患者に接する極  
めて懇切也且つ氏は友誼に富みて拘すべ





氏郎太彌橋岩

### 地方稀に見る奮闘的事業家

## 田口藤之助氏

さものありといふ趣味としては乗馬を好み時に是れがため危険を買ひし事あり狩獵も好み且つ愛犬家として知らる氏は年齒春秋に富み尚科醫として多くの未来を有するの士と稱せらる。

### 美しい毛見村

天下の絶勝和歌の浦曲の汀を磯つたひに南すること約十町、こゝ天照大神を奉祀して鬱蒼たる老杉古木森々として、遙かに毛見の濱邊に奏するが如き清聲を傳へらるゝ所、人口五百の一村落、泰平の天下を謳歌して瑞氣普ねく村に満ち渡り、只神の宿れる村として、其處には天下泰平と、瑞氣豊穰と然して嬉々たる大黒様の如き五百のお百姓さんとのみ住める仙境のやうな清い美しい村、こゝを海草郡紀三井寺村大字毛見と呼ぶ、

### 田口藤之助氏

毛見の田口か、田口の毛見かと言はるゝ程、田口家と呼ばば舊家であり豪農である、藤之助氏はこの田口家の主人で恰似潤達、然も頗る朝氣に富んだ地方稀に見る新進の活動家であり事業家である、彼は所謂豪農の隠居さんで終るやうなそんな舊來時代の古い〜思想や陳腐の行爲は敬服も持合してゐない、全く以つて地方農村には稀に見る新進氣鋭の活動家であり事業家である、

### 見よ彼の事業

彼の住む毛見の邸宅は毛見御殿と呼ばるゝ位宏壯なるものである、毛見の十一屋、昔ながらのこの俗稱は直ち、豪家たる事何人にも夢想しめる、然、彼田口藤之助氏は田畑十數町を有し其他會社銀行の株を多く有することに於て村内に比敵なく、自己より肥料商を営み、那賀郡小川村には之の販賣所を設置してゐる、海草郡冷水に於ける彼の採石事業は頗る有名なものでその利純も莫大なるものである、海草郡水軒にある紀伊製鐵肥株式會社は彼等の發起創立にかゝるもの社長は前田守吉氏にして田口氏は實に専務取締役の重任にある、吾人は田口氏を紹介するに當り茲に特筆大書せざるべからざるは最近資本金二十万圓を以つて

### 海南倉庫會社

の日方町に設立せらるゝことである、この發起創立は實に我が田口藤之助氏等の主唱にかゝるもので、去る八月十五日日方町永正寺に於ける發起人會は既に万事を決つした、この會社の前途は如何に有望であるか、又この會社は如何に同地方のために貢献する所あるか、それは今更

吾人の贅言を要するまでもなり、この大會社が將に現實化せんとして彼田口氏は専務取締役の重任に推舉せられんとしてゐる、この一事よく彼の對社會的信望の如何に厚きかを証明してゐるではないか、吾人は斯の如き人材の地方に存在することは同地方人の至大なる幸福であり、また一面地方人交發以上の至大なる功勞者である點に對して吾人は深甚なる感謝の念を捧げたい、政治的方面に於ける氏

### 染料界新銳の人物

## 津田芳夫氏

和歌山市新難賀町三番地に染料藥品の店舗を設け手廣く營業をなすつゝあるは之れ津田芳夫氏の經營にかゝれるもの也氏は明治二十七年十月十五日を以つて那賀郡山崎村字中島てふ草深き僻村に農



津田芳夫氏

は現在

### 海草郡會議員

中野々の名、博し郡治に對する功績は又至大なるものがある、今日まで村會議員學務委員等の名譽職に幾度の推舉されその功勞は吾人の筆紙、盡し能はざる程ある、この清い美しい平和の村、毛見の里にこの偉人田口藤之助氏が存在するのである、

を營みつゝある津田芳夫氏の長男に生る、氏幼時より伶俐にして頭腦が明晰、その前途、曠望されしが、明治二十九年驟然決意する所あり、將來實業界に身を成さんと鞏固する意志の下に父里の膝下、藥和歌山市に出、波染染料店に入りて丁稚奉公とす、之の實、氏が十三才の時也、入店以來あらゆる辛酸苦楚、嘗て傍に染料藥品に對する研究と該博なる知識を蓄蓄し、將來獨立經營せんと只管、營々たり、大正元年波染染料店、退き株式會社大正商會和歌山出張所に轉じて滿三ヶ年、愈々自己の地位と社會的信用的鞏固となるを敢然として起ち新中通り七丁目に獨立染料藥品商を經營することゝなれり、これ實に大正四年の秋十一月也、創業當時に於ける氏は單身空拳、助手もなく小僧もなく自身主人ともなり丁稚ともなりて不眠不休の奮闘、續けたる結果業務日に隆盛、頗る、營業所の狹隘を見るに至れるより遂に現在の新難賀町三番地に移轉、電話一五七四番一するに至れり、氏は資性快活、現在商人として代表的人物なると共に、又虎城ト染料界の傑物也、這般の戦はあらゆるもの



を生める事... 知れど、僅か  
新界に馬を進めて獨り... 二年の短日月  
の間に、津田氏をして今日隆盛をあら  
しめたるもの、實に遠くの事、氏の經  
験と正義の奮闘の賜、外へは言へ  
、又時機の幸運兒なりし言はずんはあ  
らず、氏は又大正六年に歌山県薬料藥品  
業者を以つて組織されたる薬料協會 會員  
は市内の新業者二十六名の幹事に推舉  
せられたる一事は以つて氏の人格と信用

### 縣下外科醫の白眉

## 丸山震五郎氏

### 年少家出して東都に學ぶ

和歌山市はとて縣下に外科醫を開業せる  
もの多しと雖も和歌山市屋形町に開業せ  
る醫學士丸山震五郎氏の如きは其の經歷  
に於て其の學殖に於て其の刀圭家として  
手腕に於て恐らくは氏の右に出るゝもの  
なかる可く斬然頭角を現はし外科醫中の  
白眉を以て推されつゝ有り氏は慶應三年

二月和歌山市に産る家頗る舊家藩醫とし  
て有名なる桃井元俊氏の第五男也氏は幼  
にして學を好む稍長するに及んで東都遊  
學の志ありしも嚴父桃井氏は清廉の士に  
して家富せず而も子女多きを以て學費の  
缺乏を憂ひて氏の望みを果たさしめざり  
しが氏は遊學の志勃々として亦禁せず年

前めて十六、氏は一日遂に意を決して大  
服、書籍等を入質して旅費を調へ無頼家  
出し家人の追跡を恐れ大橋より車に賃し  
て道々急ぎ貝塚に一泊翌日難波に出でし  
が車夫土地不案内なりし爲の辻路踏、廻  
りしより多数の無頼漢に追はれ生半未  
だ曾て無き恐しさを感じたりしとはさも  
わらむ斯くて氏は神戸に出で乗船し出郷  
關の歌々高唱しつゝ東の空に旅立ちぬ後  
日開けば氏の家出に驚きたる嚴父は追手  
をさし向けしに其の追手は氏の乗船の解  
親前二時間氏の乗船せる事判明せるも  
の志を遂げしめんと欲して空しく引取り  
しなりといふかくて上京せるも固より學  
資あるに非らず縣下新宮町出身の印東玄  
徳氏、前傳染病研究所長林醫學博士等の  
藥局生たり苦學研鑽一日の懈怠せずして  
遂に第一高等學校に入學するを得優等の  
成績を以て卒業し東京帝國大學醫科に入  
り明治三十年十二月是れまた優等の成績  
を以て卒業後同大學第一醫院外科醫局に  
於てスクリヤ氏に就き深く研究する處あ  
り後、豊橋病院に聘せられ勤務約一年廣  
島縣立病院外部長に轉じ五星期にして明  
治三十七年飯縣し和歌山縣立病院副院長

の職に就き専ら外科部を担当し翌三十八  
年四月同病院の日本赤十字社和歌山支部  
病院に改稱さるゝや近藤節藏氏の後を襲  
ひて院長となりて盛名を博し大正六年十  
二月迄其の職に在り其間氏は大正二年四  
月請假を得て渡歐し世界醫學の淵藪たる  
獨逸柏林に於てセイネヘルヒ病院に於て  
外科病理を研究し大に得る處ありしが偶  
々歐洲の大戦亂勃發し日獨の國交破れし  
かば氏は三年八月飯朝の途に就き途次英  
米大學病院などの觀察を爲したり氏は此  
の外遊に於て得る所實に大にして從來の  
施術療法を一變せるもの多しといふ氏は  
赤十字社支部病院を退職後現在の場所に  
開業したるが氏の非凡の手腕は既に一般  
患者の認むる所なるを以て患者雲來霧集  
の盛況を見つゝあり氏は資性温厚篤實に  
して人と争ふを好まず同情仁慈の精神に  
富み患者に接する懇切にして其の救世主  
の如く仰かれつゝある偶然に非らず趣味  
として斷曲を好みまた好んで歴史を讀む  
従つて史學の造詣深からずといふ令夫人  
証子との間三男二女あり嫡男壽雄氏は氏  
渡歐の二週間前二豎に襲はれ白玉樓中の  
人と爲れり氏は愛兒を葬つて直ちに豫定

の如く外遊の途に上りし當時の感慨思へ  
ば今も涙の種なりしとは察するに餘りあ  
りと言ふ可し矣。

## 醸界の先覺者 前田辰之助氏

### 事業界の梟將 造酒實に九千石に達す

實業界の人で教育事業に献身的な意を注  
ぐ人は少ない偶々有つた所で只自分の爲  
めにする人であつて教育其のものを徹底  
的に理解した人は殆んどない位だから結  
局教育界を毒するとも貢献する點は零に  
なる記者は此の俗物の多い我利主義者の  
跋扈する世の中で眞に教育を理解した一  
實業家を紹介するそれは我市醸造界の先  
覺者事業界の梟將前田辰之助氏である氏  
は市内柳町に本店を置き同じく南材木町  
攝州西の宮の二ヶ所に醸造場を設置し、  
**司長 大福正宗 春光**  
**總裁**を吟讀し好評噴々たる前田酒造  
店の主人である、同店は明治三年前記の  
場所を開業し前代前田辰之助氏と令弟前

田龜之助氏と相並んで酒造業を営み龍龜  
の瑞家運と共に隆昌極めたが明治四十  
二年主人の病歿を見るの不幸に接し令弟  
襲名前田辰之助氏と稱へ爾來着々家業を  
擴張し攝州西の宮に醸造場を分設し兩場  
相俟つて益々吟醸に意を用ひ柳町の本店  
には特に俊秀なる技師を聘し試験場を設  
け最新の學理を應用し改良進歩の實を擧  
げ販路益々伸張今や實に其の造石高も増  
加し西の宮醸造場よりは年に五千五百石  
和歌山南材木町醸造場にては三千五百石  
總計九千石をふ莫大なる造石高を示し其  
の芳醇は各地の共進會に品評會に名譽あ  
る受賞を以てせられた事は殆んど常事の  
ことに屬するのである清酒に限らず總て  
の醸造物の漸次醸造石數を増して行くの  
は最も優良なる成績を示してゐる謹左で



ある我前田酒造部は此の點より見るも本  
 縣は元より日本に於ても其の好成績に比  
 類少ないもので大正三年當時醸造高三千  
 石が今日九千石に上つたのでも知れる記  
 者は兼に前田辰之助氏を以て眞に教育を  
 理解した模範とすべき人であることまで筆



前田辰之助氏

て氏の熱誠なる此の貢献を認めない又推  
 賞しない人はあるまい氏は亦た事業界の  
 腕將として其の識見に於ても人格に於て  
 も決して人後に落つべき人ではない嘗て  
 中央實業界に雄飛し其の敏腕を揮ひ勇名  
 を馳せた程あつて今日會社にして氏と關

を走りし其は氏が大新小學校の事務委  
 員として献身的に児童教育のために意を  
 傾け學校當局を鞭達し之れに要する寄附  
 を惜まざるに依つても窺ひ得るであらう  
 大新小學校當局は勿論同校児童父兄にし

自しなものは殆んどないと言つても差  
 支はあるまい現に紡織界の霸王内海紡織  
 株式會社、和歌山工業の原動力たる和歌  
 山水力電気株式會社我國の新事業として  
 有望と目されつゝある東洋毛糸株式會社

及び其他數會社の重役を兼て常に事業界  
 の腕將とし又一方の先覺者として采配を  
 振つて居る氏の寢食を忘れて公共的事業  
 に盡瘁せられるのは叙上の外曾て市會議  
 員として市政に貢献し將た商業會議所議  
 員として所得調査委員としての奮勵に依  
 つても社會に重んぜらるゝの故なきに非  
 ざるを知る事が出来やう富豪の思ひを  
 公益に馳せて常に社會の改善のために盡  
 す程現實的な其結果を齎すものであるそ  
 れは他の多數人が如何に理想として抱望  
 し實現を望んである事も一朝にしてなし  
 遂げ得るからである亦にそれだけ富豪の  
 日日の行動の上にも慎重に出なければ  
 ばならないのである專斷的、征服者の氣  
 分を離れて平民的、開放的、現代文明の  
 空氣を吸はなければならぬ所以である  
 記者は前田氏の如き近代文明を取入れた人  
 の心が實業家に席を占められるを喜ばし  
 く思ふと共に滔々として物質本位に走ら  
 んとする事業界が氏の如く開明的ならん  
 ことを望んで止まぬのである、尙最後は  
 特筆すべきは、氏は今回全國中第二の灘  
 と稱せらるゝ京都府下伏見に共同酒造會  
 社を設立し自ら社長となりて將來一層の

大發展をなすべき計畫中である事は更に  
 樂しいことではないか。

### 綿子ル界新銳の人材 ▲鍋島彌三郎氏▼

縣下海軍郡紀三井寺村大字内原の一角、  
 和水電車布引停留所を東に去る三町の所  
 、宏大なる邸宅と幾棟の工場を有して織  
 機の音響をましく、盛んに織製をなつゝあ  
 るは之れ鍋島彌三郎氏の個人經營にかゝ  
 れるもの也、氏の嚴父故伊之吉氏は人も  
 知る如く、衆望を一身に荷ひ内原郷の區  
 長として學務委員

業を繼承せり、時恰も日露戰役後にてあ  
 らゆる企業は鼎の如く勃發せんとして、  
 戦後の商戰又激烈なりしも、彼は克く商  
 開商機を逸せず、順調に進み來りて、今  
 や我が郷里に宏大なる邸宅と幾棟の工場  
 を構へ、巨万の富を蔵して翫かに快心の  
 笑を漏らす、彼の得意蓋し想察するに難

職に就任すること  
 實に多年、村治の  
 爲めに貢獻する所  
 實に至大也、然も  
 紀州物産の大宗た  
 る綿糸ノ業に従事  
 しむたるが易質す  
 るや、即ち彌三郎  
 氏は論僅かに二十  
 有三にして故人の



鍋島彌三郎氏

からず、彼資性快活活潑にして公共心に  
 富む、その郷を思ふこと我家を思ふが如  
 し、彼の事業が斯の如く逐年發展しつゝ、  
 あるに拘はらず依然として斯の如き交通  
 運輸の便を欠く邊土に織下所を有し居れ  
 る所以のものは、同工場の職工は主とし  
 て同地方の子弟婦女を採用し、以つて收  
 利の幾分をして地方を均霑せしめんとす  
 る至情に出でたるや想像に難からず、斯  
 の如く郷黨を愛育する温情と誠意を以つ  
 てせらるゝ資本家のあることは同地方の  
 實に幸福とすべく、ために對勞動者關係  
 は頗る圓滿にして和氣常に闊々たるもの  
 あり、誰か一度彼の村落に入れ、村民の  
 悉くは高潔なる彼の人格を隨喜仰仰して  
 語るに殆んや辞なしと、然も鍋島家は古  
 く連綿たる血脈隆々として今日の鍋島家  
 を見る、彌三郎氏はその分家にして本家  
 は氏の令兄伊之助氏之を繼ぎ豪農を以つ  
 て鳴るその他彼の一族多く何れもその地  
 の牛耳をとる、その勢力又知るべき也、  
 然も彼や年齢僅かに三十を越す四、夙に  
 政治思想に富み業務の傍研究からず現  
 紀三井寺村會議員にしてその舌鋒は能



く首肯せしむるものあり彼の政治的方面に於ける將來……又一、調割目に價する問題たらずんばあらず、万福の相を圓滿の童顔に現はし莞爾として彼れ笑へば夜叉も微笑すべく春風、蕩然として和氣漲り渡る、人爲争はず、驕らず寧ろ彼が事

### 好評嘖々たる

## 宇治田耳鼻咽喉科

和歌山刀圭界人材固より多し悉く是れを月旦し評論するは一朝一夕の能くする所に非らず此書收むる所世人の以て名國手と見爲し記者の以て新界の重鎮たる士を翹上に載せて解剖せむと欲するのみ和歌山市十三番丁に開業せる宇治田耳鼻咽喉科院々主宇治田幸次氏の如きは記者の眼に映じたる所を以てすれば醫師として極めて適格の士たるを思はずんば非らず氏は人材の輩出を以て鳴る那賀郡山崎村



宇治田幸次氏

業の大より人格の偉なるを尊重すべし、彼は實に總ての點よりして現代實業家の好典型也、吾人は茲に彼鎗島彌二郎氏を拉つし來りて秃筆を阿する、また故なしとせんや。

の産也、幼にして伶俐止つ甚だ勉強家也、明治四十四年縣立和歌山中學校を優等

を以て卒業し後京都醫學專門學校に學び是れまた優秀の成績を収めて卒業し直に京都大學病院に入り中村博士指導の下に

耳鼻咽喉科を研鑽し其の勤勉熱心は人に驚かすものありしと語に曰く「瀟灑之頭、腦者惡魔工場也而惡魔又依懶惰失光彩」と所詮百千人に傑出せる見榮えある結果を築成せむと欲すれば百千人の企及す可らざる勤勉努力に依らざる可らず宇治田國手の今日の盛名あるは其の學生時代助手時代において勤勉努力せる結果に非らざるなき乎斯くて氏は大正三年飯縣日本赤十字社和歌山支部病院に勤務する事二年氏の手腕は大に此時に於て認められ氏に對して開業、懲過するもの多きより氏は同院を辭し遂に前記の場所に開業したる也、氏は快活恬淡にして隱忍耐久力に富み眞率堅實にして聊も浮佻の影なし而も人に應接して城溝と構へず甚だ親むべく敬す可し氏は酒、嗜せず高尚なる音楽の趣味に富めども花柳の巷に、絃、聴くが如きは氏の好まざる所また以て氏の性格を見る可し、氏の風采秀麗にして而も男らしきを見る氏の令夫人和子は市内實業家中活達と機敏を以て名ある杉本源治氏の令妹也和歌山實科高等女學校出身の才媛にして容姿頗る美也琴瑟相和し鬻々として春風堂に滿つと思ひあり唯恨むらくは未だ子なきをされど氏は子の早く

産れざる却つて事業に専心なるを得るの所以也と爲し益々熱心其の采に勵精するの故を以て同院の業運は日に隆盛を

見つゝありて患家の信望極めて厚く最も將來を囑望する、良醫として茲に推稱するに吝かならざるもの也。

### ▲海南刀圭界の權威▼

## 人格の人 川村友吉氏

人格の人、技能の人として海南刀圭界に輝々の名ある内科婦人科醫川村友吉氏は抑も如何なる人ぞ、氏は明治十四年一年を以つて有田郡系我村の豪農桑原甚助氏の末子に生る、明治三十六年海草郡内海村村長にして醫師たる川村政雄氏の婿養子となり入籍す、明治三十六年和歌山中學を拔群優等の成績を以つて卒業するや、篋を京都醫學專門學校に負ひ、將來斯界に身を立てんとしてに専念勉學に努む、同四十一年春四月、同校を優等の成績にて卒業するや同附屬病院助手を拜命し婦人科内科の實地に付研鑽攻究し、翌四十二年六月同附屬病院を辭職するや直ちに京都帝國大學附屬病院に聘せられて四十二年九月までその非凡なる手腕は先輩の

多く驚歎する所たりき、歸來直ちに日方町に病舎を新築し明治四十三年九月十六日、……これ彼が記念すべき自己運命の開拓に入るべく、開業の緒を切りたる日なりし也、爾來今日まで月日を關すること十星霜、彼の該博なる智能と、その敏腕は内科産科醫として、遂に斯界に輝々の名を博し、海南刀圭界の人物を月旦せんとするものは先づ彼川村氏を擧げざるべからざるに至れり、川村病院今日の隆盛を見る又偶然にあらざる也、氏はまた人格高潔を以つて世既に定評あり、堂々たる軀軀に豐饒なる肉を所有する好男子、温顔常に微笑を漂へて、急らず、追らずその悠々たる態度は既に偉人傑士の表徴たらずんばあらず、然も資性沈

默寡言多く語るを好まず、語らんとすればその實蹟の榮を証左として又微笑す、その奥底に何物をか藏す、吾人のよく窺ひ知る所にあらず、温和にして小事に抱呪せず、雅量の雄大なるは吾人の敬服措く能はざる所也、然も患者に接する懇切丁寧にして慈母の如ければ、海南の救世主として患者常に門前に殺到す、令國政枝子は温淑貞節、在つては三子女の賢母たり、出ては玉の如き温容は海南社交界に異彩を放つ、氏との間琴瑟頗る相和し、家庭は和氣霽々として春の日の如し、長袖流に似合はず氏の趣味は殺伐なる擊劍柔術を好む外何物もなし、趣味の男性的なる又何をか語るもの、如し、海南の救世主、人格の人、技能の人……さらば川村友吉氏の筆を擱かん、……只その一端をのみ述べて……



# 苦學克く今日の地位を得たる 青年辯護士秋月集一氏

一代の哲人カール云は「自力能く何人の援けをも受けず學と力を得る者こそ眞の成功者と稱すべき也」と、辯護士秋月集一氏の如きは實にカール言中の人なりと言はざるべからず、氏は那賀郡池田村大字東山田辻本覺一郎氏の令弟にして明治二十五年五月十二日を以つて生る、幼にして頓悟群童を抜き郷里池田小學校卒業後縣立粉河中學校に學び直ちに和歌山縣警察部に雇員として職を奉じたるも夙に大志を抱き小役人位にて安んずる斗屑の徒に非らず常に同僚に向つて「人間は偉くならなければ駄目だ」と豪語せりと聞く、在職三年二十一才の時青雲の志を抱いて笈を東都に負ひしが素より學資豊富ならざる身なれば辯護士加藤梯次氏の事務員と成り餘暇を利用して中央大學法科に入り一意専心學業に没頭せしが一年にして加藤辯護士の事務員を辞し爾來難行苦行能く誘惑と戦ひ物質の缺

乏を忍びて大正六年多數の學生中第二位を以つて卒業せり、翌七年辯護士試験に合格し同年三月大阪市東區今橋三丁目二十一番地に辯護士を開業せしが本年に至り業務擴張の爲め和歌山市五番丁二番地に出張所を設けたるも近く大阪事務所を廢し和歌山市に轉籍すべしと言ふ、氏の以上は履歷の概要には過ぎざるも苦學難行の結果現在の地位を得たるは一般青年學生の採つて以つて學びべきにあらざる、茲に一の美しきエピソードあり、氏の警察部奉職中同僚に榎本良三と稱する青

年ありしが氏より一年前出京し中央大學に入り氏と共に勉學し一年前に卒業し現に大阪地方裁判所に判事として職を奉じ格動手腕家の名あり、以つて當時の警察部職員の羈氣なりしを思ふべし秋月氏の資性磊落社交の術に長け職務に忠實なる夙に定評あり、故に世人の信頼頗る厚く訴訟依頼者絶へたる事なきは宜なり之皆多年苦學難行の効著はれたるものと言ふべき也、茲に特筆すべきは和歌山辯護士數多しと雖も最年少者たるの一也氏は大正四年海草郡宮村大字秋月なる秋月家の養嗣子となり、茂夫人との仲に長女幸子二女和歌子ありて家庭頗る圓滿人の羨羨する所也氏は趣味なしと言ふも無趣味即ち趣味あらむ乎、辯護士中の酒豪家なりとの評判也。

## 齒科醫師中の人材 藤田宏純氏

和歌山市の中心地たる京橋々頭に開業して名聲を馳せつゝある齒科藤田宏純氏は同業者中稀れに見る人材也氏の齒科醫と

なりしは明治二十八年にして神戸其の他の地に醫業を営み其の手腕を揮ひしが氏は夙に大志を抱き雄心勃勃として禁せざ

るものあり清國に赴き齒科醫を開業するの傍清國の事情を調査する事あり居る事約そ四星霜將さに大に爲すあらむと欲して家事の都合は氏の志を果たさずして飯國し明治四十四年現在の場所を開業し以て今日に至りぬ是れを世評に聞くに氏の纖巧精緻の技術は天賦にして其の得意とする所也と氏は胸宇大にして流石に多年大陸的の氣分を味ひしだけありといはる、然れども氏の頭腦は粗莽ならず頗る明

敏也氏は前和歌山縣齒科醫師會長の任にあるや其の統御の才の凡らざるを示したり而も氏は謙讓の資質に富み名聞を好まず自ら其の能を誇らざるの士也故に氏の事を本書に掲げて紹介するが如きは氏の甚だ好まざる所なるべし然れども齒科醫を評して氏を逸すべからず書くと書かぬは記者の自由也書けばとて氏は小言をいふ理由は毫末もなかるべし。

## 南海自動車株式會社社長 中 清五郎氏

時は延文四年春四月南朝臣四條中納言隆俊紀州勢三千餘騎を率ひて陣容嚴かに好敵御座んなれ今にいと碎きに打碎かんと島山入道が弟尾張守義深が諸國勢一萬餘を迎へ火花を散らして苦戦したる所を那賀龍門山と爲す神社



中 清 五 郎 氏

天忍徳耳尊を祭る急夜暖線にして奇巖巖々として聳立し山嶺周廻八町山形富嶽に髣髴たるを以て紀州富士と稱す中清五郎氏は實に此の山下龍門村に浮世の第一聲を放ちたる也氏は現南海自動車會社社長にして市會議員として錚々たる士也由來那賀郡の地政思想の發達する所にしてまた英俊盛盛の地也而して紀州富士山麓は氏を生み鹿城下に送り來れる也氏の嚴父は同村の豪農にして中清一郎氏と呼ぶ氏は其の長男也明治十四年五月十四日の出生といへば氏は未だ四十に満たぬ男盛り也縣立和歌山中學校の出身にして京都同志社を卒業して飯省し故山において農業に従事し居りしが鋤鋤を執りて隨畝の間に營々たるは氏の志に非らず即ち明治四十二年二月和歌山市に來り三番丁において米穀取引所仲買人を開業し其の堅實なる營業振は忽ちにして顧客の信用を博し同市場の重鎮たりしが感ずる所ありて一昨年廢業したるも期米界に活躍し居れる傍本年一月資本金十萬圓の南海自動車株式會社創立して社長となり日々自働車六臺を運轉し常務取締役阪本彦次郎氏の敏腕と相俟つて多大の成功を收め同社將來の



發展を期待されつゝ、わり氏は事業界に非凡の手腕を有すると共に一面政治に趣味を有し大正元年四月市會議員改選に際し三級より打つて出、與望の橋く所大多數を以て當選し爾後再選し現に其の職に在り氏は資性豪膽にして小事に拘々たらず成敗利鈍の如き眼中になきもの、如し而も頭腦明敏にして市會に於ける所論頗る肯綮に當る殊に氏に執る可きは政治的操

### 和歌山縣齒科醫師會會長

## 彦 阪 幸 太 郎 君

縣下六十名の齒科醫師より組織せる和歌山縣齒科醫師會會長として斯界の重鎮たる市内十番丁彦阪幸太郎氏は果して如何なる人物ぞ氏は明治十四年七月二日和歌山市屋形町三丁目に産る彦阪源六郎氏の男也夙に齒科に志し年十八にして笈を東都に負ひ松浦伯爵の家門にして齒科の名齒たる松浦謙氏の門に學び研鑽を積み二十歳にして齒科開業學術試験に合格し其の後間もなく實地試験に合格して阪市し明治三十九年現在の場所に開業せり當時



彦 阪 幸 太 郎 氏

守の堅く情實、黄金棄末も氏の志を變せしむるに足らず人格の士故津田藤齋氏の如き曾て記者に語つて曰く「中君は相協に手を出す人に似合はず金錢に淡泊にして高潔の士也」と此の一語以て氏の性行を語りて余温なけむ氏に趣味を問へば曰く相協也曰く酒也と更らに質せば相撲、柔道、短艇なりと氏に二男一女あり何れも郷里に在りといふ。

市内に齒科醫は僅に明樂包次郎、中村宏正兩氏と氏とあるのみ、目下市内に開業

せる齒科醫中氏は明樂氏に亞いで舊るく

和歌山齒科醫の元老とも云べく四十三年縣齒科醫師會の組織さるゝや直に理事に推薦せられ大正五年會長の選舉を行ふや與望の橋く處會長に選任され同會の牛耳を握りて現在に至れり氏は氣宇上品風采亦頗る舉り貴公子然たるスタイル也脈々たる温情に富み書生下女に對する恰も骨肉子女に於けるが如し亦以て氏の人格の美を見るべし、一昨年の夏、山階若宮殿下御來縣遊ばされ御齒痛に遭はせたまふや氏は召されて和歌浦の御旅館に伺候し親しく御診察申上ぐるの光榮を擔ひたり是れ氏が其の技能手腕の卓越せるに依るはいふ迄もなき事なるも氏の人格の高さ亦與つて大なりしならむ氏の夫人あさ子亦容姿美にして琴瑟相和し四男一女あり一家和氣融融たり氏の趣味は旅行に在り其の足跡各地に周ぬしといふ氏は政治思想あり曾て市會議員の候補者として鹿を中原に争ひまた一昨年衆議院議員改選に際し大堀孝氏の參謀長として大に政治的手腕を發揮したるは人の克く知る所也

## 齒科醫新谷輝一氏

### 三兄弟揃ひて苦學醫師となる

海草郡日方町に開業せる齒科醫新谷輝一氏は長峰山麓の一小邑那賀郡下神野村神野市塲の産也氏の家はもと地方の豪家なりしが嚴父は家産を蕩盡したるが爲め氏の三兄弟何れも充分の學費を得ざりしが孰れも家運を挽回せんとの志堅く螢雪の苦を積み氏の長兄新谷大次郎氏は一時車夫にまで身を落して苦學し次兄正雄氏は野村勉氏の養嗣子となりしが是れまた苦學して共に醫師となり大次郎氏は神野市塲に正雄氏は東野上に何れも開業し名國手として盛名あり而して輝一氏は二兄既に醫師となる安んじ憂如たるべけんやとて齒科醫たらん事を志し明治四十一年笈を東都に負ひ神田區難町共立齒科醫學校に入學し幾多の辛酸苦楚を嘗めしも君の志は益々堅く模範學生として校中の呼者たりき、斯くて四十三年優等の成績を以つて卒業し大正元年齒科醫開業試験に合格し爾來東京大阪に於て實地の研究

を積み齒科醫として羽翼全く成るや錦を郷里に飾り令兄大次郎氏の醫院に於て開業する事一年餘翌二年に至り前記日方町に開業し業運日に盛んにして今日の成功を收めたり、氏資性剛逸にして酒々磊々として小事に拘泥せず人に接し城府を設けず能く語り能く論じ滑稽諧謔口を衝いて出で而も其言ふ處肯綮に當り對者を服

### 信用著大なる現物仲買店

## 玉 井 榮 三 商 店

和歌山市雜賀町有價證券現物仲買店玉井榮三商店は市内に於ける現物仲買店の開祖にして故玉井徳之助氏の後を嗣がれた人である、先代徳之助氏は他に先んで、この商賈を始めたる程あつて敏活な目を備かすと共に確實を主としたので定期仲買人として又現物仲買人として其盛名市場

を歴する迄になつた、現玉井榮三氏は先代徳之助氏の慧眼の認むる處となつて以來深く同氏を信賴し後繼者として此の才幹を迎へた、その後數歳ならずして先代徳之助氏は逝去した氏は紛錯した家政を一身に擔ひ大に整理に意を至した先代の眼識誤らず玉井仲買店の第二世として現代



榮三氏は其責任に背くことなく堅忍奮闘  
 確實客として信頼せしむるを商買の生命  
 とする營業方針を以て家業に精勵したの  
 で大に發展することを得た茲に於て氏は  
 斷然たる決心をもつて定期仲買店を廢し  
 現物賣買のみに熱誠を傾注した結果歳に  
 月に繁榮し和歌山の現物賣買は殆んど氏  
 一手に掌握されてゐるかの如き觀がある  
 、然して同店の現物仲買の如きは如何  
 に一般から信用を以て見られてゐるかは  
 記者の茲に發言を要しない氏は元市内三  
 番丁に其の商舖を構へて居つたが大正六  
 年三月現在の雜賀町に移轉し家運益々隆  
 盛となつた氏の營業方針たる客を信頼せ  
 しめる事に意を注ぐのは前に記したがそ  
 れは他の到底及ばざる處である自我主義  
 利己主義者の金のためには何物も忘れて  
 しやふ連中は眼前の利益を視て相手の利  
 益を考慮しないものであるけれども氏は  
 全然其様な人々とは道を異にし常に將來  
 に對する見解を忌憚なく述べて客に利益  
 の忠言を與へる親切がある氏の今日ある  
 はこの永久的な方針親切な態度の然らし  
 めたものであるとして其店に強い信頼が  
 根づけられて其の得意縣下全般は素より

他府縣に及ぶの繁昌を迎へてゐるのは  
 決して偶然ではない、ことをこゝに力説

### 職業に忠實熱心なる 南條齒科醫の性行

醫は仁術也、普通の職業と同じからず故  
 に醫業を營む者は仁者に非ざれば眞醫  
 とは稱し難し仁者即ち眞醫とは何の謂ひ  
 なる乎其の職業に忠實熱誠にして他を見  
 ず一意専心疾患を醫するを本旨とし營利  
 の如きは是れを第二に置くのものを指稱  
 する也、記者の茲に紹介せんとする齒科  
 醫南條米介氏の如きは克く醫業の仁術た  
 るを辨へて其の業に努力するを以て其の  
 名聲を江湖に馳せつゝあるの士と爲す氏  
 は明治二十三年和歌山市に生る南條信吉  
 氏の二男也、彼は幼時より學を好み小學  
 生時代常に首席を占めて衆輩の模範たり  
 和歌山中學校に學ぶに及んで學業の成績  
 頗る好良最優等を以て卒業し友を帝都に  
 負ひ東京齒科醫學專門學校に學ぶや其の  
 頭腦の明敏なるを其の手先の器用なるを  
 は校中氏に及ぶものなく學業の好成績な  
 りしは氏が同校の特待生たりし一事是れ

を証して余温なし氏は性頗る圓滿にして  
 圭角なく温容些の衝爛を包藏せず胸中常  
 に何等の不平缺陷を感ぜざるもの、如く  
 常に其の福々しき面貌愛嬌を與へ接する  
 人をして快味を感せしむ、氏は饒舌是れ  
 事とする人に非らずして寧ろ寡言なれど  
 も社交に長ぜり殊に氏に感すべきは事業  
 を以て唯一の趣味となすの一事也、此の  
 心あり以て氏の眞醫を以て世に稱せらる  
 、豈に偶然ならむや常に世上の批判より  
 も自ら顧みて仁者たらん事を慮る實直に  
 して向上の熱火は胸底に消ゆる隙もなし  
 而して氏は能く人言を容れ「我」を殺して  
 「我」を生かし行く手際は人巧に非らず寧  
 ろ天品の徳也此の徳を具へたる氏の將來  
 は實に洋々乎として春海の如きものあら  
 む氏の令夫人は貞淑の婦人にして容姿艶  
 麗、氏の趣味に同化した氏の成功しつゝあ  
 る其の一班は令夫人内助の功與つて大なる  
 ものあり殊に客に接して應酬の妙を極  
 む日々陸續として雲來霧集する患者は常  
 に清爽の相氣に圍繞せらるゝ趣ありと  
 さもありなむ。

# 外 内 科

エツキス 光線科

和歌山市港片原通

爲 森 醫 院

電話 一 二 三 番

院長 爲 森 彌 三 郎  
 醫學士



和歌山  
電機商  
川瀬商店

電話 一〇八八番  
六七七番

登 録 商 標

一名和歌の浦

養泉寺第十五代住職

和歌 縣紀伊國  
海草郡和歌浦町

養泉寺製  
官 許  
加 減  
和 命 保 散

營業人  
井本誓議

井本誓議謹製

法用	能 効
大人一 日三次 白湯一 包にて 用ゆ	一切はらいたみ しやくばら くんだり ふしやく むねのやく たんのせき ひんせき 水の二日 酒の二日 くわく 大人小 用てひ てよし

元祖

登記商號

紀州

和歌ノ浦

養泉寺

近來拙寺ノ名義又ハ養泉堂養泉劑等ト紛ラシキ名義ヲ  
利用シ類以品ヲ販賣シ甚ダシキニ至ツテハ當寺ノ親戚  
トカ或ハ株分ト稱シ居ル由開キ及候得共當寺ニ於テハ  
右ノ者等ト何等關係無之候間今後御買求メノ節ハ右登  
録商標ニ御注意ノ上御愛用ノ程ニ上候  
尚御注ハハ端書ニテ御報被下候ヘハ多少共郵便小  
包ニテ御郵送申上候但シ市内及附近町村ハ特ニ持テ  
可仕候

海草郡和歌浦町八九六

養泉寺第十五代住職

井本誓議謹白



附  
録

和歌山市旅館案内

牧野旅館  
和歌山市福町  
電話二一五番

富士屋旅館  
和歌山市本町三丁目  
電話二六五番

有田屋旅館  
和歌山市十三番丁  
電話二十五番



附  
録

和歌山市旅館案内

牧野旅館  
和歌山市福町  
電話二一五番

富士屋旅館  
和歌山市本町三丁目  
電話二六五番

有田屋旅館  
和歌山市十三番丁  
電話二十五番



# 在米紀州人月旦

## 海草郡の送りたる異境の人材

わしとこの龜之助のアメリカへおまへも行くんかえ、

龜之助のアメリカ！わしとこのアメリカ！何ぞ其の言の偉大にして無智なる何ぞ云ふ所の意義深遠にして没要領なる、こは海草郡紀三井寺村の人西龜之助の老母が三十年前同郷の青衿に放ちたる豪宕西半球を吞吐する壯語ならずや、  
セイ、カンダクター、ネキスト、イヅ、マイタウン（車掌さん次は私の町ですか）

なんどは比較によらず、我未だ斯の如き一點の諧謔を交えざる慎重素朴なる大言を耳にせざる也、死したる老母が未だ亞米利加はわがものものに非ず故に紛争問題は常に絶ゆる隙なきを如何せん、俗稱西龜、西龜之助は明治二十一年の渡航に屬す、彼は歴史に於て甚だ若けれど事業に於て海草を否な紀州を或は日本人を

代表する元祖なるべし、スミス、バカビルは元日本人の遙籃地にしてこゝに羽翼を調べ四邊に飛躍したるの事實は争ふ可からず、而して彼は最初の日本人喫約業者として菓物園にホイースを注入したる榮譽を擔ふ者、なほ桑港グリー街紀の國屋經營率先者たり、彼は同胞發達史上の人物にして彼の功勞は没すべからず、彼の名は實に和歌山縣人發展史上不朽永劫也聞く彼既に老ひて日本にあり、デテロイトの商店に關係上渡米すべしと、紀の國屋と南海屋紀州屋、桑港今ではフレノに羅府にデンバーに櫻府に晚香波に到處にあれど昔は紀の國屋と南海屋紀州屋は桑港の名物にして往年監野、濱野及奈古新七、島内は所謂宿元親元なりしを忘るべからず一たび震災に逢ひたる家屋はその名残をだに止めざれど古き木造の二階建、パニシユの剝けたる寢臺は紀州

人の奮ふ可からざる印象にして奈古の髭、濱野のびつこ、濱野のつば、はそゝろに髣髴として視眼に現はれ來るべし、彼等は働口を與へ彼等は身元保證人となり彼等は疾病或は事故の生ずる毎に常に止宿者を擁護するに勉め、その間現時の通り一遍の客扱ひとは雲泥の差ありて懇切な極め温情を吐露したるの功勞は又少なしとせず、その代り彼等のどつて食ふ様なもの言ひと室の不體裁と不潔とに荒唐を抜かれざる者なかりし也、彼等あるが故に集り來り互に一週間の尻の如き不平と不満とを吐き合ひアツアルでも食ふて慰藉し何んだか胸がすつぱりとして又勞働先に戻るを例とす、所詮彼等は煩悶引受所所長にして領事以上の權力を痛切に揮ふるなりき、彼等は桂庵と煩悶引受所と兼ね猶ほ銀行の事を爲し或は手紙の代筆或は通辯の勞を強ひらるゝは普通にして時に旅館は慈善病院化し無料宿泊所化するは稀ならずし也、かくて今日の彼等は如何、大凡當時旅館業を繼續したる者にして數千弗の貸倒れに終らざる者はなかりきと云ふ、以て彼等の境遇は同情すべく且つ吾人の發展上特筆の價値あり



るを認む、初めてウインタース、マカピルに味噌、醬油を輸入したる者は中原要蔵也彼は年壯氣鋭にして渡米し夙に食糧雜貨輸入の有望なるを觀破して仕込む程に賣る程に巨利を博し宛然濡れ手で粟の摺み取りを演じやがて桑港に商店を構へしは日清役の交とす、其の着眼の非凡なる想察するに足らずや、加藤楠太郎と加藤安松、殊直温順の兄と霸氣滿々の弟を見るは普通一般の事なれど加藤兄弟は全く之に反す、楠太郎の奔騰を咬むで或は玉と砕け或は花と散り端尻すべからざるに安松の清泉滾々と、流れて水色香を映するの趣を比す、前者は内容複雑にして理智に誤り後者は天賦單純にして男兒の意氣を缺き、彼は放縱不羈にして豪快なる野崎村の半面を有し此は茶屋酒一滴飲まぬ律義者にして北島の片影をだに持たず、楠太郎の巧粉々たる安松の自然其の儘なる兄弟の性格の矛盾彼等より激しきはなし、加藤ひさは安松の妻にして在米同胞中の女豪也、安松の五萬餘弗の現金を擁し漁業に農業に投資せるもの一に彼女の働きに依ると云ふも過言に非ず、十目の見る所皆然り、廿幾貫五尺三寸

の巨額を彼女の伊達に非ず、貳拾參拾の荒くれ男の先達となつて使役し自ら男もたぢろふ百四五十斤のセロリ箱を易々としてワオンに積み重さぬ平然たる武者振りは板額も素足也、性英敏にして女侠の氣分あり一日の仕事振りの意に滿たば二三時と云へ雖も  
今日はこれでゑんぢやあ、いんでピイヤでも飲もうヨ  
なれど墮氣耕地を襲ふて手ぬるしと見ればやわか開かず暮色蒼然たるもボーイスを追ひ捲くるを例とし自ら町に出れば土産として一々何ものをか與へ、勞働者には時々つと命の洗濯でもしやんせと心づけを惠むその用意の周到なる又鑑識の高く胸量の大なる大丈夫の概あり、されど彼女は人の妻子の親、男七女三分の中にも人妻の優美と母親の慈愛を含み、人に對して語る儘に床しき奥行を示す、噫彼女が海草が生みたる巨大なる女丈夫なる哉、加州に於て酒樽醬油樽等を植木鉢用代にして邸前に邸園に据え置かざるはなく植木鉢即ち醬油樽の感あらしむ、抑も其の端緒を小畑勸之助に發したる也彼は南加邦人植木業者の鼻祖にして現時切

花と専門とし南加花屋組合會頭の位置を占め給參棟のグリーン、ハウス、散正せる數個の邸宅を瞥見すれば花園業としては北加の堂本、南加の小畑の名の偶然ならざるを想はしむ、彼に貳弟あり勇次郎、龜吉と云ひ長男を儀一郎と云ふ、共に經營に業に當りつゝあり勇次郎は篤行沈着、龜吉は快活淡潔、儀一郎は年少氣鋭、刮目すべきは彼の大家族にして子孫、甥姪、一族擧つて廿餘人に達する尤然たるグレート、ファミリー也、萬福の相を圓滿の童顔に現はし莞爾として彼れ笑へば夜又も微笑すべく春風萬萬渾然として和氣漲り渡る、人為争はず驕らず寧ろ彼が事業の大より人格の偉なるを尊重すべし、財産と智識は忍耐に依つて求め得べくもあれ風雨多年逆境に身を處し來りて諺詐虚偽の毫末をだに風貌言行に現はさざる彼は實に事業家の模範也、鎌田幸次郎、菅野榮三郎、貴志爲藏、高塚久楠、貴志源一、貴志七郎、貴志佐藏、貴志剛太郎、鎌田芳三郎、島本庄之助、佐地久之助、東本春松、森脇八十楠等は海草出身羅府市内植木及花園業者にして投資額少きも千餘弗を下らず鎌田、高塚、貴志、

島本、菅野は大なるもの、爲藏の朴訥は愛すべく剛太郎の勇氣は尙ふ可く榮三郎の霸氣は重んず可く幸治郎の愚到は敬すべく七郎の無邪氣は擗すべく源一の幸福は羨む可く久楠の剛直は崇むべく芳三郎の天眞は味ふべし、年輩に於て高塚最も長け鎌田之に次ぎ菅野は最も若きに似、いづれも妻帯にざるはなく、久楠、幸治郎は同業の先覺なるべし、カータロフヒの北島勝之助は野崎村出身唯一の商店經營者にして俄市和歌山縣人會長也、彼性淡快にして靜雅又能く同情に富む西本菊次郎は海草を代表する帝國平原の事業家にして其の規模の宏大なる兎も角、耕作業間の大立物者として推稱さる、貧弱の短身に抑へ難き功名心を包蔵し才氣縱に著しく暫々不測の誤解を受け人の忌憚を招く畢竟彼が野望を訝えざる才幹の然らしむる所、誤解可也忌憚可也生を亨けて珍香も焼かず屁もひらぬ凡骨は共に與す可からず、されど彼が如きは修養鍊磨の缺陷を發露するものに非ずして何ぞ、夫子自ら戒飾して今後に慎めば彼は花も實もある未來を有する男也、和田新一、新之丞、和田振作、共に彼等は名家の出、

若冠郷を出で、夙に米國に在り、新一は長兄にして二弟あり新之丞を次弟とす、新之丞の才華煥發は新一に見るべからず新一が應揚の無頓着は新之丞に求む可からず、兄は粘液質弟は膽汁兼神經質、それ丈け新之丞の内容は豊富にして複雑す、同族の異材は和田振作也、堅忍の意志、鍛鍊されたる手腕、從容迫らざる態度は彼の特色にして靈と理智のデリケシーは彼が風貌に現はる、メリスビル地方にて先づ土地を購求し所有せる者は琴浦朝楠にして他に義弟あり彼は明治廿四年の渡米に屬する古顔にて現時の年收額は併り難きものあり海草に生れて廣島の陰忍を實現し老來愈勤儉貯蓄に勉め唯實力の涵養を志しつゝあり、天正慶長時武名噴々たりし鈴木孫一(平井)又は雜賀の所領の楠見村平井に此の武門の豪傑の址蹟ありこゝを出で、米國に事業を爲す者夥しく森口若次郎、森本進の如きは其の知られたる者、特に進の妻は氣品高尚にして優雅也、容姿の美は彼女に見るべからざれば精神美は遙に時流に超越するものなしとせず、養蠶至穢、變爲蠶、而飲露於秋風、罔知潔常自汚出、明每從晦生也

土山捨松たる者此の間の消息を解するや、雜賀村に生れてこゝに業を爲す者僅に三彼はその一、然も規模や小ならず加ふるに藤度宏淵鬪斗の如く彼は新生面の開拓者として社會重視の裡に立つる自覺自醒せざる可からず、赤羽亥之助は嘗て西脇野村が生みたる大立者也海草が出したる傑物也、成敗は逆賭すべからざれば紀州を送りたる豪者也、  
桑港は北米貿易會社フレソノは神川商店羅府に亞細亞商會シャトルに古屋商店ポートランドに伴ふ商店面してスタクトンに赤羽商店と其の信用に其實力に於て何人も是認する所なるべし、而して彼は人品に於て此の五者に秀つるものなしとせず而して彼に對して惡聲を放つ者なき一事は之を立證するに餘あり、設立僅に十年にして根柢ある基礎を築きたるもの同地方同胞の發展の迅速なるは因するも彼が稠密と綿密を緯とし諧謔と智巧を經としたる努力に依らずんばならず、明治四十年來金融社を設置し營業關係を金門銀行と聯絡す、然るに經濟界の大恐慌は同胞銀行界を殺倒して金門又破産の災に逢ふ、當然の累禍は彼の上に来るべか



し也、その能く之を免かれて微塵の動搖を受けざるのみか却つて預金を増加し商運隆々として榮ゆ、一事即ち彼が先見の明と卓抜なる手腕の試金石ならずとせんや、コンコードの福地常楠は堪忍の凝塊也、其の忍耐や尋常ならず之に野猪の色彩を加ふ直腸猛進目的物を捕捉せしんば身命を塔するも快と爲す底の人物、絢爛華麗は見る可からざる彼が朴訥素直の實は偉とすべし、同じ安原村を出でたる山崎榮吉と福永喜太郎の年輩は家族状態に事業に場所に疑に懸隔なき一致を見るは一奇とすべく山崎の禿頭は親譲りなれば餘義なく福永の妻の若さは一生の損にならず、海草に生れ田邊に育ちたる山崎の福永に比して聊か溢きはぬ粥と漢書の加減なるべく福永の圓滑は苦勞の年効なるらし、野崎村のタイアは北島茂之助之を代表す、淡白と喧囂、豪壯と粗暴、勇敢と頑迷、天真と稚氣の權化は彼也、余は彼を愛す彼は男兒の義を解すれば也、島本捨吉の半生を劃する者は彼が妻也彼が後半生の面目を一新したる者は生色なき日本也、茲に於て一度日本に行く事妻帯する事は青年成業の必須要件たるを感ず

るもの痛切也、中井兄弟(東羅府)辭令の巧妙なる態度の沈着なる果斷即決の敏活なる行く所として適せざるはなし、アレサントンの増田留之助はアラメダ郡屈指の同胞大農家也其の農業經歷の豊富なる性格の圓滿なる風采の秀麗なる彼は正に鶏群の一鶴也、在米廿年、マヨード引土と云へば白人も知らざるなきは亞那の引土楠太郎なるべし、所持金の高は人物を律する程卑陋たる現代に非ざる限りは彼に使役され愛顧されたる多數の彼に許すに亞那の元勳の名を以てするも首肯するなるべし、吾人轉々今昔の感に堪えざるものは時代の推移と變遷也、一時は飛ぶ鳥を落したる引土の僅に子子として小天地に小事業に没頭了せるに反し使に役役されたる多くは爪や茄子の花盛りの觀ある楠太郎を捉へ來つて痛切なることを覺ゆる也、律義者の子澤山、律義者の變屈は、直に松本勝三郎に應用すべき乎一度口を開けば春風徐ろに身邊を環ぐるの感ありと雖も謹嚴の態度は克く俗衆を懼伏するものあり和順篤行の彼れ商機を一舉に決する底の資材は缺くも孜孜とし勉め級々として積む手腕は彼の特性と多年

の經驗より來る、松本三千秋と逸見修平の名は連關心理より連想心理に反響し來るものあり桑港時代、アラブ時代、マテナ時代、行く處伴はざるなく去る處携へざるなき因縁は夙に日本に結ばれし心理的鐵鎖に依ると見て不可なし、寡言温厚の前者に深沈素直の後者を以てす、謹愼の態度壯重の言辭に對する哲學者の如き偏狹と老婆の如き小心を以てす其の珍妙なる點は實に一奇也、鳴神村を出たる岡本熊吉は布哇轉航禁止前後の相川某の名と共に思ふべからず、精健の軀幹、旺盛の元氣、透明の頭腦、以て加州ネバタ、ユタ、コロラドに奮闘したる男振りは今なほ髣髴せしむるものあり、村上新次郎は次いで湧き起る記憶の一員也、ユタ、ネバタ、コロラド州に亘りて海草出色の異材は玉置誠一郎也、彼は渾然誠實を以て一貫し眉目端秀士人の典型ありて寛濶暢達、商人共通の缺陷とも云ふべき際的なさ過ぎる嫌味なく能く人言を容れて行氣なき一點は確に確に貫目を示す、ニユメキシコ州に於ける川本喜代楠は恐らくは把州を代表せる唯一の事業家ならんか、彼は大崎村の産、明治三十六年白

人坑夫同盟の爆發するや炭坑監督に連れられストライキ、アレカーとして四十四名を引率しニユメキシコ州ウオルソンパーク炭坑に入りしよりマイン、ボスコとしての經歷に入りし也、頑脱の性の加ふるに膽大にし多技多能抱負や小ならず、炭坑に農園に鬱勃たる功名の熱を注いで肥肉の喉に堪えざる彼又一代の奮闘兒なる哉、ナイルスに於ける松本良之助、松本安太郎、榎本小一郎の名は此の地方の古參株として人口に膾炙す、在留同胞の渡米當初農園に志す者足跡を先づバカピル地方に或はナイルス地方に印せざるものなく従ひて彼等の使役擁護を受けたるもの幾百幾千を算すべく、この意味に於て特筆するに足る、嘉永七年秋の空襲の如く狂瀾怒濤徒に騒ぐ頃露國艦隊の突如として入り來る南海の一角に於て二百五十年の長夢を破りしを加太浦とす、こゝに臍緒を切りたるは谷新太郎、小豆島源造、茂田音楠等也、而して關口彌太郎以降の地理的性行を鮮やかに抽象的に發揮する者は谷新太郎乎、淡々水の如きは彼の美點にして欠點也ダイナマイトの如き

荒細工は彼の生命にして死傷也、グレドリーの内原嘉一郎と無色透明視せんは當らず轉變推移を以て律せんは必しも適せず苦心經營ウチハラとして近効白人間に重望を負ふ彼は實力の恃む處自信の確乎たるに倚る、琴浦朝楠のウードランド時代、譚叫する者もあれど所詮は野暮の骨頂也、さして彼此云ふ可きに非ず磐石の基礎に立脚する彼は地主として押しも押されぬ事業家也況んや謙仰一片の驕色なきをや、事實は雄辯也而して彼が半面を脱さんより寧ろ接して彼が實力の一端を見よ竹頭木屑の徒の寄りつく可からざるものを認めむ、任侠にして温良の好人物は岩前善之助也、白河上皇熊野に御幸して加茂王子祠の御製に「橋の木に一夜の旅寝して入佐の山の月を見るかな」一痕の名月は今も入佐の峯に懸りて岩屋山の春一日千木の櫻花夜を馨る光景を醉後の夢裡に描き出す岡本定楠の感想如何、彼に悠久の青春あり活氣あり、年少氣鋭飽く迄でも奮闘主義なるは吉村芳三郎也、呻張の目覺ましき彼は何事かを遂げずんば止まざるの氣魄を有す是れ谷口清太郎一人の斷定のみならず也、櫻面都河

流左右の對岸餘計な事なれど十目の許す二美人あり共に海草に生まると一は中川某の妻にして一を森千代松の妻とす艶容豊頬桃李の如く二清酒嬌態水仙の如きを對す鬢髮の翠は中川森に秀、蜂腰の美は森中川に及ばず抑眉の愛淡紅の彩は輪廓の艶鼻線の雅と競ふて薫風波、行くの趣あり、アツアツカットの花白と下冷やかなる土上にダアハム、捲く手を見れば流石に争へぬ年の印あれど嬰鏢として元氣衰へざるは小畑松之助也、在米二十五年の輕路を説いて或は沈思し或は冷かに笑ひ一喫すれば又靜に語り二たび喫すれば徐ろに説き斷腸久しく悠然として我を見る時落花紛々として風は面をなぶり行く是正に畫也仙也、漂浪轉々、最下級の勞働に苦役の數限りを盡し未だ以て意志鍛鍊の足らざるを慨しつゝある盛崎彌太次は隠れたる未知數の傑物也、一貫せる宗教上の信仰と道念の抜く可からざる不斷の修養と謙抑は流石に人をして襟を正ししむるものあり、谷越虎太郎は仙人谷の一人者としてウニタースの山又山の奥に隠逸すれど殖林園藝上の素養輕侮すべからず、磨滅し去る腦漿に新知識注入慾の



旺盛なるは敬すべく稍々自己本位の修行は免がれざれば、爛れば猛火となり結するものにあらず、爛れば猛火となり結せば玉露なる山畑新太郎に南洲の片影を見る朴訥飾らざるは愛すべく何にやつたれ主義の野猪的なるは快とすべく女房と金を持たせて心的變化を具に見む事を望む者は此男也、器用貧乏、語は簡なれど深甚の意義を藏する可笑しさに聞けば大口開きイナゲナ顔して行く奴のポケット重く平家の公達を想はしむる風采爽爽たる徒のカフヤーにも困るとは浮世半面の眞理なれと見玉惣一郎は例外の人物にして又解釋の限りにあらずるべし、銅像よりは大根を作れ詩よりは田を作れ、叫ぶ者あり月より團子だと唸る者あり此徒をして根本慎一を解剖せしむれば彼は一介の敗殘者のみ、位動の装ふなく黄金の輝くなく肩書飾るなくアヒネのパンツ一枚で突出せば人物の評準に迷ふは無理からぬ所なれと絞つて見れば餘怒と落着に任侠と自己肯定に俗を抜くは彼ならずや、乾坤一擲の荒蕪は横野愛之助に求め難きも打つも敵くも刃のこばれざる切れ味は彼の特有にして之を包むに天成の愛嬌

を以てし自ら動くに非らずんば動かされざらむとする意志は珍重すべく、酒前満を持す快は快なれど醒後の悔を免かれず、況んや血汗の結晶を杯盤狼藉の間に洗ひ流すをや澤本由太郎は要するものは宗教に非ず倫理に非ず金錢に非ず名聲に非ず纏綿たる妻子の係累已耳一斷萬動を静め一喝千閻を絶つ豪放彼が如きは肉塊を與へずんば咆哮止まざらん、満身の血は是か爲めに沸き渾身の肉は是か爲めに動く痛快兒と對して一層倫絶を極む、野崎村海外渡航の率先者は明治二十三年一月十日、小畑千代楠にして實に彼はウインタースに於ける菓樹園租借の元祖にして福島を屋敷として經營したる邦人宿屋の開山にしてフランスノに家屋六戸を借入れ之を人に貸したるより云へば即ち即ち日本人リィヤル、エヌテートの總本山也、亞米利加へ行けば父親の墓詣でをせばやなや念じつゝ來る嫁御祭は現時稀なるべき中に十數年前客死したる亡父の墓所の不明なるに困り果て居る小畑千代楠の妻秀、見れば吾が殖民史の裏に興味津々たる哀史の閃光に觸るゝ感切也、徒手空拳兎に角今日の土井文次郎を築成し

たる彼に機軸と特久の基む所ならずんば非ず、サンデエヨーは異國に近く太平洋岸米墨航路唯一の輸出港也彼たる者は畫策し靜に勵行してサンデエヨーに於ける自家の存在を一層明晰にせざるや、小事に拘泥せざるも一切事勿れ主義を奉ずる商人としては保守勤勉も不可なれど敗頓枯死し行く邦人の購買力をのみ限度とするは餘りに活氣なく退嬰策ならずや、年來の經驗と温蓄、實力と思慮は強ち裝飾にあらざるべし、サルーン、カウンスターに片腕載せて酒盃を握れば一代の人豪ルーズベルトもラデー也世界のオレクター、ブライアンも僅にベン也、而して便々たる大鼓腹をマアにかくして、LAWYERと云はず社會黨無黨と云はず民主、共和、立憲帝國主義と云はず善惡賢愚美醜黃白黒禍貧富貴賤無差別浮世の左黨、齋度するの特權と光榮を有する野口源三は似以非宗教家道學先生のグワ、蟲なるべし、庶莫彼の感化は泣涕怒號歎息驚然陶然として現はれ時に後藤又兵衛の如き不屈者もわれやアナクレオン化するあり、フヤキ、ロンドン化するありテニスン化するあり千狀萬態なるは喋々を要せず

彼の狂會はサルーンにして彼のマイアは靈驗顯著なる酒精也噫彼又一世の導師ならずや、花間二八の息女を傍にして自家の關歴を語る松下春吉の得意は想ふべく花は少女か少女は花か宛として殖民地の春は永へなるを思はしむるものありき、日方よいとこお傘の名所繪日傘ヒラ、はなが散る、四十四年中和歌山縣傘製産高百八十七萬本、四十四萬九千二百十八圓の大部分産地日方に生れ其の職を以て育ちたる奥村政楠はだんまりむつりの好人物愛嬌は添へて快感をそそるに足る、人世の辛酸はこれからの年輩にして田園生活に馴れたる葦蘇野教信者船橋市太郎、サタンの誘惑も群魔の呪咀も切抜ける可からざる彼は物質上の成功より寧ろ精神界に花を咲すの用意を要す、かくて悲雨慘風もものは實は欲せずして與へられむ、圓熟せる常識を包むに老來の經驗を以てし靜に老後を楽しむに似たるはモントレイの谷口三之助、水面にかのが姿を映して恍然見とる、儘に河蟬の溺れし話もあり美は力也わけて女に命也光也ヅカヒルの伊太利亞谷へ越えたら河野虎楠のワイフを見ろと道々教ふる者

の誤親切也、まことお幸夫人滿更ならず水際立つて茲に三年は溪谷の百合花なれ、川口厄松とは奇抜な名もあるもの哉、荒須賀と字にしてさへ特種異様の感禁する能はざる地に通ふ事幾回飄然農に歸して前半生を笑ふ彼に心機一轉の妙諦を味ひ得べし、在米二十五年木本村の先達として小村松次郎は元老なるべくウインタース、ヅカヒルの活きたる歴史也、歡樂の影に地獄あり、榮華の裏に衰頹あり影の姿、追ふ娘は失敗と成功なるを何處迄で幸運兒なるや計り難きは岩崎徳次郎と其の事業ならずや、然も寡言力行容易に動せざるは珍とすべし質朴素直敢て飾らざるは奇とすべし也、東は龍門山を望み最初峰に南面して屹立せる和佐山は南朝臣四條隆俊を滅さんか爲め島山入道の對峙したる古城址あり又千五六百年前代の古墳ある處和佐村と云ふテサヒルに北出兵之助、マウテンピウに松本春吉は出身者の尤なる者、執着力と自信力は一對視得べく思慮の圓熟と充實は將來彼等を裝ふ錦上の花たらん也、同業者の推舉に依り染色研究の爲めに渡米したる木長勇三郎は陶然として酔へば淺緒色に突

顔を染めて獨酌に相手なきを感むに似たり、吾人染色研究を志して渡來する者幾人なるを知らずされや昔又逢げずし終る、教えざる一理あり國家貿易の消長に關するもの大なれば也、彼又其一人にして己むなく轉業し農に商に運命と戦ひつゝあり、酒中不味、色中不染、泥中之蓮は正に矢高きみ也、夜は靜寂として酒三行、三弦の音は呀えて一曲は一曲より聲は延、春雨の麗かに萬葉の花を弄ぶるかど見れば五月雨のしとくとして渾碧の潭壺、波紋を畫くが如く沛然風と夕立の降りしとく忽として止れば高目痛々たる荒野にさんざ時雨を思はしむ、聲必らしも美ならず腫又強ち上乘ならず、唯天れ露然たる彼女が人格の響、毅然たる彼女が情操の美に打たれ已耳、年を云へば姉分、容色將た男子、惱殺するに足らず一竿の三味線を携へて萬金を積む、一たび故山に老親を省せんとするや十餘年トロンク篋底に納め置きたる猿股を身にして行く、一事は能く萬事を證して彼女のゆかしさを語るに似たり、然も快情厚く彼女の擁護を受けたる者枚舉に遑ならず、世には人に洩し難き秘密の爲めに泣き宗



敵も人道も猶且つ教ふ能はざる男女少年からず、彼等に對する彼女は正に宗教家道學者以上の權威を有する也。蠢々として爲す無き徒よ彼女に恥つべき也。碌々として金を抱いて死に行く輩よ彼女の後塵を拜すべき也。搖籃を出で、墳墓に入る迄で常に知識は求めざる可からず工風と研究は絶えず怠る可からず生存競争の激甚を加ふる世は事業に特色なかる可からず森本彦三郎のマシム菌類培養の如き注目し得ずや、彼に普通學の素養あり彼に不斷の精力あり敢て怠りざればキング、マシム菌の名を贏ち得る難さにあらず生稔の軍隊生活と思想を一貫せるものは松下熊次郎也彼は渡世に便利なる灰色的人物にあらず今日業種に明日藩生英に生を營むは彼の潔しとする所にあらず沈勇果敢男兒の骨頂は彼に求む可し、米國で死ぬ氣でやれといふ者はサツサと逃げて歸國し死ぬ生ざるを問題とせざる者は滅び行く、實際は排日の土を肥す覺悟で米國に居る者は曉天の星も唯ならず、人間到處有青山とは負け惜みの虚勢也虚偽の申立也、一廉の土産を作れば日本へ戻るとは詐らざる松下丑楠の

告白にして又萬人の希望也彼が天眞は天品にして卓を距て、對すれば天來の靈響靈光堂に滿ち超宗越格の感なしとせす心だに誠の道にかなひなば祈らすとも神や守らむ者は正に彼也。

磯村助市、勤勞は最上の衛生也、人生の事は多く食ひ多く働き多く垂れ多く眠むり多く楽しみ一日の苦勞は一日にて足れりと爲す彼は鋒銳でチャンバに包むで靜に翼、養ふ者乎、ウオナツ、グロリアは愛知縣人の娯樂地にして和歌一縣人は實に寥々たるのみ而して此地に推されて日本人會長たりし島本湛ハ郎の人爲徳望は實に視聽に價す、宜る哉湛ハ郎ハ郎の名は一種の好感を以て響と渡り其のデモクラシーを吞吐する行動は生無垢のデライシーを添へて愈々美なるを感ず、初見又再會印象の快感と與ふるものあり嘔吐を催さしむるものあり實に難也彼が如きは餘悠ある境遇の然らしむる所とは云へ接すれば霞棚引さ春野に共に胡蝶を追ひ行くの氣分あらしむ、學殖黄金の多寡は人間評價の標準にあらず山本湛三郎を見んと欲せば此の分別を要す、淡々として淡く悠々として軽く自己の持し

て晏々濱中淺吉は愛す可く擲す可き男也、得要領なる如く沒要領なる如く長い物には捲かせる然として晏然たる西谷岩吉は無學の學に長ずる底の人物也、泰山崩るゝも微塵も動するなき小坂定吉は大西洋の天空海湖の風格を見る今時狐狸の如く狡猾蝮蛇の如く慧敏なる輩の所詮味ふ可からざる浮世の風味を色解する彼はハカビル全邦人の騰汁質、彼一身に吸收したるの概あり、廿八年排斥騒動の突發するや、彼は暴徒に縛せられたる中の一彼にして彼に正に在米日本人排斥史中の一頁、飾る人物也、人の罪惡私行、摘發して得々たるの苦々しさより人の恩義特長を嘆美する聲の快ふるに如かず西野榮藏は一介の私人なれど其の實直質朴なるは人の欠點より美點長所を見むとする傾向と共に美はし、川本若一郎の温容至直にして一心不亂なるは珍とすべく南出富楠の勤儉剛直にして俠骨稜々たるは奇とすべく南方久楠の剛毅素朴にして勇猛剛進なるは尚ぶべく和田爲吉の一意一徹智情共に靜動するの妙諦は敬すべし、若し夫れ正井吉太郎の人格美と事業大とは多く知られざる如し、氣量の規模は修飾なき

風格に現出し鬱勃たる向上心は眉宇に振動す、彼はロトダイ近効切つての大農にして今が人間油の乗つたる働さ盛り也自是江南橋柚郷、耕漁同利滿山霜千荷萬裏年年綠、笑殺蟠桃千歲香、祇南海、藤曰山賦を北にし、蕪坂山脈、南にする處往時の濱中仁義莊とす地一帯、加茂溪と云ひ本場蜜柑の産出地也、野谷市兵衛は茲に呱呱の聲を擧ぐ曲折變轉迷路より釋然醒めたる彼は思難は忍耐を生じ忍耐は練達を生じ練達は希望を生じ希望は生命なるを知りし今や野に油汗を絞りつゝ自ら野谷の存在を確立し自覺したる也、ハンデルのかんで飛行家ならば賣藥賣りも醫者のうち！とかや南地米子の飛んだためしはなけれど西出清は眞正の飛行家として同縣人中第一に飛行免狀を得たる者、南加州邦人間の名物は活動寫眞俳優、曰く自動車車掌、曰く屋臺店のうぜんごどぶろく、曰く八十餘匹の酌婦、曰く一本脚の日本人曰く演説、曰く日本人會談、曰く八九の新聞、曰くボンキンヘッドと低脳紳士、而して飛行家とす、彼は此のサイクルの新顔、年少敏捷にして輕快なる操縦、豪膽なる昇降は日を追ふて練達し

武者振りの卓抜なるものあり、彼にして倦まずんば他年名を成す難さにあらず、サンピトロ港に於ける漁夫人中海草那出身者は十二三名を數ふるに過ぎざるが中に松本榮太郎、和田長衛、石田庄太郎、橋本數市等は吾人の視聽を惹く事切也、松本は古參株として斯業界のチャンピオンとして珍品たるに負かず、和田は俠骨稜々として其の宏量は巨大なる軀幹と共に知られざるなく、性柔和にして世故に長け自若たる中に無限の愛嬌を含み愛すべく親しむべく、石田庄太郎が熱心なる勤勉は萬物を化して黄金となすの至言なるを感ずる也、橋本數市は共同事業の統一支配人として其の責任の輕からざるは云ふ迄でもなく其の間の彼が苦心努力は察す可く又圓滿に指導するの技倆は稱賛に値す可し、吾人は彼等に望むに協約一致して有終の美を遂げむ事也。

昔は日根さんとし云へば櫻府二十羅府八十の酌婦の紅唇に暫々のつたものにて今は歴とした奥方鎮座の手前敷座にも出さず加之日本で五厘錢を手にした報ひがテキ面の堅造となりてもはや二上り新内も忘れたいらしい殊勝顔に新銳の精力を鼓

舞して必死となつた日根沖之介、兎角女房と日本見物は聖人大賢の訓戒に優るが如し、彼慧敏暢達其の商賣振りの華麗にして水際立てるは押しも押されぬ珍品也、南加の名物男貴志房之助は其の白靴と共に忘る可からず、通辯と云へば碌でなしのケラケラ虫の評價ある米國に於て彼は又稀有の正直者にて霸氣雅氣怒氣衝氣粉々たるは特種の風味ありて面白く氣取る事は知つても金取る野暮は知らず、其の辭謙なはやり唄一とつ歌ふ粹はなけれどロハで事件を引受けて懸命に奔走する情義はあり、毀譽褒貶は素より彼の關せざる所、吾人未だ不幸にして彼が鮮やかなる切れ味を知る能されど其のアク／＼と戰慄せしむる底の凄味を見せざる丈け彼が人格の至善眞美を斷せんとする也妻君は白人義父は白人子供は半白人オファヒス、ガールは日本語不得手の日本人、此の間に生活し活動する谷越勝太郎の白化しつゝある事實は争ふ可からず、其の得失は暫く措き全然日本人と没交渉なる能はざるは寧ろ同情に價すべし、海草に生れ風に大學を出て相當の修養を積み將來のある男として同郷人間に重視されし昔も



ありけるが昨今の一向沈鬱の氣味あるは伸さざるか伸びざるか伸ぶる能はざるか、三者その一にあらむか圓熟の才腕は萬事勿れ主義に傾き沈香も焼け屍もこけは執らざる處、法理と理窟は元の商賈柄彼の大脳の片隅より一舉手一投足を支配して却て蹠足を伸す能はざらしむるかと思ふ、されど彼未だ春秋に富み氣魂あり氣概あり光榮ある將來の彼を見むとする者は豈吾人のみならんや、小畑甚之助と共に離す可からざるは南加の元老宮本武之助也、丁重にして敦厚なる好々爺を想ふ毎に南加第一次天長節祝賀會當時の彼が元氣を忍ばずんば非らざる也、暢氣陽氣は唯酒の前、ラウンド、ステキの厚味にも氣をくばるは幸前久之助なるべし、されど樂天享樂は彼の幻象にして最も要領を得たる生活也、知らず、燻前青二才を向へ廻はしたる鞘當の往年を追想する時彼が感や如何、

田園に浮世をしのべど何れはわの縊朽ちざらむ者は紀三井寺の中搦富四郎也、勞敗は未だ以て彼が價値を論するに足らず、過去の彼は櫻府一流の俊物として歌はれ現在の彼は唯滿腔の不平を抱いて鐵鋤に親しむ、時運乎不明乎、燦爛たる過去を追憶するを止め寧ろ赫灼たる將來の爲め現在に努力せむ事を望むや我も人も痛切也

大正八年九月五日印刷  
大正八年九月十五日發行

非賣品

編輯兼 小川賢三  
和歌山縣海草郡紀三井寺村大字紀三井寺 一一二八番地

印刷人 大島正信  
和歌山縣海草郡黑江町百四十三番地

印刷所 大正新聞印刷部  
和歌山縣海草郡黑江町百四十三番地

發行所 紀州人及其事業社  
和歌山縣海草郡紀三井寺村大字紀三井寺 一一二八番地







Joy  
1664



終